

土木學會誌第五卷第三號附錄

東京市内外交通ニ關スル調査書

土木學會
帝國鐵道協會

土木學會誌 第五卷 第三號附錄

東京市内外交通ニ關スル調査書

目 次

緒論

第一章 區域及人口

第一節 大東京區域 三

第二節 東京市及近郊區域 四

第三節 東京市内人口增加ノ豫想 五

第四節 東京市及近郊區域内人口增加ノ豫想 六

第五節 大東京區域内人口增加ノ豫想 七

第二章 高速鐵道

第一節 東京市及近郊區域ニ於ケル高速及路面交通機關ノ現狀 八

第二節 外國都市トノ對照 九

第三節 高速鐵道網ノ選定 一二

第四節 高速鐵道トシテ地下及高架ノ可否 二一

第五節 高速鐵道ノ軌間及構造 二二

第二章 近郊鐵道

第一節 既設ノ近郊鐵道 二四

第二節 將來ノ施設 二五

第四章 距離鐵道

第一節 既設遠距離鐵道 二六

第二節 聯絡線及新設線ノ選定 二七

第三節 貨物停車場 二九

第五章 路面電車

第一節 路面電車線ノ現狀.....	三五
第二節 東京市内外路面電車追加新路ノ選定.....	三七

第六章 他ノ運輸機關

四〇

第七章 道路

第一節 市内道路ノ現狀.....	四一
第二節 市内道路ノ沿革.....	四三
第三節 市内道路ノ改正.....	四五
第四節 郊外道路ノ改正.....	五二
第五節 歩車道ノ境界.....	五五
第六節 路面ノ改良.....	五六
第七節 地下埋設物並路上工作物ノ整理.....	五七
第八節 坂路並低地ノ整理.....	六〇

第八章 運河

第一節 東京市内河川ノ現狀.....	六三
第二節 現在ニ於ケル河川利用ノ狀況.....	六四
第三節 市内及隣接郡部ニ於ケル工場發展ノ趨勢.....	六五
第四節 將來ノ工場地域.....	六九
第五節 運河ノ改良並新設.....	七〇

第九章 東京築港

第一節 計畫ノ要領.....	八〇
第二節 參考記事.....	八三

第十章 公園

第一節 沿革.....	八六
第二節 東京市公園ノ現狀.....	八六
第三節 増設豫想ノ小公園.....	八九

東京市内外交通調查委員

九二

緒論

近年東京市ニ於ケル人口分布ノ趨勢ヲ察スルニ漸次市ノ中心區域ヨリ其ノ周邊及郊外ニ向テ密度ヲ加ヘ來レルモノ、如クスクシテ人口分布及移動ノ區域ハ日ヲ逐フテ著シク擴大シツ、アルヲ觀ル而シテ此ノ傾向ハ海外ノ大都市ニ於テ其ノ近郊ニ於ケル人口ノ增加率カ中央部ノ夫レニ比シテ何レモ大ナルヲ示シ益々郊外ニ擴大シツ、アルノ事實ト正ニ其ノ揆ヲ一ニセリ

抑々都會ノ大ヲ成スハ一ニ其ノ内部ニ於ケル交通機關ノ完備ニ因ル交通ノ便ニ乏シキ都會カ著シキ膨脹ヲ爲シ得サルハ既往ノ實蹟並現在ノ事實明カニ之ヲ表明スル所タリ蓋シ人ノ一地點ニ集合スルハ畢竟其ノ地點ニ關係ヲ有スル用務アルニ因ル隨テ其ノ地點ニ居住スルノ餘地ナク又往復ノ便ニ缺クル所アランカ如何ニ其ノ土地カ人心ヲ惹クノ事物ヲ有スルトモ其ノ區域ニシテ或程度マテ發達スルニ於テハ決シテ夫ン以上ニ甚シク膨脹スルモノニアラス

都市ニハ自ラ中心アリ各種ノ商業ヲ始メトシテ全部ノ都會生活ハ此ニ集中シ此ニ密接ナル關係ヲ有ス我東京市ニ在リテハ新橋ヨリ萬世橋ニ至ル大通ニ沿フ一帶ノ地區就中日本橋カ其ノ中心地タルハ市ノ發達ノ徑路ニ徵シ其ノ現狀ニ察スルモ今猶昔日ト異ル所ナシ而モ之ニ出入往復スルニ半日一日ヲ要スルノ地點ニ迄市ノ擴大ヲ見ルコトハ得テ期スヘカラサルナリ何トナレハ市民及近郊住民ノ多數ハ市ノ中心地ニ用務ヲ有シ日常此ニ往復シテ用務ヲ辨シ得ヘキ範圍ニアラサレハ都市ノ恩澤ニ浴スルコトヲ得サレハナリ故ニ都市ノ膨脹ハ市民カ或時間内ニ便宜其ノ中心地ニ出入來往シ得ヘキ程度ニ局限セラルゝモノニシテ其ノ範圍ハ實ニ内部ニ於ケル輸送機關ノ速度ニヨリテ伸縮ス即チ往時徒步時代ニ於ケル都市ハ徒步ニテ其ノ中心地區ニ來往シテ用務ヲ辨シ得ヘキ範圍ニ止マリ馬車時代ニハ其ノ範圍亦馬脚ノ速度ニ比例スルカ故ニ發達ノ範圍自ラ大ナルヲ得サリシモ電車ノ便開タルニ及シテハ異常ナル時間ノ節約トナリ之ヲ利用シ得ル範圍亦益々擴大セラルゝニ至レリ

輓近市内ノ商業中心地ニハ高層ナル家屋ノ建造盛ニシテ之カ爲大ニ居住者ヲ容ルゝノ餘地ヲ生シタルカ如キモ事實ハ

毫モ市内外ノ交通ヲ減少セサルノミナテス却テ之ヲ激増スルノ傾向アリ是レ蓋シ我國民ノ習慣性カ尙未タ此ノ如キ家屋ノ高層ニ居住スルヲ許サ、ルカ故ニ此等高層ノ家屋ハ概シテ各種ノ事務所トシテ用キラレ隨テ其ノ增加ト共ニ所謂畫間人口ヲ增大シ此等事務所ニ日勤スル郊外居住者ノ増加ニ隨テ各種交通機關ハ益々輻輳ヲ來タントスルノ結果ヲ生セリ殊ニ近年都市居住ヲ希望スル者著シク增加スルニ伴ヒ市内ニハ漸次之ヲ容ル、ノ餘地減少シ加フルニ比年一般ニ地價ノ昂騰ヲ見就中商業中心地區ニ於テ特ニ甚シキモノアルノ結果人家ハ愈々稠密ノ度ヲ加ヘテ密集生活ノ不快ヲ感セシユルノミナラス衛生上及風紀上ノ惡影響亦之ニ伴フヲ免レサルヲ以テ郊外清閑ノ地ニ居住シ以テ健全ニシテ餘裕アル生活ヲ得ントスルモノ續出スルニ至レリ而シテ官公署會社商店工場等ニ通勤シ朝ニ出テ、業務ノ人トナリ夕ニ入リテ家庭ノ人タランコトヲ要求スル者此等居住者ノ多數ヲ占ム

右ノ居住移動ハ概ネ汽車及電車ニ依リテ誘致セラレタル現象ナルモ今日已ニ覆スヘカラサル社會的趨勢ヲ形成シ市ノ外廓及郊外ノ居住者ヲシテ現存交通機關ノ消化シ得サル程度ニ増加セシメントスルノ傾向ヲ生シタリ之ヲ要スルニ將來ニ於ケル交通機關ノ施設問題ハ主トシテ此等市ノ外廓及郊外ノ居住者及新ニ居住者タラントスルモノニ對シ如何ニシテ都會生活ノ利便ヲ享有セシメ得ルカニアリ然レトモ之ニ應スヘキ交通ノ施設ハ無限ニ擴大スル都市ニ對シ克ク其ノ目的ヲ達シ得ルモノニアラサルハ勿論ニシテ將來ト雖其ノ範圍ハ上述ノ如ク寧ロ鐵道及軌道ノ輸送關係ニ依リテ自ラ定マルヘキモノナルヘシ

尙市ノ内外ニ於ケル人口ノ増加ニ伴ヒ一面ニ於テハ徒步及車上ノ交通益々繁ヲ加フルヲ以テ道路ノ改築及新設ヲ必要トスルモノ亦多々アルヘク他面消費物資モ略々人口增殖ニ比例シテ增進スルノミナラス商工業ノ發展ニ伴ヒ其ノ取扱フ材料物品モ亦益々多額ニ上ルヘク隨テ貨物ノ輸送及配給ニ關スル設備並港灣運河等ニ適當ノ施設ヲ爲シテ之ニ當ルノ必要ヲ生スヘキヤ言ヲ俟タサルナリ

要スルニ東京市今後ノ大膨脹ハ到底免ルヘカラサル趨勢ニ屬ス而モ都市ノ膨脹ハ國勢隆昌ノ兆ニシテ之カ爲行政ノ多端ヲ來タシ各種ノ施設ニ對シテ巨資ヲ要スヘキモ是レ實ニ其ノ進展ニ伴フ要費ニシテ決シテ憂フヘキニアラス今ニシ

テ膨脹發展ノ程度ヲ斷シ之ニ順應スヘキ交通機關ノ完備ヲ企畫セサルニ於テハ或ハ悞ル我帝都ノ發達ヲ阻害シ悔ヲ後世ニ貽ス所アランヲ是レ本調査會ノ率先シテ此等ノ問題ヲ講究セントスル所以ナリ

本調査會ハ帝國鐵道協會ト土木學會ト聯合ノ下ニ大正六年五月ヲ以テ組織セラレ爾來會ヲ重ヌルコト三十餘回ニシテ漸ク大體ノ調査ヲ終了シタルニ依リ茲ニ第一回ノ報告書ヲ發表シ以テ當事者ノ參考ニ供セントス尙本會ハ今後モ調査研究ヲ繼續シ他日更ニ詳細ノ報告書ヲ發表センコトヲ期ス

第一章　區域及人口

第一節　大東京區域

想定期間

凡ソ都市交通機關ノ大綱ヲ調査企畫スルニ方リテハ必ス若干年後ニ於ケル其ノ發展ノ狀態ヲ推定シテ之ニ適應セシメサルヘカラサルハ言ヲ俟タサル所ナリ茲ニ東京市ニ於ケル將來ノ交通施設ヲ考究スルニ際シ此ノ年限ヲ三十年ト定メ以テ調査ヲ進行セントス而シテ先ツ歐米都市ノ所謂「グレーター」區域ニ相當スヘキ大東京カ今後三十年間ニ何レノ地域マテ擴大スヘキカヲ稽ソルニ是ハ人口ノ增殖、產業ノ發達、交通機關ノ普及等ト相關聯シ互ニ原因結果ヲ爲シ頗ル錯綜セル問題ニシテ到底截然タル地域ヲ劃スル能ハス抑ヨ一般都市ニ於テ商業中心地點ヨリ半徑十哩ノ圓内ハ交通機關ノ相當普及ヲ得ハ概ネ其ノ何レノ部分ヨリモ中心地點ヘ一時間以内ニテ到達スルヲ得日々用務アルモノ、通勤往復ニ堪ヘ得ヘキ範圍内ニシテ事實一都市ノ區域ト見做スヲ得ヘク外國都市ノ實例ニ徵スルモ大過ナキカ如シ今試ニ我東京ニ於テ日本橋ヲ中心トシ十哩半径ヲ以テ畫キタル圈線(附圖第一號參照)ヲ辿ルニ東ハ東京府、千葉縣ノ境界タル江戸川ヲ包擁シ北ハ埼玉縣下草加、鳩ヶ谷、蕨町等ノ南ヲ掠メ西ハ北豐島、豊多摩兩郡ノ西部ヲ過リ南ハ東京府、神奈川縣ノ境界タル多摩川ヲ縫ヒ其ノ面積海面ヲ除キ約二百三十八平方哩ナリトス該圈線ハ東京市ニ隣接スル五郡ノ外廓ト近邇シ且此ノ外廓ハ主トシテ自然ノ地勢ニ順應シテ定メラレタルモノナルカ故ニ本調査ニ於テハ此ノ範圍内ヲ所謂

大東京ノ區域ト定メントス

大東京區
域内市郡
町村數及
面積
東京市面
積トノ比
較

該區域ハ東京市、荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南足立郡及南葛飾郡ノ一市五郡ニ跨リ(附圖第一號參照)十五區八十
七町村ヲ包含ス其ノ面積第一表ノ示スカ如ク實ニ百九十四平方哩五六ニシテ現在ノ東京市面積二十九平方哩四八ニ比
スレハ正ニ六倍六分トナル又之ヲ外國都市ニ對照スルニ現在ノ東京市面積ハ巴里ノ三十一平方哩ニ而シテ大東京ハ大
巴里ノ百八十一平方哩及布俄古ノ百九十九平方哩ニ略々匹敵スルヲ見ルヘシ(第八表參照)

第一表 大東京區域面積

市 郡 名	區町村數	面 積(平方哩)	市 郡 名	區町村數	面 積(平方哩)
東京市全部	十五區	二九、四八	南足立郡全部	十町村	一八、九四
荏原郡全部	十九町村	三九、七二	南葛飾郡全部	二十四町村	三六、二七
豊多摩郡全部	十四町村	二七、三九			
北豊島郡全部	二十町村	四二、七六			
	計				
	十五區八十町村				
		一九四、五六			

第二節 東京市及近郊區域

由定定
新規市
理域

現在東京市附近ノ交通機關ハ市營電車ヲ以テ主要ナルモノトシ高速機關ニ屬スル鐵道院電車之ニ次クコト後ニ詳論ス
ルカ如シ而シテ市營電車線路ノ終點ハ多ク市外ニ進出し又鐵道院電車線路ハ大部分市ノ廓外ニ敷設セラレ市内ニハ僅
ニ其ノ一小部分ノ入込メルニ過キス隨テ當時此ノ兩交通機關ヲ利用スル者ハ市民ノミニ止マラスシテ近郊區域ニ於ケ
ル多數ノ住民ヲモ包含スルノ實狀ナリ而シテ此ノ區域ハ近時發展ノ氣運顯著ニシテ漸次市内ト大ナル懸隔ナキニ至ラ
ントス本調査ハ單ニ東京市ト大東京トノ兩區域ヲ考查スルニ止ムテ可ナルカ如キモ前記ノ近郊區域ハ將來人口益々稠
密トナリ諸般ノ設備ノ如キモ亦市内ト區別スルノ必要ナキニ至ルコト論ヲ俟タサルヘン加之將來ノ施設ヲ計畫スルニ

方リ外國ニ於ケル似寄ノ都市ト對照スルハ大ニ有益ナランモ現在東京市ノ高速機關カ多ク市外ニ存在シ之カ當時ノ利用者ハ市民ノミニ止ラサルニ想到セハ東京市ノミノ現狀ヲ以テ直ニ之ヲ外國ノ類例ニ比較スルハ不穩當ナリト謂ハサルヘカラス依テ茲ニ暫ク東京市及近郊ナル一區域ヲ設ケテ比較ニ便セントス而シテ其ノ區域トシテハ東京市並附近町村中東海道線大森以南ヲ除キタル鐵道院電車線、市營電車線及王子電車線全部ノ領域ニ屬スヘキモノヲ採ラントス此ノ區域ハ東京市全部、荏原郡ノ内大森町、入新井村、大井町、品川町、大崎町、目黒村ノ四町二村、豊多摩郡ノ内代々幡町、千駄ヶ谷町、内藤新宿町、淀橋町、中野町、大久保町、落合村、戸塚町、澁谷町ノ八町一村、北豊島郡ノ内高田村、長崎村、巣鴨町、西巣鴨町、岩淵町、王子町、板橋町、瀧野川町、尾久村、日暮里町、三河島村、南千住町ノ八町四村、合計一市二十七箇町村ニ亘リ其ノ面積約六十八平方哩ニ達シ現在東京市ノ二倍三分ニ相當ス（附圖第一號參照）

第三節 東京市内人口增加ノ豫想

人口密度
及外國都
較市トノ比

明治四十二年（千九百九年）末ヨリ大正五年（千九百十六年）末ニ至ル各年ノ東京市人口ハ第二表中ニ示スカ如シ而シテ大正五年ニ於ケル其ノ密度ハ實ニ一平方哩七萬七千四百ナリトス之ヲ第八表歐米大都市ノ夫レニ比較スルニ東京市ヨリモ稠密ナルモノハ柏林ノ八萬二千九百・巴里ノ九萬三千二百アルノミ東京市ノ人口ハ今猶増加ノ傾向ナキニアラスト雖今後甚シク増加スルノ餘地ナシト信ス故ニ近郊町村カ著シク大ナル増殖ヲ來スニ反シ市内ノ増加率ハ漸次遞減シ遂ニ殆ト底止ノ狀態ニ達スルコト想像ニ難カラス依テ今後ニ於ケル密度ハ先ツ巴里ノ程度ニ止マルヘキモノトシ一平方哩ニ付九萬ト查定ス之ニ依リテ人口ヲ算出スルトキハ二百六十五萬トナル今後ニニ達スル迄毎年平等ニ増加スルモ

東京市ノ
人口豫想

ノト假定セハ第三表ニ示スカ如シ

第二表 東京市内及近郊區域ノ人口

六

市 郡 名	明治四十二年 一九〇九年	明治四十三年 一九一〇年	明治四十四年 一九一一年	大正元年 一九一二年	大正二年 一九一三年	大正三年 一九一四年
東京市全郡	一、六三、三九	一、八〇、八〇	一、九七、三三	二、〇〇、九〇	二、一〇、一〇	二、二〇、四二
荏原郡ノ内六箇町村	六、〇五	六、三一	八、八〇	九、七七	一〇、五二	一〇四、三九
豊多摩郡ノ内九箇町村	二八、〇七	二五、六六	三四、八〇	三七、三三	四八、三七	一〇三、五一
北總島郡ノ内十二箇町村	一、九七、九七	二四、五五	二、二三、三五	二、三九、三九	二、五八、三九	二、七〇、八〇
計 一市二十七箇町村	一、九七、九七	二、二三、三五	二、三九、三九	二、四九、八九	二、七〇、八〇	二、八六、七六

第四節 東京市及近郊區域内人口增加ノ豫想

東京市及近郊區域ニ於ケル人口數年間ノ統計ハ第二表ニ示スカ如シ之ヲ見ルニ東京市ノ人口増加率ハ多ク近郊各郡ニ及ハス隨テ東京市ハ漸次飽和ノ状態ニ近ツキツ。アルニ反シ近郊ハ今後發達ノ氣勢顯著ナルヲ證スルニ足ルヘシ今此ノ範圍内ニ於ケル將來ノ人口ヲトスルニ方ソ全區域ノ平均増加率ニ依リテノミ推定スルハ穩當ナラス市内ト近郊トヲ區分シ各部ニ就キ將來ニ於ケル極限密度ヲ想定シ以テ人口ヲ算出スル方實際ニ近カルヘシト思惟ス該區域中東京市ヲ除キタル部分即チ近郊ノ密度ハ大正五年末ニ在リテ一平方哩ニ付平均約一萬四千ニシテ南千住町ノ約四萬六千ヲ最大トス而モ三十年後ノ將來ニ於ケル近郊ノ平均密度ハ現在ノ最大密度ヲ凌駆スヘキコト想像ニ難カラス尙現在東京市内人口ノ最モ稀薄ナル麴町、赤坂兩區ヲ除キ之ニ次ク深川、芝、本郷、麻布等各區ノ密度六萬内外ナルノ事實ヲ參酌考量シ將來ノ密度ヲ近郊ハ平均五萬、市内ハ既述ノ如ク九萬ト推定セントス之ニ依リテ算出スレハ總人口ハ四百五十八萬、全區域内平均密度ハ約六萬七千トナル即チ此等カ前節ト同様ニ今後毎年平等ニ増加スルトセハ第三表ノ示ス所ノ

東京市及
近郊區域
内人口增
加豫想

如シ

大東京ノ
人口增加
豫想

大東京區域内ノ各年人口ハ第五表ノ示ス所ノ如シ今假ニ人口カ第三表ニ示スカ如ク今後毎年平等ニ増加スルモノトシテ三十年後ヲ豫想スルニ實ニ七百四十九萬トナリ大正五年末ノ人口ニ比スレハ二倍四分ニ相當ス(第三表參照)而シテ全區域ノ平均密度ハ三萬八千トナルモ南内ヲ九萬、近郊ヲ五萬トセハ殘餘ノ町村ハ二萬三千トナル之ヲ大正五年末ノ密度二千七百ニ比スルニ甚シキ増加トナリ一見過當ノ感ナキニアラサルモ此ノ豫想ハ過去八年間ノ統計ノ明示スル傾向ニ據リタルノミナラス歐米都市中八日カ三十年間ニ倍加セル實例ナキニアラサルト(第四表參照)二萬三千ノ密度ハ必シモ實現シ難キ程度ニアラサルヘキトヲ思ヒ以下調査ヲ進ムルニ方リ其ノ基礎ヲ此ノ數字ニ置カントス

第五節 大東京區域内人口增加ノ豫想

第五表 大東京區域内ノ人口

年次	南郡	東京市全部	荏原郡全部	豊多摩郡全部	北豐島郡全部	南足立郡全部	南葛飾郡全部	計
明治一四年	一、四九〇	一、五三、五九	二六、八五	一、三三、三六	一、四二、三五	三、一七	一〇七、七六	一一、一〇一、四九五
明治一九年	一、四九一	一、八〇五、八〇	二五、三一	一、四一、一五	一、四七、三九	四、一六	一〇八、〇四	一一、三八〇、七四〇
明治一九二一年	一、四九二	一、九〇七、五三	一六、六八	一、五四、九九	一、三三、九四	五、八三	一一六、五六	一二、五五一、一〇一
明治一九二二年	一、四九三	二、〇九五、六〇	二五、三〇	一、五九、四三	一、三三、九四	六、一四	一一三、一八七	一二、六九七、三〇一
明治一九二三年	一、四九四	二、一〇三、三〇	二五、四三	一、六一、〇九	一、三三、九四	七、一五	一一三、一九九	一二、七七八、九八七
明治一九二四年	一、四九五	二、一〇六、三〇	二六、二五	一、六一、〇九	一、三七、五九	八、一五	一一三、一九九	一二、八九一、四九五
明治一九二五年	一、四九六	二、一〇九、三〇	二六、二五	一、六一、〇九	一、三九、五九	九、一五	一一〇、五九	一二、〇五五、九四六
明治一九二六年	一、四九七	二、一一二、三〇	二六、二五	一、六一、〇九	一、三九、五九	一〇、一五	一一〇、五〇	一二、一五〇、〇〇〇

第二章 高速鐵道

第一節 東京市及近郊區域ニ於ケル高速及路面交通機關ノ現狀

現今東京市及近郊區域ニ於ケル交通機關ハ市營電車線及鐵道院線ヲ主ナルモノトシ私設電氣鐵道、輕便鐵道之ニ次ク延長面鐵道ノ

其ノ他小運輸機關トシテハ人力車、自働車、川船等アリ、以下攻究セントスル高速交通機關ハ路面交通機關ト密接ナル關係ヲ有シ全然分離シテ考察シ得ヘキニアラサルヲ以テ暫ク高速及路面兩機關ヲ併セ考查スル所アラントス

目下高速交通機關トシテハ鐵道院電車線アルノミニシテ其ノ東京市及近郊區域ニ屬スルモノハ東海道線大森以南ヲ除キタル電車運轉區間全部ナリ又路面交通機關トシテハ市營電車線及王子電車線アリテ全部東京市及近郊區域内ニ存在ス今左ニ各鐵道ノ軌道延長(線路延長ヲ單線延長ニ換算シタルモノ)ヲ示サシ

第六表 東京市及近郊區域高速及路面交通機關延長(大正六年度現在)

高 速 鐵 道	路 面 軌 道
線 名 及 區 間	軌 道 延 長(哩)
東海道線東京大森間山手線品川赤羽池袋田端間東北線田端上野間 中央線萬世橋中野間	六 七、四
市營電車線全部及王子電車線全部	一七五、六八

人口及面積ト高鐵道ノ面積及路面面積ノ道延長トノ關係ノ關係ヲ算出ノ

之ニ依リ東京市及近郊區域ニ於ケル大正六年末人口二百九十四萬三千四百六十九及面積六十八平方哩トノ關係ヲ算出スルニ人口百萬ニ對シ高速鐵道二十二哩八、路面軌道五十九哩八計八十二哩六ニシテ面積一平方哩ニ對シ高速鐵道一哩路面軌道二哩六計三哩六トナル

次ニ東京市及近郊區域ニ於ケル高速鐵道及路面軌道ノ乘客數ヲ舉クレハ左ノ如シ

高速及路面鐵道ノ

第七表 東京市及近郊區域ニ於ケル高速鐵道及路面軌道乗客數

年 度	鐵 道 院 電 車	市營電車及王子電車
明治四十一年〇年	一、二、七三三、七一二	一八七、六一六、八六九
明治四十九年	一、六、五一七、六三八	二〇七、四四六、五〇八
正九年	一、八、九九一、九二八	二二五、九三五、一六九
正九年	一、九、六九八、六六四	二四七、一七二、四八〇
正九年	一、九、三九七、二八〇	二五九、一四一、三六三
正九年	一、一、三五一、五五三	二六四、〇一六、八〇四
正九年	一、七、七四六、五三五	二六五、四一四、六二五
正九年	一、三三、五九七、八九五	二九九、七一六、四二七

人口一人
當り乘車
回数

試ニ乗客數ヲ人口ニ對照スルニ大正六年度ニ於ケル人口一人當り乗車回數高速鐵道十一回路面軌道百二回計百十二回トナル

第一節 外國都市トノ對照

東京市及近郊區域ニ於ケル交通機關ノ狀態ハ前節ニ述ヘタルカ如シ而シテ現今ノ住民ニ對シ交通機關ノ不充分ナルハ乗客混雜ノ狀況ニ徵シ自ラ明瞭ナリト雖今少シク外國都市ニ於ケル交通機關ノ普及並利用ノ程度ヲ調査シ左ニ比較研究ヲ試ミントス

即チ第八表及第九表ハ各著名都市ト東京トノ統計ヲ併セ記載セルモノニシテ以下比較ヲ爲スニ倍數ヲ以テセルハ特ニ記載アルモノ、外東京市近郊區域ニ於ケルモノニ對スル倍數ナリトス

(イ) 人口百萬ニ對スル軌道延長

外國都市
トノ對照

林及大「ボストン」ハ割合ニ多大ナラサルモ此等ハ所謂「グレーター」區域ニ屬スルヲ以テ比較ヲ爲スニ適セス

(ロ) 路面軌道 巴里一倍六分、柏林一倍八分、紐育市三倍五分、市俄古六倍二分

倫敦府ハ東京ヨリ稍々多キニ過キサルモ第九表ニ示ス如ク蒸氣鐵道ヲ利用スル近郊旅行者甚タ多ク且乗合自動シキ乗客ヲ運搬スルカ故ニ比較ヲ爲スニ適セス

(ハ) 高速鐵道及路面軌道合計 巴里一倍六分、柏林一倍七分、紐育市三倍四分、市俄古五倍三分

倫敦府及大倫敦ハ前記ノ理由ニ依リ比較スヘカラズ

(II) 面積一平方哩ニ對スル軌道延長ノ比較

(イ) 高速鐵道 紐育市一倍三分、倫敦府一倍七分、柏林二倍七分、巴里三倍六分

其ノ他ハ東京ヨリ下位ニアリト雖市俄古ノ如キハ頗ル大ナル面積ヲ有シ他ハ皆所謂「グレーター」區域ニ屬スルヲ以テ比較ヲ爲スニ適セス

(ロ) 路面軌道 紐育市一倍五分、市俄古一倍九分、巴里及柏林各三倍四分

倫敦府及大倫敦ハ東京ニ及ハサルモ比較ヲ爲スニ不適當ナルコト前述ノ如シ其ノ他大巴里、大柏林及大「ボストン」ノ如キ「グレーター」區域ニ屬スルモノニテモ尙一倍五分乃至二倍一分ニ達ス

(ハ) 高速鐵道及路面軌道合計 紐育市一倍四分、市俄古一倍六分、柏林三倍二分、巴里三倍四分

倫敦府及大倫敦ハ之ヲ論外トシ大巴里、大柏林及大「ボストン」ノ如キ「グレーター」區域ニテモ尙一倍三分ヲ算ス

(III) 人口一人當リ一年乘車回數ノ比較

(イ) 高速鐵道 五倍五分乃至十四倍三分

(ロ) 路面軌道 大倫敦、倫敦、大巴里ニ比シ大差ナキモ其ノ他ハ一倍五分乃至二倍六分ナリ

(ハ) 高速鐵道及路面軌道合計 倫敦及「グレーター」區域ニ屬スルモノヲ計上スルモ一倍五分乃至三倍ナリ

(二) 高速路面及蒸氣鐵道合計 「グレーター」區域ニ屬スルモノヲ計上スルモ二倍六分乃至三倍四分ナリ

乗車回數
少キ理由

此ノ如ク東京ノ乗車回數甚タ僅少ナル理由ヲ考フルニ東京ニテハ外國都市ノ如ク住宅ト店舗事務所トヲ分ツモノ多カ
ラス朝夕ノ通勤者ハ官公吏、會社員、學生、若干ノ労働者及大商店員ニ過キシテ一般商店員ハ該店舗ニ起居スルモ
ノ多キコト又婦人外出ノ數頗ル少ナキ習慣ナル等多少民情ヲ異ニスルモノアル所以ナルヘシ然レトモ此ノ回數ノ漸次
増加スヘキハ爭フヘカラサル所ナリト信ス

(IV) 高速鐵道ト路面軌道延長割合並乗客數割合

高速路面軌道延長ハ高速一二對シ路面二、六ノ比ナルニ乗客ハ高速一二對シ路面八、九ノ比ナリ之
ヲ第十表ニ於ケル外國都市ノ實例ニ比較スルニ大ニ趣ヲ異ニスルヲ發見スヘシ即チ外國ニ於テハ高速鐵道カ延長ノ割
合ニ比較的多數ノ乗客ヲ運搬スルニ反シ東京ニ於テ路面電車即チ市營電車カ過當ノ乗客ヲ運搬シツ、アルノ事實ハ大

ニ注目ニ値スヘシ

第十表 高速鐵道及路面軌道ノ割合

都 市		高速 フートセル 路面ノ割合	乘 客 數	都 市		高速 フートセル 路面ノ割合	乘 客 數
延	長			延	長		
大 倫	敦 倫	二、二	一、八	伯 紐	育 林	三、二	一、〇
大 巴	敦 巴	一、四	一、二	俄 古	市 市	五、九	二、六
大 伯	林 里	九、〇	一、〇	及 近	及 近	八、九	三、八
都 市	都 市	五、二	二、四	都 市	都 市	二、四	一、〇

(V) 軌道延長ト乗客數トノ割合

同一都市ニ在リテモ各線ノ乗客數均等ナラサルハ勿論ナルモ試ニ各都市ニ於ケル軌道延長一哩ニ對スル乗客數ヲ舉ク

レハ第十一表ノ如クニシテ之ヲ東京市及近郊區域ノ高速ニ於ケル五十萬一千、路面ニ於ケル百七十萬三千ニ對照スルニ東京ニ在リテハ高速ハ外國都市ノ孰レヨリモ遙ニ少ク路面軌道ハ其ノ最大ナルモノヲモ凌駕セントシツ・アルヲ見ルヘシ

第十一表 軌道延長一哩ニ對スル乗客數

都 市	高 速 鐵 道	路 面 軌 道	都 市	高 速 鐵 道	路 面 軌 道
大 倫 敦 敦 府	一、四四〇、五六九	一、二一八、六五一	紐 育 市	二、一七三、三〇二	七五一、八四三
大 倫 敦 敦 府	二、一八二、四六三	一、七七三、八八五	紐 育 市	一、三一九、二一〇	七八三、〇〇二
大 伦 敦 敦 府	四、〇〇〇、九九三	四四一、三一八	紐 育 市	七二四、四六八	七〇二、九三四
大 伦 敦 敦 府	四、〇〇〇、九九三	一、二二七三、八五〇	東 京 市 及 近 郊	一、一二五、一五二	一、七〇二、九三四
大 伦 敦 敦 府	二、八〇四、九一五	五〇一、四六一	東 京 市 及 近 郊	一、一二五、一五二	一、七〇二、九三四

此ノ如クシテ各方面ヨリ對照シ來レハ東京市及近郊區域交通機關ノ現狀ハ多クノ外國都市ノ夫レニ及ハサルコト(I)及(II)ニテ瞭然タルヘク將來ノ施設ヲ企畫スルニ方リテハ此等實例ヲ酌量シ且(III)ニ述ヘタル如ク國情ヲ異ニスル爲メ乗車回數少キコト及將來漸次增大スヘキ傾向アルコト等ヲ考慮スルノ要アリトス又現在ノ高速鐵道ハ大部分環狀線ナルニヨリ充分ニ其ノ能力ヲ發揮スルコト能ハス之ニ反シ放射線狀ノ高速鐵道充分存在セサルカ爲市營電車ハ一部高速鐵道ノ代用ヲ爲シダヨアリテ其ノ線路ノ大部分ニ亘リ日々乗客密集シ混雜ヲ極ムルノ事實ハ(IV)及(V)ニ反映シ來レルモノナリ以テ高速鐵道ノ敷設ハ既ニ刻下ノ急務ナルヲ知ルニ足ルヘシ

第三節 高速鐵道網ノ選定

高速鐵道
要件
ナ
ル
條
件

(I) 將來ニ於ケル高速鐵道網ハ次ノ條件ニ適合スル様選定セサルヘカラス
高速鐵道ハ都市ノ周園ヨリ其ノ中心地ニ集中スルヲ要ス

(II) 高速鐵道ハ努メテ市ノ中心地ヲ貫通シ以テ所謂「スルー、ルート」ヲ構成スルヲ要ス

(III) 高速鐵道ニ於テハ各線相互ノ連絡ハ勿論他ノ幹線鐵道、近郊鐵道及路面軌道トノ連絡モ亦遺憾ナキヲ要ス而シテ路面軌道トハ特ニ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ停留場ハ之ヲ同一場所ニ設クルカ若ハ努メテ相近接セシムルヲ要スト

(IV) 都市ノ周圍ニ集合スル近郊鐵道ハ將來市ノ發展ニ伴ヒ高速ト爲スノ必要ヲ生スルモノアルヘシ此等ニハ容易ニ高速鐵道ニ變更シ得ルノ用意ナカルヘカラス

各電車線
乗客系統
要調査ノ必
要
高速鐵道
網選定ニ
資料セル參
考材料

如上ノ各條件ニ適應スル様本市内外高速鐵道網ヲ選定セントスルニ方リ最モ望マシキハ現今市民交通ノ大勢ヲ見ルヘキ系統調査ナリ現今市營電車ハ前ニ述ヘタル如ク近距離ノ交通ノミナラス比較的長距離輸送ヲモ爲スカ故ニ大ニ高速機關ノ性質ヲモ帶フト謂フヲ得ヘク市營電車乗客ノ系統ヲ知ルコトハ高速鐵道網選定上其ノ利益渺少ナラサルヘシ然ルニ直ニ之カ實查ヲ遂行センコトハ容易ノ業ニ非ス仍テ本會ハ比較的容易ナル調査ヲ行ヒ又蒐集シ得タル資料ニ依リ

東京市營電車大正六年度中重要地點一日平均電車乘客通過人員表(第十二表)同一覽圖(附圖第二號)及大正六年度中鐵道院電車運轉區間各驛(除蒲田櫻木町間)相互發着一覽圖(附圖第三號)ヲ作製シ以テ聊カ參考ニ資シ専ラ現在交通ノ大局ニ鑑ミ將來發展ノ趨勢ヲ考察シ茲ニ前掲ノ各條件及本市ノ地勢ニ適合スヘキ高速鐵道網ヲ選定セリ左記第十四表並附圖第一號及第四號ニ示スモノ即チ之ナリ而シテ各線路ハ全部複線ノ計畫ナリトス

本表ニ列舉セル各線路ヲ通覽スルトキハ高速鐵道トシテ必要ナル各條件ヲ具備スルヲ認メ得ヘシ今試ミニ其ノ徑路カ果シテ市營電車ニ於ケル乗客運行目下ノ大勢ト合致スルヤ否ヤヲ檢セントス該運行ノ狀態ハ附圖第二號ニ示ス如クナルモ更ニ乗客數ノ多寡ニ應シ左ノ如ク分類セリ

第十二表ノ一

東京市内重要地點一日平均電車乗客通過人員表

輸送狀態一覽

大正六年度(自大正六年四月)~箇年平均 ポギー車系統

運轉系統	調査場所	方 向	日 平均客數	平均通過車數	壹車平均客數
品川上浅草間循環	伊皿子	南北 行	19,504 554	555	35.2
同		南北 行	20,053	555	36.1
同	三越吳服店前	南北 行	50,001	1,144	43.7
同		南北 行	49,154	1,146	42.9
同	萬世橋舊大時計下	南北 行	37,670	762	49.4
同	茅町	南北 行	39,007	771	50.6
同		南北 行	30,936	740	41.8
雷門南千住間往復	山之宿	雷門 千住 行	15,549	366	42.5
千住大橋人形町間往復	車坂舊車庫前	千住人形町 行	15,082	366	41.2
同	松永町	千住人形町 行	22,098	547	40.4
角筈萬世橋間往復	築土八幡前	千住大橋 行	20,373	546	37.3
江東橋江戸川橋間往復	兩國東詰	千住大橋 行	20,646	485	42.6
同	築土八幡前	飯田橋 行	19,287	484	39.8
同	江東橋江戸川橋間往復	角筈 行	17,053	393	43.4
同	築土八幡前	角筈 行	17,014	393	43.3
同	兩國東詰	江戸川橋 行	24,301	476	51.1
同	築土八幡前	江戸川橋 行	23,303	474	49.2
巢鴨三田間往復	九段方面	江戸川橋 行	12,863	402	32.0
同	築土八幡前	江戸川橋 行	12,843	403	31.9
同	九段方面	江戸川橋 行	10,520	538	19.6
同	築土八幡前	江戸川橋 行	9,506	537	17.7
同	壹岐坂下	南北 行	19,658	437	45.0
同		南北 行	18,978	433	43.8
同	大學赤門前	南北 行	16,458	406	40.5
同	神田橋北詰	南北 行	16,903	412	41.0
同	增上寺前	南北 行	36,752	828	44.4
			34,855	828	42.1
			14,286	413	43.6
			16,847	413	40.8

第十二表ノ二

東京市内重要地點一日平均電車乗客通過人員表

輸送状態一覽

大正六年度(自大正六年四月)一箇年平均 單車系統

運轉系統	調査場所	方 向	日平均客數	平均通過車數	壹車平均客
四谷駒込町金杉橋間往復	青山壹丁目	四谷鹽町行 金杉橋行	6,284 6,197	318 317	19.8 19.5
同	麻布中ノ橋	吉川橋行 金杉橋行	19,625 20,180	747 748	26.3 27.0
目黒、金杉橋間往復	魚籃坂下	目黒行 金杉橋行	7,280 7,484	319 319	22.8 23.5
(1) 三橋、勁坂間往復	上野東照宮下	南北行	12,400 12,165	426 426	29.1 28.6
中澁谷築地、淺草、築地、兩國、廻	一ツ木坂	往復	22,462 21,528 24,306	761 756 854	29.5 28.5 28.5
中澁谷、新宿 同	參謀本部前	往復	21,446	837	25.6
同	蠣殼町	兩國方面行 築地方面行	19,734 19,790	675 661	29.2 29.9
新宿築地、淺草、築地、兩國、廻	傳馬町一丁目	往復	22,164 21,547 20,293	802 798 681	27.6 27.0 29.8
中澁谷、新宿 同	九段田安橋	往復	21,351	694	30.8
外濠循環線	葵橋	内外迴	13,321 13,629	571 574	23.3 23.7
同	錦町三丁目	内外迴	6,802 6,665	289 290	23.5 23.0
札ノ辻築地間往復	西久保巴町	札辻地行	9,978 10,602	368 364	27.1 29.1
青山宇田川町間往復	三河臺町	青山六丁目行 同宇田川町行	9,457 9,648	445 445	21.3 21.7
押上大手町間往復	石原郵便局前	押上行	17,982	622	28.9
大手町押上間往復	茅場町派出所前	深川方面行	19,045	620	30.7
大塚駒橋間往復	傳通院前	本郷方面行	17,659 17,091	647 641	27.3 26.7
大江戸川橋駒橋間往復	切通坂	大塚駒橋行	23,412 24,858	905 903	25.9 27.5
江戸川橋駒橋間往復	安藤坂	本郷方面行 江戸川橋行	7,790 7,505	294 295	26.5 25.4

(1) 上野東照宮下ハ大正六年八月以降ノ平均ナリ

第十三表 市營電車乗客通過數ニ依ル運轉區間分類表

												區間	一日平均通過乘客數	
												一〇〇、〇〇〇内外		
鹽神目大飯 田 町橋黒曲倉 霞駿古傳六 河 川通本 臺 町下橋院木 間間間間間	白神動九赤 坂 谷 坂 見 山町 段附 線 巢巴 大虎 鳴町 間間	坂 見 山町 段附 線 大虎 千學 校 曲門 間間	日雷本飯春外水 郷 比 三田日手道 丁 谷門目町町橋 三南高角同龜春 等 千學 心澤日 校 田住前筈町町 間間間間間間	茅人古九四日日本 郷 塙形川段 本比三 丁 町町橋坂谷橋谷目 水千赤品新永青上 野廣小 天羽三 川代 天宮 前住橋田宿橋山路 間間間間間間間間	雨淺 國草 橋橋 龜雷 澤 町門 間間	小萬 川世 町橋 大上 手 町野 間間	日本 橋 通 リ					七〇、〇〇〇—八〇、〇〇〇 六〇、〇〇〇内外		
														一〇〇、〇〇〇—一〇〇、〇〇〇 一一〇、〇〇〇—一一〇、〇〇〇

第十三表ノ分類ハ現在ノ狀況ヲ基礎トセルモノニシテ將來幾分ノ變遷アルヲ免レサルモ大體ニ於テハ各區間乗客數相互ノ比ニハ甚シキ異動ヲ生セサルカ如シ之ヲ如上ノ選定高速鐵道線路ト對照スルニ其ノ大部分ハ本表中乗客四萬以上ノ區間又ハ其ノ附近ヲ通過シ四萬以下ノモノニ在リテモ高速鐵道ノ恩澤ヲ享クヘキ系路ニ當ルモノアリ只四萬以上ノ區間ニシテ高速鐵道ノ勢力ノ及ハサルモノ若干アルモ此等ハ市營電車特許未設線ノ完成ニヨリ救濟セラル、見込アルモノナリトス以上計畫セル高速鐵道線路ハ市ノ周圍ヨリ中心ニ向ヒ集中セシメ以テ朝夕ノ込合時ニ於テモ多數ノ乗客ヲ遺憾ナク運搬スルニ足ルヘシト思考ス

市外ノ高
速鐵道

市外ト雖高速鐵道ノ要アルハ多言ヲ要セサル所ニシテ第十四表ノ末尾ニ之カ數線ヲ舉ケタルハ此ノ要求ニ副フモノトス此等高速鐵道ハ總テ鐵道院線電車運轉區間ノ延長ニ過キヌシテ稍シ少キニ失スルノ感ナキニアラサルモ第八表ニ示スカ如ク外國都市ニ於テモ市外ニ於ケル高速鐵道ノ延長ハ甚タ多カラサルヲ常トス是レ高速鐵道ノ必要ハ市内ニ於ケルカ如ク切實ナラサルヲ以テ市外ノ交通ハ多ク路面軌道ト近郊鐵道トニ依ルニ外ナラサルヘシ只右ノ要求ニ適應スベキ設備ニ關シテハ第三章ニ於テ詳論スル所アルヘク畢竟此等近郊鐵道ト雖將來沿線地域發達ノ緩急ニ應シ市内高速交通機關ト大差ナキ迄ニ之ヲ改良進歩セシムヘキコト言ヲ費スノ要ナカラン

環狀線必
要ノ有無

外國都市
比較

以上選定セル高速鐵道線路ハ孰レモ市ノ中心地ヨリ發スル放射狀線ナルカ現今ノ山手線以外ニ尙他ノ環狀線ヲ要スル機連到來スルコト亦想像ニ難カラス然レトモ現今ニ於ケル山手線及市營電車外濠線カ比較的乗客多カラサルノ事實ニ徵スレハ先ツ以テ放射狀線ノ完成ヲ期シ環狀線ノ建設ハ之ヲ想定期間後ニ讓ルモ敢テ遲キニアラサルハ明瞭ニシテ其ノ時期ニ到達スル迄ハ環狀線利用者ヲシテ暫ク市外路面軌道ニ依ラシムルモ甚シキ差支ナシト思惟ス

尙進シテ三十年後ニ於ケル人口及面積ト市内外鐵道延長トノ關係カ事情類似セル外國都市ノ夫レニ比シ果シテ甚シキ懸隔アリヤ否ヤヲ檢スルコト敢テ不要ノ業ナラサルヘシ之ニ就テハ高速路面兩鐵道ヲ一括シテ比較スルノ要アルカ故ニ本市高速鐵道ハ現在運轉中ノモノ及第十四表ニ舉ケタルモノヲ採リ路面軌道ハ第七章ニ述フルカ如ク東京市及其ノ

附近ニ於ケル特許線及新計畫線並大東京圈内ノ幅員十間以上ノ道路ニシテ市外ニ在ルモノニ全部複線電氣軌道カ敷設セラル、モノト見做シ此ノ假定ニ依リ東京市、東京市及近郊並大東京ノ三區域ニ於ケル現在及將來ノ軌道延長ヲ示セ。

ハ第十五表ノ如シ

第十五表 東京市内外高速鐵道及路面軌道延長表

區域		高速鐵道延長(哩)		路面軌道延長(哩)		計	
東京市 及近郊 市	既設	未設		既設	未設	計	
		六九、八	六九、〇			市營電車	市營電車
大東京	七五、六	一一一、五	一八七、一	王子電車及 市營電車	一七五、七	市營電車及 王子電車	市營電車
				同上新計畫 市營及王子電車特許 計	同上新計畫 市營及王子電車特許 計	同上新計畫 市營及王子電車特許 計	同上新計畫 市營及王子電車特許 計
				十間道路 上電車	十間道路 上電車	十間道路 上電車	十間道路 上電車
				四一四、四 五三七、七 四二九、一 七一三、四	三六、二 八七、一 一三〇、一 四一四、四	二六二、八 三六、二 二〇四、九 二二八、六	二六二、八 三六、二 二〇四、九 二二八、六

東京ニ於
ケル高速
及路面軌
道長ノ標準

上述ノ比較ヲ爲サントスルニハ人口、面積、密度等ニ於テ東京ト成ルヘク近似スルノミナラス四園ノ状況稍々等シキモノヲ選ハサルヘカラス倫敦ハ交通ノ状態大ニ趣ヲ異ニスル點ニ於テ又紐育市及市俄古ハ其ノ面積大ナル點ニ於テ孰レモ東京ト對照スルニ適當ナラサルコト既ニ述ヘタルカ如シ只巴里及柏林ハ酷似ノ點多ク比較ニ適スルヲ以テ之ヲ選ハントス而シテ兩都市ノ高速及路面ノ軌道延長ヨリ推算シ我東京市ニ在リテハ人口百萬ニ對シ高速四十哩路面百哩又面積一平方哩ニ對シ高速四哩路面十哩ノ標準ヲ採用スルヲ適當トスルカ如シ又大東京ノ人口ハ大巴里及大柏林兩都市ト伯仲ノ間ニ在ルモ密度ハ大東京ノ方遙ニ多キカ故ニ此ノ點ヲ參酌シ人口百萬ニ對シ高速三十哩路面百五十哩又面積一平方哩ニ對シ高速一哩二分路面六哩ヲ標準トセハ可ナランカ然ルニ尙茲ニ考フヘキハ本邦住民ノ乗車回數カ年々増

將來ニ於
ケル人口
一人當り
乗車回數

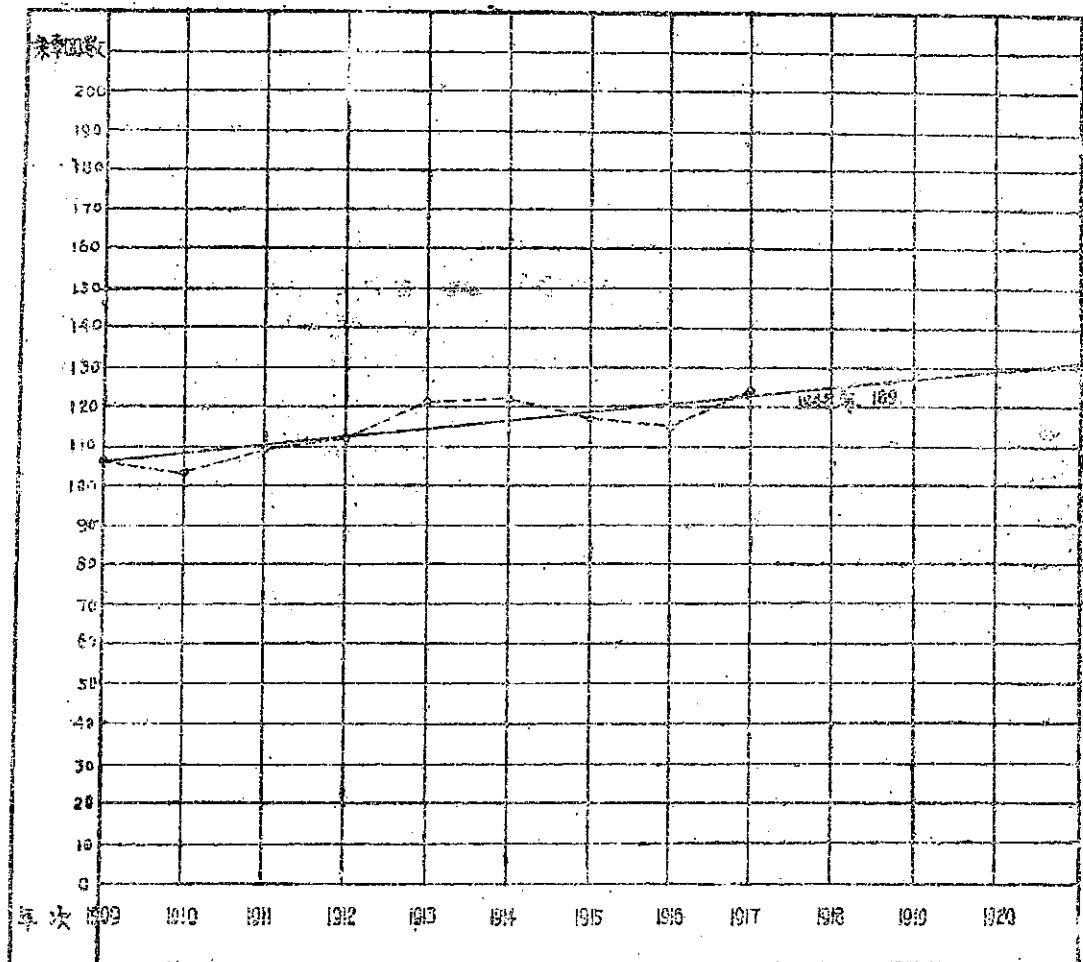
加ノ傾向アリトスルモ現今外國都市ノ夫レニ比シ甚シク遜色アルコト是ナリ若シ夫レ三十年後ノ將來ト雖此ノ數字カ尙未タ巴里伯林兩都市ニ及ハストセハ所要線路ノ延長亦隨テ影響ヲ受クヘキ理ナリ借東京市ノ主要交通機關タル市營電車ヲ利用スル乗客ノ人口一人當リ乗車回數カ第十六表ニ示スカ如ク年々遞増スルモノトセハ三十年後ニハ百八十九回トナルヲ以テ高速鐵道及路面軌道ノ乘車回數合計カ二百(現今ノ約二倍)ヲ超過スルコトハ敢テ異トスルニ足ラサルヘン倫敦ハ比較的住民ノ外出少キ都市柄ナルニ拘ラス其ノ乘車回數ハ十年間ニ倍加セルノ事實ニ據ルモ右ノ數字ハ敢テ過多ナラサルヘシ仍テ假リニ之ヲ二百トセハ第九表歐米各都市平均乘車回數ノ約八割ニ相當スルカ故ニ曩ニ舉ケタル所要標準延長ノ約八割ヲ敷設セハ充分ナリトノ結論ニ到達スヘシ即チ此ノ新標準ヲ適用シ尙東京市及近郊區域ニハ東京市ヨリ稍粗ニシテ大東京ヨリ密ナル鐵道網ヲ要スヘキ理ナルカ故ニ之ニ對シテハ東京市及大東京ノ平均ヲ採り更ニ人口百萬人當リノ延長ト面積一平方哩當リ延長トノ平均ヲ採リ之ヲ各面積及人口ニ對シ算出セハ東京市高速九十九哩、路面二百二十五哩、東京市及近郊區域高速百三十五哩、路面四百五十哩、又大東京高速百八十五哩、路面九百二十哩ヲ要スルコト、ナルヘシ仍テ試ニ此等ノ數字ヲ第十五表ト對照スルニ高速ハ其ノ延長甚タ近似スルヲ發見スヘク路面ニ至リテハ市内ハ相近似スルモ市外ハ計畫尙不充分ナルノ感アリ然レトモ後章ニ述フルカ如ク郊外ニ於ケル路面軌道ハ郊外發展ニ伴ヒ漸次增設スルモ遲キニ失セサルヘシ之ヲ要スルニ右ノ見地ヨリスルモ選定高速線路ハ其ノ總延長ニ於テ必シモ失當ナラスト謂フヲ得ヘキ力

高速鐵道
起工ノ急務

叙上ノ如ク將來ニ要スル高速鐵道ノ選定ヲ爲セルカ此等ノ線路ハ徐々ニ其ノ工ヲ進メ想定期間三十年ノ後ニ於テ漸ク之カ敷設ヲ結了スルヲ以テ滿足スヘシト謂フニアラスシテ當時其ノ普及ノ程度ヲシテ市ノ發展ニ適應セシメサルヘカラサルハ勿論ナリトス尙現在東京市民ノ乘車回數ヲ假リニ伯林及巴里ノ二分ノ一トスルモ東京市及近郊區域ニ於テスラ高速ハ現ニ約二十哩ノ増設ヲ要スルノ計算ナルヲ見レハ今日高速鐵道ノ起工ハ眞ニ一日タリトモ猶豫シ難キモノナ

(第十六表)

東京市人口一人當り一年市電乗車回數



第四節 高速鐵道トシテ地下及高架ノ可否

高速鐵道トシテ地下又ハ高架ノ何レヲ選擇スヘキヤハ從來屢々論究セラレタル問題ニシテ各々利害得失アルヲ免レス
高架ハ多ク地下ヨリ工事費低廉ナル點ニ於テ優レリトス而シテ從來最モ廣ク採用セラレタルモノハ鋼鐵構造ニシテ市
街ノ美觀ヲ損シ喧騒嫌厭スヘク街路ノ採光ヲ妨ケ車馬ノ往來ヲ困難ナラシムルハ其ノ大ナル缺點トル所ナリ加之街
路上ニ之ヲ設クルニハ多クノ場合家屋ヲ取拂ヒテ道路ノ擴張ヲ要シ之カ爲市民ノ被ル不便損害鮮カラサルモノアリ他
ノ形式トシテ現今東京市内高架線ニ採用セラレタル煉瓦拱若ハ鐵筋混泥土拱ノ如キ又ハ紐育ノ「ブルーバー」ニ採
用セラレタル特種構造ノ鐵筋混泥土拱ニシテ下層道路面ヲ路面電車ノ運轉ニ充用スルモノ、如キ之ナリ此等ハ幾分騒
音ヲ減殺スルノ長所アルモ其ノ他ノ缺點ハ到底免ル、能ハス尙高架ノ不利ナル點トシテ舉クヘキハ高架鐵道線路カ相
互交叉シ又ハ高速鐵道線路カ遠距離蒸氣列車用高架線ヲ横斷スル場合ニ生スル乘越交叉ノ容易ナラサルコト之ナリ况
シヤ交叉點ニ停車場ヲ設ケントスル場合ノ如キ益々工事ニ困難ヲ加ヘ附近住民ニ與フル打擊甚シキニ於テオヤ
之ニ反シ地下鐵道ノ缺點トル所ハ第一ニ工事費ノ高價ナルコト之ナリ第十七表ニ示シタル工事費比較ハ紐育市ノ一
例ニ過キ又近時鋼鐵材料價格ノ激變甚シク且東京市附近ノ地質ハ多様ナル爲今直ニ明確ナル工事費ノ比較ヲナシ難
キモ地下ノ方尙高價ナルハ蓋シ否ミ難カルヘシ

第十七表 紐育市高架及地下鐵道工事費比較表

構	造	摘要	要
高架	高架(開床)		
地下	架(閉床)		
二、四乃至四〇	一、六〇		
	紐育市ニ於テ初メテ高架ニ鋼鐵構造採用ノ際比較 セルモノナリ		

高架鐵道
ノ得失

高架鋼鐵構造(開床)

高架鋼鐵構造ニ裝飾ヲ加ヘタルモノ(開床)

一、〇

一、六

紐育市「クヰーンス、ブルバール」ニ鐵筋混凝土
拱採用ノ際比較セルモノナリ

一、八

高架鐵筋コンクリート拱

三、〇乃至四、〇

地 下

次ニ高架ハ沿道ノ住民ニ不快ノ感ヲ與フルニ反シ地下ハ乗客ニ惡感ヲ與フルノミナラス空氣ノ流通不良ニシテ衛生上不可ナルヲ免レス又本市ノ如キハ河川ノ出水或ハ海嘯等ノ爲汎濫ノ際支障ヲ生スルノ虞アリ之ヲ要スルニ高架ト地下トノ優劣ヲ絶對的ニ批判スルハ困難ニシテ須ク其ノ敷設スヘキ場所ニ應シテ適宜ニ之ヲ選擇スベキモノナルヘシ。

翻テ東京市ノ地勢ヲ稽フルニ山手方面ハ高燥ニシテ地質概シテ堅固ナルヘク隨テ工事容易ナル見込ナルカ故ニ地下ヲ於クル高架及地下ノ接點ノ選擇フヲ適當トスヘシ下町方面ニ在リテモ日本橋區、京橋區等殷盛ノ巷ニ在リテハ高速鐵道線路ハ現今ノ電車通ニ接近シテ設クルノ要アリ之カ爲道路取擴家屋取拂ヲ要シ直接關係市民ニ迷惑ヲ來スコト尠少ナラサルヘク又市ノ美觀、住民ノ困厄、鐵道院高架線ノ乘越等ヲ顧慮スルトキハ成ルヘク地下線ヲ採用スルヲ可トス又下谷、淺草、本所、深川等ハ地勢及出水等ヲ顧慮シ高架ヲ採用スルヲ適當ナリト認メタリ只同一線路ニテ高架ト地下トヲ併用スル場合兩者ノ接續區間長距離ニ百リ道路ノ横斷困難トナルヲ以テ支障少ナキ地點ヲ選擇スルコトヲ要ス第十四表ニ選定セルモノハ其ノ配線上具ニ上述ノ諸點ヲ參照シ之カ計畫ヲ爲セルモノナリ

第五節 高速鐵道ノ軌間及構造

現今東京附近諸鐵道ノ軌間ヲ見ルニ第十八表ノ如クニ第一種アリ高速鐵道及之ニ接續スル近郊鐵道ハ相互聯絡上軌間ヲ統一スルノ必要生スヘク而シテ其ノ軌間ハ四呎八吋半トナスヲ適當ト認ム

第十八表 東京附近各鐵道軌間表

鐵道院線	三呎六吋
武藏野鐵道	三呎六吋
東上鐵道	三呎六吋
東武鐵道	四呎六吋
京濱電氣鐵道	三呎六吋
玉川電氣鐵道	四呎六吋
京王電氣鐵道	四呎六吋
王子電氣軌道	四呎六吋
京成電氣軌道	四呎六吋
城東電氣軌道	四呎六吋
東京市營電車線	四呎六吋

地下鐵道
ノ構造

高速地下及高架鐵道ノ構造、建築定規、電氣運轉ノ方式等ハ他日ノ調査決定ニ俟ツコト・シ線路選定上直接ノ關聯ヲ有スル構造ニ就キ茲ニ少シク述フル所アラントス

地下鐵道ハ各所地質調査ノ遂行ノ後ニアラサレハ其ノ構造ヲ決定シ難キモ地質良好ナラサル場所ニ在リテハ或ハ「シールド」掘鑿法ノ採用ヲ要スヘシ然レトモ其ノ必要ナキ限り成ルヘク道路ノ直下ニ設ケ又道路ナキ處ハ地下鐵道ノ直上ヲ道路タラシメ紐育市ニ於ケル如ク努メテ街路面下淺ク之ヲ敷設スルノ式ヲ採用スル方施工上ハ勿論旅客昇降及衛生上得策ナリトス

高架鐵道ハ路面電車線ニ接近シテ設クルノ要アルコト屢々述ヘタル所ニシテ叙上ノ計畫線路ノ大部分ハ市營電車線ト並行ス今之ヲ紐育市ニ於ケル如ク兩者ヲ同一道路ニ設クルトセハ上層ハ高架鐵道ヲ通シ地表ハ路面電車軌道ニ充ツル

高架鐵道
ノ構造

ア便トスルコトアリ然レトモ斯クスルニハ多クハ現在以上ニ道路ヲ擴張スルノ要アル爲多數ノ建築物ノ取除キヲ要シ構造モ亦自然鋼鐵造ヲ採用セサルヘカラス又道路上ノ往來不規則ナル本市ノ如キニ在リテハ却テ混雜ト危險トヲ誘起スルノ惧ナシトセス寧ロ大街衢ニ櫛比セル家屋ノ裏側ニ沿ヒテ道路ヲ新設シ之ニ鐵筋混凝土構造ノ高架線ヲ建設スル方有利ナル場合多カルヘシ而シテ此ノ場合高架線ノ下部ハ倉庫又ハ商店トナスカ或ハ道路トナシ適宜現今ノ東京市内高架線ニ採用セル拱式トシ或ハ平床式トシ又ハ紐育市「クキンス、ブールバール」ニ設ケタル特種構造トシ何レモ鐵筋混凝土造トナスヲ適當ト認ム

第三章 近郊鐵道

第一節 既設ノ近郊鐵道

鉄道ノ近

東京市附近ニ於ケル既設鐵道ハ東海道、中央、東北、總武各線ノ一部及山手線等鐵道院線路並武藏野、東上、東武ノ三蒸氣鐵道及京濱、玉川、京王、王子、京成、城東ノ六電氣鐵道ノ各線トス而シテ鐵道院線路中電車ヲ運轉スルモノハ寧ロ高速鐵道ノ部類ニ編入シ王子電氣軌道ハ東京市及近郊區域内ニ於ケル路面交通機關中ニ編入スルヲ至當ト認ムルコトハ既ニ第二章ニ述ヘタリ又其ノ線路ニ蒸氣列車ヲ運轉スルモノハ主トシテ遠距離旅客ヲ輸送シ傍ラ近郊旅行者ヲモ併セ取扱フニ過キナルカ故ニ此等線路ハ第四章遠距離鐵道ノ部ニ於テ説クコト、センスクシテ本章ニ於テ近郊鐵道トシテ考究スヘキハ私設蒸氣及電氣鐵道アルノミ

第十九表 近郊鐵道線路及軌道延長表(大正六年度)

鐵道名	線路延長(哩)	軌道延長(哩)
東上鐵道	一二七、二〇 一二三、九〇	一二七、二〇 一二三、九〇

東京	武鐵道	七二、四〇
玉川	電氣鐵道	三四、六九
京王	電氣鐵道	五、八九
成城	電氣軌道	一四、四三
東電	電氣軌道	一〇、九九
計		二、一六

一七四、三七	二一二、八五	七八、七五
		三四、六九
		九、二四
		一六、八二
		一七、九一
		四、三三

既設近郊
鐵道ノ延長
及乗客
數

私設蒸氣及電氣鐵道ノ現狀ヲ見ルニ各線ノ延長ハ第十九表ノ如クニシテ其ノ内大東京區域内ニ存在スル部分ハ線路延長五十八哩九五、軌道延長九十哩九一ナリ而シテ此等各鐵道全線(大東京區域外ニ在ル線ヲモ含ム)ノ輸送スル乗客ハ大正六年度ニ於テ二千五百六十五萬餘ナルモ其ノ内大東京區域内各驛相互發着人員ハ約千八百八十七萬餘ナリ又同區域内鐵道院線路ノ蒸氣列車ニ依ル各驛相互發着人員ハ約百七十二萬ニシテ之ヲ加算スレハ約二千五十九萬ニ達ス以上各鐵道ハ全部市ノ廓外ニ止マリ(附圖第一號參照)一モ深ク市内ニ入レルモノナク市ノ内外ヲ通シテ往來スルモノニ取リテハ聊カ不便ナルノ憾ナキ能ハス

第一二節 將來ノ施設

抑ゝ市外ノ交通ハ一部高速鐵道ヲシテ之ニ當ラシムヘキモ主トシテ路面鐵道ト近郊鐵道トニ俟タサルヘカラス東京市外ハ果シテ現在ノ近郊旅客ノ輸送ヲモ併セ行フ鐵道院線路ノ延長ヲ加算スルトキハ約八十七哩トナリ之ヲ外國ノ例ニ比スルニ必シモ短シトセサレトモ近郊ノ人口密度ハ第一章ノ豫想ヲ以テスレハ將來著シク増加スヘキヲ以テ其ノ曉ニハ尙幾多ノ線路ヲ敷設スルノ要アルコト論ヲ俟タサル所ナリ前節ニ列舉セル各私設鐵道ノ未成線ハ線路延長十四哩九、軌道延長二十二哩ニシテ既ニ免許又ハ特許セラレタルモ工事未成ニ係ル池上電氣鐵道、西武軌道及武藏電氣鐵道ノ未成線完踏延長

線路ハ合計延長二十九哩六、軌道延長四十四哩五ナリ即チ未成線全部ヲ合算セハ線路延長四十四哩五、軌道延長六十六哩ニ達シ現存線路ノ約五割ニ相當ス將來此等未成線全部完成スルニ至ラハ市外ニ相當ノ近郊鐵道線路備ハリト

謂フヲ得ヘシ

近郊鐵道
分佈ノ適否

次ニ大東京地域内ニ於ケル上記各線路ノ分布ニ就キテ考フルニ是レ又大體ニ於テ適當ナリト認ムルコトヲ得ヘシ仍テ茲ニハ本市近郊ニ於ケル新線路ノ選定ヲ爲スノ要ヲ認メス將來關係地方發展ノ狀況ニ依リ必要ヲ生スルニ於テハ其ノ都度之ニ適應スル計畫ヲ爲シテ可ナルヘシ蓋シ近郊鐵道敷設ノ難易ハ市内高速鐵道ノ比ニアラサルカ故ニ今日遠キ將來ニ亘ル計畫ヲ樹ツルノ要ナキヲ以テナリ凡ソ近郊鐵道ハ都市近郊間ノ交通ニ資スヘキハ勿論市ヲ挾ミテ相反セル方面ノ往來ヲモ便利ナラシメ且各線相互ノ聯絡ヲモ容易ナラシムルノ要アルヲ以テ市内深ク進入セシムルノミナラス市内ニ於ケル「スル一、ルート」ヲ構成セシムルヲ可トスヘキモ現在ノ近郊鐵道ハ一モ深ク市内ニ入レルモノナク隨テ之ヲ改善ノ要アルヘシ然ルニ第二章ニ記述ノ高速鐵道ハ市内ヲ縱横ニ貫通スルヲ以テ其ノ起工ニ際シ近郊鐵道ト此等トノ連絡ヲ圖リテ遺憾ナキヲ得ハ特ニ近郊鐵道ヲシテ「スル一、ルート」ヲ形成セシメサルモ可ナルモノアラン

前述ノ外此等鐵道ハ將來近郊ノ發展ニ伴ヒ其ノ設備等ノ改善ヲ行ヒ列車運轉回數及速度ノ如キハ漸次高速鐵道ニ匹敵スルニ至ラシムルノ必要アリト信ス

近郊鐵道
設備ノ改善

第四章 遠距離鐵道

第一節 既設遠距離鐵道

遠距離鐵道及貨物
設備ノ現狀

本市ニ集中スル遠距離鐵道ハ何人モ知悉スル如ク南ニ東海道線、西ニ中央線、北ニ東北線、東ニ總武線アリテ孰レモ遠ク本州各方面ノ終局地點マテ直通シ數多ノ遠距離旅客ヲ輸送スルノ外近郊旅行者ヲモ多ク取扱ヒ居リ又旅客終端停車場タル東京、飯田町、上野、兩國橋ハ相當市内ニ入込ミ居リテ遠距離交通上多大ノ便益ヲ與ヘツ、アルモ此等相互

ノ聯絡ニハ遠ク郊外ヲ迂回セル山手線及東武鐵道線ヲ經由セサルヘカラサルヲ以テ其ノ不便亦尠カラサルナリ現今ニ於テ既ニ然リ將來交通ノ愈々繁キヲ加フルニ從ヒ此ノ缺點ハ益々顯著トナルヘシ

貨物主要停車場トシテハ汐留、飯田町、秋葉原、隅田川等アリテ多量ノ貨物ヲ吞吐シツ、アルモ近年取扱貨物ニ非常ノ増加ヲ來シ現今ト雖充分ニ之ヲ消化シ能ハサル際ニハ時ニ本市宛テノ貨物發送ヲ制限又ハ停止セルコトアリ今ヤ適當ノ地ヲトシ新ニ大貨物停車場ヲ設置シ或ハ現在ノ設備ニ大改善ヲ加フルノ要求真ニ切ナルニ至レリ

第二節 聯絡線及新設線ノ選定

前記ノ各既設鐵道ヲシテ市内ニ延長シ或ハ市ヲ貫通シテ互ニ聯絡セシムルハ都市交通上頗ル便利トスル所ニシテ就中東京上野間兩國橋萬世橋間ノ聯絡ヲ其ノ優ナルモノト認メ茲ニ之ヲ選定セントス勿論此ノ十字形ノ鐵道ノミヲ以テ將來遺憾ナキヲ期シ得ヘキヤハ疑問トスル所ナリト雖他ニ此ノ種ノ蒸氣鐵道ヲ市内ニ敷設センヨリハ寧ロ市内ニハ高速鐵道ヲ充分普及セシメ且適當ニ兩者相互間ノ聯絡ヲ圖ルヲ得策ト認ムルヲ以テ本調査想定期間内ニ於テハ是レ以上蒸氣鐵道ヲ敷設スルノ要ナキモノトセリ又大貨物停車場ハ越中島附近ニ之ヲ設置スルコト、シ金町小岩間及龜戸越中島間ニ貨物線ヲ敷設シ以テ東北地方ニ對スル發着貨物ノ集散ヲ圓滑ナラシメントス

今左ニ項ヲ分チテ前記各線路ノ説明ヲ爲サントス

(二) 東京上野間

此ノ區間ニ電車線路ノ外複線ヲ敷設シ東北線ト東海道線トヲ聯絡スルコトハ夙ニ政府ニ於テ計畫セル所ニシテ之ニ伴フ列車組成驛ハ相當大規模ノモノヲ要スヘク素ヨリ市内樞要ノ地區ニ設クヘキモノニ非ス仍テ之ヲ市外ニ設ケ東海道線列車ハ市ノ北端ニ於テ、東北線列車ハ市ノ南端ニ於テ之ヲ組成スルコト、セハ兩線ノ列車ハ皆南北ニ市ヲ貫通シテ運轉スルコト、ナリ最モ便利ナリト謂フヘキモノニ伴フ數列ノ蒸氣列車線ヲ敷設セサルヘカラスシテ之カ敷地トシテ樞要ノ地區ニ多大ノ面積ヲ塞クハ市民ノ忍ヒ難シトスル所ナルヘシ仍テ今若シ東海道線列車ハ田端ニ於テ之ヲ組成シ

市ヲ貫通シテ運轉セシムルコト、シ東北線列車ハ其ノ主要ノモノノミヲ品川ニテ組成シ是レ又市ヲ貫通シテ運轉セシメ之ニ反シ地方列車ハ總テ上野ニテ之ヲ組成シ此處ニ終始セシムルコト、セハ線路ハ一ノ複線ニテ足ルヘク又斯ケ列車ノ運轉ヲ制限スルモ爲ニ市民ノ享クル便利ハ今日ニ比シ著シキモノアラン加之東京驛ニハ殆ト列車組成ノ設備ヲ省略スルコトヲ得隨テ他日驛ノ東側ヨリ乗降場ニ出入シ得ルノ便ヲ開クコト容易ナルニ至ルヘシ

(二) 兩國橋萬世橋間

兩國橋萬
島橋萬
絡線
トノ開

近年總武沿線地方ノ發展ニ伴ヒ兩國橋驛ハ都市交通上著シク重キヲ加ヘタリ然ルニ其ノ位置ハ隅田川ノ東岸ニ偏在シ出入甚タ不便ナルヲ免レス將來總武線ヲ兩國橋以西ニ延長シテ中央線ニ聯絡セシムルノ必要アルヘキハ夙ニ識者ノ認メタル所ニシテ且今後江東方面ハ工場地トシテ又山手方面ハ住宅地トシテ益々發達スヘク其ノ間ノ交渉往復愈々多キヲ加フヘキヲ以テ一層本線路敷設ノ必要ヲ促進スルモノナリ即チ新ニ此ノ區間ニ敷設スヘキ線路ハ之ヲ複線トシテ高速電車ヲ運轉シ夜間ニ限り兩國橋飯田町間ニ貨物列車ヲ運轉スルヲ可トス

兩國橋萬
島橋萬
絡線
トノ開

本線路ト東京上野間ノ新線路トノ横斷交叉ハ萬世橋橋梁附近ニ於テ之ヲ行ヒ前者ハ後者ノ上部ヲ乘越シ相互間旅客ノ乗換ニ便ナラシメ尙地下ヲ通スル高速鐵道トモ相互ニ旅客ノ乗換ヲ遺憾ナカラシムルノ設備ヲ爲スノ要アリ

以上ノ如ク本線路ヲ敷設シテ中央線ト總武線トヲ聯絡セシメンカ前項記述ノ東海道線ト東北線トノ直通線ハ本市ヲ南北ニ、本聯絡線ハ東西ニ貫通スルコト、ナリ加フルニ中権地區ニ於テ互ニ交叉聯絡スルニ依リ本市ノ交通ニ至大ノ便宜ヲ來スヘキハ疑ヲ容レサル所ナリトス

(三) 龜戸越中島間及金町小岩間

龜戸越中
島間及金
町小岩間

江東方面ハ東京市内物貨集散ノ要所ニシテ此處ニ集中スル貨物ハ常磐炭、木材及米穀等ヲ以テ其ノ主ナルモノトス而シテ木材及米穀ハ目下奥羽及三越地方ヨリ常磐線及東北本線等ヲ經由シ隅田川驛ニ來ルモノ多ク一面同驛ハ今ヤ取扱能力ノ極度ニ達スルモ其ノ擴張困難ナルノミナラス將來郡山以北ノ物資ハ成ルヘク列車頻繁ナル東北線ヲ避ケテ常磐線ヲ經過セシムルヲ要スヘク又一面隅田川驛ト江東方面トハ之カ小運送機關タル解航行ニ長時日ヲ要スルノ不利アル

カ故ニ江東方面ニ於ケル好適地タル越中島及小名木川ニ各貨物停車場ヲ新設スルコト、シ龜戸越中島間ニ複線ヲ敷設シテ總武線トノ聯絡ヲ圖リ尙金町小岩間ニモ複線ヲ敷設シ常磐總武ノ兩線路聯絡ノ捷路ト爲シ東武鐵道ト相俟テ大ニ此ノ方面ニ於ケル貨物運輸ノ利便ヲ増進セントス

第三節 貨物停車場

東京市及
附近出入口
貨物

本市及附近ニ出入スル貨物ハ荷車ニテ運搬セラル、野菜、肥料等少量ノモノヲ除キ他ハ全部東京港及隅田川本流並諸枝川ヲ經由スル水運ト市内及附近鐵道各驛ヲ經由スル陸運 二大徑路ニ依ルモノトス此等貨物ニ關スル最近三箇年間ノ統計ヲ擧クレハ左ノ如シ

第二十表 東京市及附近貨物集散額數表

種類		大正四年度	大正五年度	大正六年度
移入	水運(海運ニヨル内外國貿易及河川運搬貨物)	一、〇五五、一八七	一、一六一、一七八	一、一三八、一七六
輸出	陸運(鐵道運搬貨物)	一、七二八、三八二	一、八四一、九五一	二、〇一二、六一七
移入	水運(海運ニヨル内外國貿易及河川運搬貨物)	二、七八三、五六九	三、〇〇三、一二九	三、一五〇、七九三
輸出	陸運(鐵道運搬貨物)	三、二四七、三三四	三、〇三七、四五一	三、一五〇、二七六
移入	水運(海運ニヨル内外國貿易及河川運搬貨物)	三、二七二、四九八	四、〇一八、八七五	四、八八三、九〇五
輸出	陸運(鐵道運搬貨物)	六、五一九、八三三	七、〇六六、三二六	八、〇三四、一八一
合計	水運(海運ニヨル内外國貿易及河川運搬貨物)	四、三〇二、五二一	四、一九八、六二九	四、二八八、四五二
合計	陸運(鐵道運搬貨物)	五、〇〇〇、八八〇	五、八七〇、八二六	六、八九六、五二二
合計	水運(海運ニヨル内外國貿易及河川運搬貨物)	九、三〇三、四〇一	一〇、〇六九、四五五	一一、一八四、九七四

本表ヲ見ルニ陸運ハ全移輸出入ノ五割乃至六割ヲ占ム而シテ此等貨物ノ發着スル停車場中最モ主要ナルモノハ隅田川、秋葉原、沙留及飯田町ニシテ品川、大崎、新宿、錦糸町、兩國橋、王子、淺草等之ニ次キ其ノ他ノ各驛モ亦多々若干

貨物ノ取扱ヲ爲シ居レリ今本市及附近各驛發着貨物噸數ヲ示サハ第二十一表、第二十二表及第二十三表並附圖第五號ノ如シ

此ノ如ク陸運ニ依ル貨物ノ出入ハ其ノ増加著シキモノアリ今試ニ大正元年度ヨリ大正六年度ニ至ル各驛貨物發着噸數ニ依リ將來ヲ豫想スルニ第二十四表ニ示スカ如ク大正三十七年度ニハ發送五百萬噸到着千五十萬噸合計千五百五十萬噸ニ達スルノ計算トナリ之ヲ大正六年度ノ合計六百八十九萬噸ニ比スルニ約二倍ニ相當ス是レ一見過大ノ感ナキニアラサルノミナラス最近鐵道貨物ノ激増ハ一ハ船腹ノ一時的不足ニ歸スルモノニシテ此等ノ數字ヲ基礎トシテ推定シタルモノハ事實幾分大ニ過クルノ結果ヲ生スルヲ免レス然レトモ人口増殖ノ趨勢ニ鑑ミ且一人當リ消費量ノ漸次增加スルコトヲモ稽フルトキハ甚シク過大ナル豫想ニモアラサルヘク貨物停車場ノ配置及規模ヲ考究スルニ方リテハ寧ロ此ノ種ノ數字ニ據ルヲ安全ナリトス仍テ茲ニ先ツ現存及計畫ノ貨物停車場カ此ノ豫想數量ニ對シ幾何ノ消化能力ヲ有スルヤヲ檢スルノ要アリ抑ヨ現存停車場ノ内兩國橋及龜戸兩驛ハ各錦糸町及新計畫ニ係ル小名木川ニ接近セルノミナラス兩國橋萬世橋間連絡線及越中島線敷設ノ後ト雖依然貨物取扱設備ヲ存置スルモノトシテ此等ヲ擴張スルハ困難ナルヲ以テ兩驛ノ貨物扱ハ之ヲ廢止スルヲ得策トスヘク又上野驛ハ現今特ニ鮮魚其ノ他僅少ノ貨物ヲ扱ヒ居レルモ將來上野秋葉原間ノ高架線完成シ秋葉原ノ設備改善セラルニ至ラハ該貨物ハ秋葉原驛ニテ之ヲ併セ取扱ハシムヘキモノナルヘシ仍テ以上三驛ノ貨物扱ヲ廢スルコトシ其ノ他ノ各驛及小名木川、越中島兩驛等ノ貨物取扱設備ノ内既ニ政府ニテ改良若ハ新設ノ計畫アルモノヲモ參照シ且其ノ數字ヲ採ルコトシ本市内及附近各驛ノ貨物取扱能力ヲ算スルニ左表ニ示ス如ク一箇年總計一千百萬噸ノ上ニ出テ斯之ヲ上記ノ豫想數量千五百五十萬噸ニ對照スルトキハ甚シク不充分ナルヲ見ル之ニ對スル方策トシテハ須ク現存停車場中擴張シ得ルモノハ隨時之ヲ行フト共ニ取扱作業ヲ改善シテ能率ノ増進ヲ圖ルヘキハ勿論他ニ好適地ヲトシ新ニ貨物停車場ヲ設クル等適當ノ施設ヲ爲スヘキナリ

第二十一表 東京市内及附近各驛發送貨物數量表

年 度 驛 別	大正元年度	同二年度	同三年度	同四年度	同五年度	同六年度
沙留川	236,971	248,931	237,248	277,786	349,896	428,216
品川	8,605	88,872	52,104	26,024	36,965	53,555
大崎	90,180	9,386	38,513	42,916	53,005	48,952
豊比壽	13,623	16,530	16,733	18,470	28,199	31,651
鍾谷	7,528	18,263	27,563	8,174	12,730	11,129
原宿	4,917	393	535	495	498	634
目白	1,821	1,769	2,373	2,573	3,185	4,455
池袋	5,718	4,519	9,654	6,073	6,065	7,801
板橋	2,504	2,863	2,393	2,992	3,632	5,752
大塚	755	991	1,034	1,089	1,539	1,873
新鶴見	5,563	4,233	4,575	4,009	4,344	5,254
秋葉原	336,358	374,228	346,038	318,606	339,237	389,433
上野山張所	12,897	10,398	10,151	10,634	106,42	13,676
田端	8,323	3,224	4,304	3,641	5,220	9,383
王子	46,421	55,626	62,977	60,378	57,979	76,651
三隅河田	5,416	5,596	5,594	9,049	11,183	16,776
隅北千葉	492,419	546,275	528,496	551,836	524,890	562,204
兩國橋	3,755	5,005	6,194	4,560	5,567	12,001
錦糸町	70,580	84,553	74,252	74,499	83,329	90,741
龜戸	59,689	65,490	54,132	44,039	43,266	65,602
飯田橋	1,214	1,471	1,665	1,726	2,037	2,984
信濃町	123,686	112,160	111,710	88,581	101,192	122,531
新宿	320	298	387	490	522	627
小計	24,351	26,115	26,548	27,901	28,856	41,390
小計	1,563,614	1,687,189	1,626,175	1,586,541	1,713,918	2,092,671
淺草	94,738	125,609	110,196	107,503	99,013	90,776
曳舟	118	1,196	83	159	464	811
鐘ヶ淵	19,541	363	248	289	481	386
小計	114,397	127,168	110,527	107,951	99,958	91,973
合計	1,678,611	1,814,357	1,735,700	1,694,492	1,813,936	2,184,644

第二十二表

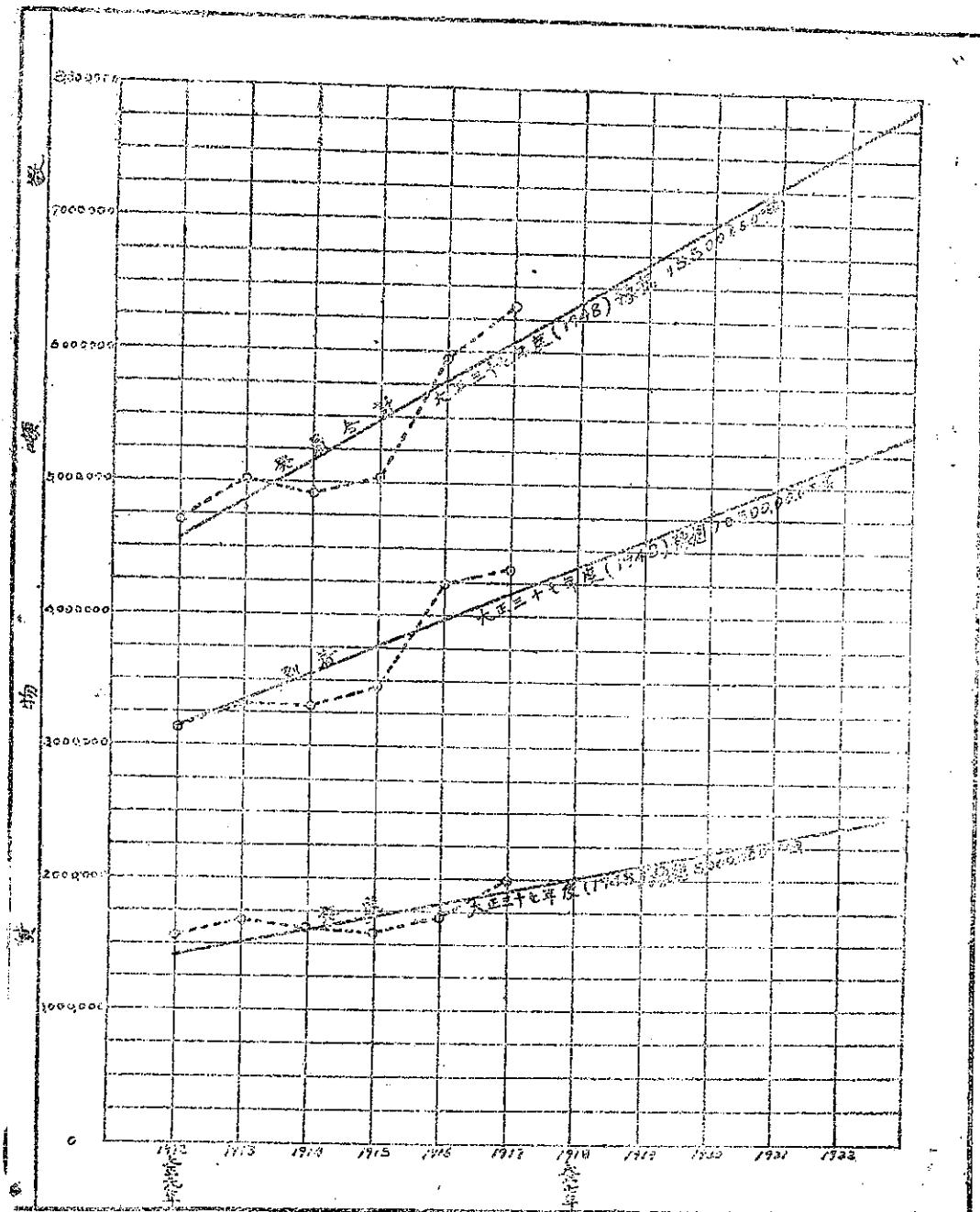
東京市内及附近各驛到着貨物數量表

年 度 驛 別		大正元年度	同二年度	同三年度	同四年度	同五年度	同六年度
沙	留	459,237	499,375	457,377	494,035	641,836	729,691
品	川	46,749	76,380	134,000	95,848	100,617	113,672
大	崎	98,081	66,108	53,503	91,223	152,022	149,699
惠	比	52,864	68,018	53,912	57,607	102,149	110,264
遞	壽	88,294	86,518	63,367	61,722	75,828	93,991
原	宿	3,176	2,548	3,425	3,748	2,714	754
目	白	25,626	25,559	21,260	20,855	32,666	50,717
池	袋	20,600	27,211	35,277	27,438	33,175	43,619
板	橋	44,460	43,162	37,300	46,812	50,705	51,860
大	塚	32,160	28,819	22,940	22,917	29,329	40,581
塙	鴨	41,828	52,448	48,718	46,749	57,044	66,207
秋	葉原	398,754	446,253	404,679	404,944	540,332	604,267
上	野出張所	32,456	38,929	33,499	36,217	37,339	44,562
田	端	28,475	26,075	65,375	37,025	25,514	30,546
王	子	85,625	87,589	101,235	111,308	159,908	180,673
三	河島	18,497	19,001	18,302	22,195	25,699	25,230
隅	田川	998,047	1,014,207	978,277	1,077,030	1,300,029	1,009,764
北	千住	22,112	36,552	29,667	37,581	40,287	47,973
兩	國橋	57,454	58,924	67,746	80,287	90,431	99,057
錦	糸町	114,954	112,360	126,428	127,318	170,426	232,552
龜	戸	3,761	3,393	5,634	5,966	7,818	18,886
飯	田町	282,114	317,894	324,613	277,827	330,213	336,114
信	濃	22,141	13,017	12,577	7,484	12,013	10,992
新	宿	179,572	194,434	207,567	196,193	222,317	260,031
小	計	3,147,037	3,346,774	3,306,678	3,450,329	4,240,461	4,351,252
淺	草	90,411	95,452	52,197	60,220	89,188	141,908
曳	舟	7,270	1,150	2,453	2,524	3,342	5,048
鐘	淵	1,188	769	1,317	1,666	1,739	2,700
小	計	98,869	97,371	55,967	64,410	94,269	149,656
合	計	3,245,906	3,444,145	3,362,645	3,514,739	4,334,730	4,500,908

第二十三表 東京市内及附近各驛合計貨物數量表

年 度 驛 別	大正元年度	同二年度	同三年度	同四年度	同五年度	同六年度
沙留	696,208	748,306	694,625	771,821	991,782	1,157,907
品川	55,354	165,252	186,104	121,872	137,532	167,227
大崎	188,261	75,494	92,016	134,139	205,027	198,651
惠比壽	66,487	84,548	70,645	76,077	130,348	141,915
濱谷	95,822	104,781	90,930	69,896	88,558	105,120
原宿	8,093	2,941	3,960	4,243	3,212	1,388
目白	27,447	27,328	23,633	23,428	35,851	55,172
池袋	26,318	31,730	44,931	33,511	39,240	50,970
板橋	46,964	46,025	39,693	49,804	54,337	57,612
大塚	32,915	29,810	23,974	24,006	30,868	42,454
巢鴨	47,391	56,681	53,293	50,758	61,388	71,461
秋葉原	735,112	820,481	750,717	783,550	879,569	993,700
上野出張所	45,353	49,327	43,650	46,851	47,981	58,238
田端	36,798	29,299	69,679	40,666	30,734	39,929
王子	132,046	145,215	164,212	171,686	217,887	257,324
三河島	23,913	24,597	23,896	31,244	36,882	42,006
隅田川	1,480,466	1,560,482	1,506,773	1,628,866	1,824,919	1,661,968
北千住	25,867	41,557	35,861	42,141	45,854	59,974
兩國橋町	128,034	143,477	141,998	154,786	173,760	189,198
錦糸町	174,643	177,850	180,560	171,357	213,692	298,154
龜戸町	4,975	4,864	7,299	7,692	9,855	21,870
飯田町	405,800	430,054	436,323	366,408	431,405	458,645
信濃町	22,461	13,315	12,964	7,974	12,535	11,619
新宿	203,923	220,549	234,115	224,094	251,173	301,421
小滝	4,725,281	5,033,963	4,931,851	5,036,370	5,954,439	6,453,923
浅草	185,149	221,061	162,393	167,723	188,201	232,684
曳舟	7,388	2,346	2,536	2,683	3,806	5,859
鐘ヶ淵	20,729	1,132	1,565	1,955	2,220	3,086
小計	198,836	224,539	166,494	172,361	194,227	231,629
合計	4,923,917	5,258,502	5,098,345	5,209,231	6,148,666	6,685,552

第二十四表
東京市附近各驛發着貨物噸數及將來豫想



第二十五表 東京市及附近各驛貨物取扱能力豫想表

驛名	取扱能力(噸)
越中島	2,000,000
隅田川	1,600,000
汐留	1,600,000
秋葉原	1,090,000
品川	650,000
小名木川	620,000
飯田町	600,000
新宿	500,000
錦糸町	300,000
王子	250,000
大崎	230,000
淺草	230,000
谷	200,000
惠比壽	150,000
其ノ他	820,000
計	10,840,000
注意	兩國橋龜戸及 上野ノ三驛ハ貨物扱ヲ 廢止スルモノトス

設將來ノ施

凡ソ都市ニ於ケル貨物ノ集散ハ主トシテ其ノ商業地區ヲ中心トスレトモ工場地區亦其ノ量ノ侮リ難キモノアリ工場地附近ニ於テハ成ルヘク引込線ヲ敷設シ以テ貨物停車場ノ負擔ヲ輕カラシムルノ要アリ次ニ品川線ノ如キハ其ノ附近埋立地ノ増築ヲ見ルニ至ランカ貨物ノ出入ハ著シク増加スヘキヲ以テ此處ニモ貨物取扱設備ニ相當ノ改良ヲ施サ、ルヘカラス又山手方面ヨリ大東京區域西部方面ニ亘ル地域ハ將來ノ住宅地ナルヘキカ故ニ商業地及工場地ノ如ク著シキ貨物ノ集散ハナカルヘキモ此ノ方面ノ發展ニ伴ヒ住民ノ消費スヘキ物資益々多キヲ加フルコト豫想ニ難カラス隨テ之ニ對應スヘキ貨物取扱設備ノ増設ヲ要スルヤ勿論ナリ殊ニ飯田町及新宿兩驛ハ將來貨物取扱設備ヲ增大スルニ地勢上ノ困難アルカ故ニ之ヲ補足スヘキ設備ヲ他所ニ求メサルヘカラス惟フニ其ノ候補地ハ四谷牛込間外濠内、山手線外戸山原、池袋附近等ノ内ナルヘシ此ノ外近郊鐵道沿線ノ各驛ニモ亦逐年増進シ來ルヘキ輸送貨物ヲ取扱ヒ得ルニ足ル相當設備ヲ爲スノ要アリ其ノ他市場停車場ノ如キモ市場設置ノ位置決定ノ上之ヲ設タルノ必要アラン

第五章 路面電車線ノ現狀

凡ソ大都市ノ交通設備中ニハ急速度及緩速度ノ鐵道ナカルヘカラス前者ハ市ノ中心地點ヨリ其ノ外廓ニ向ヒ放射線狀ヲ爲シ高架又ハ地下ノ專用線路ニ依リ停車箇所ヲ少クシ高速度ヲ以テ運轉シ且小距離ヲ進ム毎ニ停車シテ旅客ヲ乗降セシムル電車ヲ運轉スル路面電車線ニシテ市民ノ短距離乗用ニ備フ此等ハ斯ク其ノ性質及用途ヲ異ニスルモ兩々相俟テ都市内外ノ交通ニ貢獻スルモノタルヘキナリ特ニ高速鐵道ハ市内交通路中ノ大動脈ニシテ其ノ輸送力ノ大ナルニ伴ヒ建設ニ巨費ヲ要スルモノナルカ故ニ其ノ効果カ直接市内各地點ニ及フヘキ程度ニ之ヲ普及セシムルコト到底期スヘカラストセハ路面電車ハ當ニ此等地點ノ局部交通ニ當ルノミナラス其ノ間ニ處シ高速線ノ旅客集散ヲ帮助シ住民ヲシテ不便ナカラシムルノ使命ヲ完フセサルヘカラス

東京市ニ在リテハ十數年前電車線ノ初メテ開通アリシ以來急速ノ歩調ヲ以テ市内各所ニ延長シ今日已ニ四通八達ノ状ヲ爲シ凡ソ樞要ノ地點ニシテ之ヲ見サルナキノ盛況ヲ呈セリト云フヘク爾來市ノ面目ノ一新シタルモノ電車ノ普及ニ負フ所多シト云フモ誣言ニアラザルヘシ

今東京市及其ノ附近ニ於ケル路面電車線ノ現狀ヲ觀ルニ大正七年一月現在ニ於テ市營ノ分軌道延長一六五哩〇六之ニ王子電氣軌道同一〇哩六二ヲ加算スレハ合計一七五哩六八トナル其ノ他未設ノ特許線市營七三哩六王子電氣軌道一三哩五合計八七哩一アルヲ以テ此等カ全部完成スルノ曉ニハ幾分カ目下ノ乘客輻輳ヲ輕減スルノミナラス新區域ニ電車利用ノ便ヲ啓クニ至ルヘシ(附圖第四號參照)即チ近キ將來ニ於ケル東京市ハ路面電車線ノ延長ニ於テ巴里及柏林等外國大都市ニ比シ著シキ遜色アラサルヘシ是レ右ノ全哩數ヲ第八表ノ示ス數字ニ照シテ明ナリ然ルニ目下運轉シツゝアルモノハ全延長ノ約三分ノ二ニ過キナルカ故ニ假令東京市民ノ平均乘車回數カ右ノ二外國都市ニ及ハサルコト遠シトスルモ尙電車線ニ不足ヲ告ケ隨テ全市ヲ平均シテ乗客ノ輻輳ヲ來スコト敢テ異トスルニ足ラス更ニ我東京市ニ於テ高速鐵道ノ敷設未タ遍カラサルハ特ニ電車ニ混雜ヲ來スノ原因トナル即チ東京市路面電車ニ於ケル乗客平均乘車哩數ハ未タ確實ニ之ヲ知悉スルノ資料ヲ得サルモ蓋シ大體ニ於テ四哩内外ナルカ如シ而シテ路面電車カ主トシテ短距離輸送

ヲ目的トスルハ前ニ述ヘタル如クニシテ外國都市ノ實例ニ徵スルモ一哩半内外多クモ二哩ヲ出テサルヲ通例トシ二哩以上ニ亘ル乗客ノ輸送ハ概ネ高速鐵道ノ司ル所ナリトス然ルニ東京市路面電車ノ平均乗車哩數ノ實際四哩ニ達スルノ一事ハ當然高速鐵道ニ依ルヘキ旅客カ殆ト皆路面電車ニ便乗シ益々後者ニ混雜ヲ釀成シツゝアルノ現狀ヲ説明スルモノナルヘシ

以上ハ市全體ノ狀況ヲ叙シタルモノニシテ市内各所ニ於ケル局部的輻輳ハ自ラ別個ノ問題ヲ構成スルモノナリ而モ交通ノ集中スル市ノ中心地ニ於テ目下特ニ甚シキ電車ノ雜踏ヲ見ルハ否ムヘカラサルノ事實ニシテ該部分ノ線路ハ概ね其ノ輸送能力ノ限度ニ達シ固ヨリ今日以上ニ增進スル交通ニ應スルノ餘裕ヲ存セサルヘキヲ以テ他ニ之カ救濟ノ途ヲ拓クノ要アルヲ思ハシム而シテ此ノ方法トシテハ一般運轉系統ヲ整理スルノ外尙關係局部ニ新線ヲ増設スルト共ニ高速鐵道ノ速成ヲ圖リ以テ比較的長距離旅客ヲ之ニ導クノ方策ヲ講スヘキナリトス

第一二節 東京市内外路面電車追加線路ノ選定

東京市ノミナラス大東京地域内ニ於テモ將來人口ノ増殖ヲ見、交通益々頻繁ヲ加フルノ趨勢アルハ前數章ニ於テ屢々述ヘタル所ニシテ前節ニ記述シタル電車線ハ今後數年ヲ出テスシテ其ノ輸送力ノ限度ニ到達スヘキコト明ナルノミナラス漸次其ノ敷設ヲ要求スル新地域ノ開發ト共ニ之カ新設ヲ促スニ至ルヘク其ノ程度如何ハ既ニ第二章ニ於テ詳論セルヲ以テ茲ニハ之ヲ反覆スルノ要ナシ而モ今ニ於テ將來發達ノ程度ヲ豫想シ之ニ對スル根本ノ方針ヲ畫立シ置クノ肝要ナルヲ感セシムルモノアリ

由來路面電車線ハ之ヲ敷クノ道路タニ存在セハ之カ施設ハ比較的容易ナルモノナリ又大東京地域内ニ於ケル新設及改築道路ニハ後章ニ於テ述フルカ如ク十間以上ノ幅員ヲ有セシメ以テ豫メ電車線ノ敷設ニ備ヘントスルモノナリ（附圖第一號及第四號參照）仍テ將來必要ニ應シ此等ニ順次電車線ノ敷設ヲ見ルヘキヤ疑ヲ容レスシテ本調査ノ想定期間三十年經過前恐ラク右ノ新設及改築道路ノ全部ニ電車線ノ普及スヘキハ期シテ待ツヘキナリ事態上述ノ如クナルヲ以テ茲ニハ之カ敷設ノ順序等ニ就キテ具體的ノ案ヲ樹テサルコト、シ只今日現ニ不便ヲ感シツゝアル以下記載ノ線路ノ追

加ニ止ムントスルナリ

大通線ノ
混雜狀態

熱く東京市電車ノ系統ヲ案スルニ尙都市連絡ヲ必要トスルモノ及交通ノ圓滑ヲ期セシカ爲新線ノ布設ヲ要スルモノ渺カラス、之ヲ例セハ品川ヨリ京橋、日本橋ノ中心地ヲ貫キ上野淺草ヲ連絡スル所謂大通線ノ如キハ毎重殆ト滿員ノ狀況ヲ呈シ其ノ混雜ト雜踏トハ實ニ名狀スヘカラサルモノアリ大正六年度中ノ平均ヲ見ルニ宝町ヲ通過スル旅客一日九萬九千人(附圖第二號)ニ上リ且日本橋ヲ通過セシ大正五年一箇年間ノ一日平均車輛數ハ南行約一千二百臺ニシテ單線一哩區間ニ車輛約十臺ノ割合ニ當ル然ルニ東京市ノ經驗スル所ニ依レハ電車カ三十六秒毎ニ發車スレハ一哩區間十四臺ノ割合當リ速度ハ七哩ニ減スト云フ然ラハ已ニ大通線ノ一哩當リ十臺ハ最大輸送力ニ接近シ現在以上ニ輸送力ヲ增加スルノ餘地少ナキカ如シ依テ此ノ混雜ヲ緩和センカ爲大通線ニ並行シテ新ニ軌道ヲ布設シ上野淺草方面ト結合スルカ如キ若ハ山ノ手線各驛及郊外軌道ト市内トノ聯絡ヲ圖ルカ如キ、其ノ他市内各所ニ亘リ運轉ノ圓滑、線路ノ普及ヲ策スル爲大小二十三線ヲ選定シ現在東京市ノ有スル特許線ニ之ヲ追加セントス其ノ線路名並延長左ノ如シ(附圖第四號參照)

第二十六表 追加路面電車線路名及延長表

線		路	要
		軌道延長	
第一	(自芝區白金三光町一至同區白金猿町郡市界 計)	一・三一二	
二	(自同上郡市境界一至五反田停車場	一・〇四二	山ノ手線五反田驛ト市内トノ連絡ノ爲
三	自芝區田町六丁目一至同三田南寺町	二・三五四	
四	自天現寺橋一至新惠比壽停車場	○・二二六	品川線ト三田三丁目ヨリ白金志田町方面ニ至ル路線ノ連絡ヲ可及的距離ヲ短縮シ連轉ヲ圓滑ナラシムル爲
五	自赤坂區青山南町二丁目一至同町一丁目三	一・五六〇	山ノ手線惠比壽驛ト市内トノ連絡ノ爲
六	自牛込區市ヶ谷谷町一至大久保停車場	○・二二八	○・二二八 青山飯倉線ト堀谷駅町ヨリ芝金杉ニ至ル路線トノ連絡ノ爲
	自牛込區馬場下町一至高田ノ馬場停車場	二・八一四	山ノ手線大久保驛ト市内トノ連絡ノ爲
		一・九三二	山ノ手線高田ノ馬場驛ト市内トノ連絡

合計	自新橋停車場前	橋一至京橋區木挽町四丁目	二・四七四
自新橋停車場前	橋一至人形町	三・〇四二	二・四七四
自馬場先門一至鐵冶	橋一至人形町	四・一〇八	四・四七四
自神田區永樂町二丁目一至同九段中坂下	橋一至人形町	○・二八〇	一・九〇〇
自麹町區永樂町二丁目一至東京停車場前	橋一至人形町	○・七五〇	一・八四四
自麹町區八重洲町一丁目一至東京停車場前	橋一至人形町	一・二四〇	○・三四〇
自淺草區西鳥越町一至神田區錦町三丁目	橋一至人形町	○・一六七	○・四八八
自神田區一ノ橋通町一至同九段中坂下	橋一至人形町	○・三二三	○・一四八
自神田區松住町一ノ橋通町一至同九段中坂下	橋一至人形町	○・三八〇	二・四七四
自赤坂區青山六丁目一至原宿停車場	橋一至人形町	○・三六〇六	二・四七四
自淺草區駒形町一至同材木町	橋一至人形町	一・一五〇	二・四七四
自新橋停車場前	馬場先八丁堀方面接續ノ圖ル爲	○・一四	本所三ノ橋通リト寺島村方面トノ連絡ノ爲
自馬場先門一至鐵冶	馬場先八丁堀方面接續ノ圖ル爲	○・七二	二河島方面ト市内トノ連絡ノ爲
自神田區永樂町二丁目一至同九段中坂下	東京停車場前連絡ノ爲	○・二七二	深川區黒龜橋通リト四ノ橋通リトノ連絡及電車線分布ノ爲
自麹町區永樂町二丁目一至東京停車場前	東京停車場前連絡ノ爲	二・三〇四	本所三ノ橋通リト寺島村方面トノ連絡ノ爲
自赤坂區青山六丁目一至原宿停車場	三田追分線連轉ノ圓滑ヲ期スル爲	一・四二四	二河島方面ト市内トノ連絡ノ爲
自淺草區駒形町一至同材木町	須田町萬世橋間ノ混雜ヲ緩和スル爲	○・三八八	深川區黒龜橋通リト四ノ橋通リトノ連絡及電車線分布ノ爲

前表追加線ニ東京市營及王子電車線ノ現ニ有スル既設線及未成特許線ヲ合スルトキハ總延長二百九十九哩トナル

第六章 他ノ運輸機關

東京市及近郊區域ニ於ケル主タル交通機關ニ就キテハ前各章ニ述フル所ノ如シ今小運輸機關タル人力車、川蒸氣船及自働車ノ現況並將來ニ關シテ一言センニ

一、人 力 車

人力車ハ往時ニ在リテハ唯一ノ重要ナル小運輸機關ノ地位ヲ占メタレトモ電車ノ開通以後需用ノ度日ニ月ニ減退シ現今ハ僅ニ一萬五千八百七十四輛殘存スルニ過キシテ一般公衆ノ乗用ニ供セラル、コト漸次減少スルノ狀態ニ在リ

二、川 蒸 汽 船

川蒸氣船ハ遠ク馬車鐵道時代ヨリ存在シ今日ニ及フモ依然舊時ト異ナル所ナク之ヲ利用スルモノハ殆ト河川ノ沿岸地帶ニ關係アルモノニ限ラル、モ或ル範圍内ニ於テ路面電車ヲ補足スルノ効果ヲ擧ケ幾分カ之カ輻輳ヲ輕減スル上ニ於テ與テ力アルモノト云フヲ得ヘシ之カ航路ニ、三ニ止マラスト雖主タルモノハ隅田川及千住吾妻ノ兩汽船トナス前者ハ吾妻橋永代橋間ヲ約一時間ニテ往復航行シ一日平均船數八隻ヲ使用ス又後者ハ日々四隻乃至六隻ノ汽船ヲ運航シテ千住大橋吾妻橋間ニ於テ十五分毎ニ出發セシムルモノナリ而シテ大正六年ニ於ケル此等汽船ノ乘船人員ハ實ニ三百十二萬六千五百四十二人ニ達セリ

三、乘 合 自 働 車

輓近歐米ニ於ケル自働車ノ發展ハ頗ル顯著ナルモノアリテ大都市ニ於テハ公衆輸送機關トシテ盛ニ使用セラレツ、アリ而シテ自働車ノ長所トスル點ハ其ノ運轉力電車ノ如ク軌道上ニ局限セラレサルヲ以テ任意ニ捷路ヲ撰定スルヲ得ルノミナラス何レノ道路何レノ部分ヲモ隨意ニ疾走シ得ラル、ニ在リ故ニ歐米ニ於ケル一部論者ノ如キハ近キ將來ニ於テハ市内乘客輸送機關トシテ路面電車ハ漸次其ノ跡ヲ絶チ乗合自働車之ニ代ルナラント主張スルモノアリ然ルニ一九一二年倫敦乗合自働車運轉ニ關シ英國下院特別委員會ニ於テナシタル倫敦府電車主任フエル氏ノ陳述ニ徵スレハ乗合

自働車ハ街路ヲ塞ク場所ニ於テ乗客一人當リ電車ニ二倍乃至數倍シ夫レニ比例シテ一般交通ニ支障ヲ及ホスヘキヲ主
公衆輸送機関トシテ乗合自働車ノ發達ハ時代ノ要求ニシテ市内交通用トシテ將ニ電車ノ補助機関トシテ益々發展スルニ至ルハ疑
張セリ素ヨリ自働車ノ發達ハ時代ノ要求ニシテ市内交通用トシテ將ニ電車ノ補助機関トシテ益々發展スルニ至ルハ疑
車ノ補助機関トシテ發達ス
乗合自働車ノ利用ナム必要トシ
スル場合

到來セナルヘシ然レトモ交通力稀薄ニシテ電車線ヲ敷設スルニ未タ收支相償フノ見込立タサル地域若ハ部落ノ聯絡ノ
爲乗合自働車ノ運轉ヲ開始シテ一時局部交通ノ要求ヲ充シ得ルノ場合ハ特ニ市ノ外部ニ於テ多ク現出スヘク將來ニ於
ケル自働車ノ効用ハ寧ロ此ノ方面ニ於テ遺憾ナク發揮セラルヘシ

第七章 道路

第一節 市内道路ノ現状

長及面積

現在東京市内ニ存スル公有道路ノ總延長ハ約五十三萬四千間(約六百七哩)ニシテ此ノ面積約二百五十六萬坪ナリトス
而シテ其ノ幅員タルヤ大小懸隔甚シシク狹キハ一間内外ヨリ廣キハ四十間ニ及フト雖其ノ總平均ハ約四間八分ニ過キ
ス而モ幅員六間以上ヲ有スルモノハ延長ニ於テ市内道路總延長ノ二割六分、面積ニ於テ市内道路總面積ノ五割三分ヲ
有スルノミ左ニ其ノ延長並面積ヲ示サン

第二十七表 (二) 東京市道路總面積並總延長

種	別	延	面	積	東京市總面積ニ對スル割合
全	部	五三四、七六六	二、五五九、二六〇		○、一一

(一) 幅員六間以上ヲ有スルモノ

種

別

長

面

積

東

市

道

路

總

延

並

對

スル

割

合

市區改正路線
其ノ他ノ路線
計

八九、七一九
四七、八八三
一三七、六〇二

九七四、六六二
三七一、〇三三
一三四、五、六九五

一一〇、三八一
二六〇、四五五
二六二、一四九

(三) 幅員八間以上ヲ有スルモノ

市區改正
其ノ他正
計

八〇、六一
一九、〇一六
九九、六二七
一一一、二〇八

道路納延長並道路總面積ニ對スル割合
延面積長積長積長積長積長積長

市區改正
其ノ他正
計

五三、三五四
六、四五三
五九、九六七
七六三、一七一

道路總延長並道路總面積ニ對スル割合
延面積長積長積長積長積長積長

種 別 延 長 面 積

延長面積

道路總延長並道路總面積ニ對スル割合

市區改正
其ノ他正
計

三五、五四五
四二二二〇
三九、七六五
五五八、八四九

延長面積
面積
面積長
面積長

(四) 幅員十間以上ヲ有スルモノ

種 別 延 長 面 積

延長面積

道路總延長並道路總面積ニ對スル割合

市區改正
其ノ他正
計

七〇二、四五
五六、三九八

延長面積
面積
面積長
面積長

一一〇、一〇
二一七、二二八

延長面積
面積
面積長
面積長

種 別 延 長 面 積

延長面積

道路總延長並道路總面積ニ對スル割合

市區改正
其ノ他正
計

六八二、一四一
八一、〇三〇
七六三、一七一

道路總延長並道路總面積ニ對スル割合
延面積長積長積長積長積長

種 別 延 長 面 積

延長面積

道路總延長並道路總面積ニ對スル割合

市區改正
其ノ他正
計

一一一、一〇
二一九、二二八

延長面積
面積
面積長
面積長

市區改正
其ノ他正
計

一一一、一〇
二一九、二二八

延長面積
面積
面積長
面積長

道
面積トノ
市内面積

即チ東京市内道路ノ總面積ハ市内全面積ノ約一割一分ニ過キス之ヲ歐米都市ノ實例ニ徵スルニ其ノ多クハ全市面積ノ二割乃至三割ヲ占メ華盛頓市ノ如キハ實ニ全面積(公園ヲ含ム)ノ四割三分ニ當レリ是レ東京市内ノ道路中既ニ改築ヲ了ヘタル分ハ相當ノ幅員ヲ有スルモ其ノ大部分ヲ占ムル殘餘ハ幅員狹隘ナル故ニ總計ニ於テ全市面積ニ對スル割合ハ低率ヲ示スコトニナル換言スレハ東京市ハ其ノ包擁スル面積ニ比シ道路面積ノ不足ヲ感セシムルモノアリ仍テ更ニ市區ノ改正ヲ斷行シテ道路ノ取擴、新線路ノ開設並連絡關係等ノ改良ヲ圖ラサルヘカラズ

第一節 市内道路ノ沿革

市區改正
ノ必要

凡ソ我國ノ道路中ニハ各府縣ノ主要都市ヲ連絡シ全國交通ノ幹道トナルヘキ國道及地方重要市邑ヲ連絡スル縣道アリ又此等幹線ヨリ分岐スル無數ノ里道アリ東京市附近ニ於ケル此等ノ道路ハ往時屈曲迂廻甚シク幅員モ亦狹隘ナリシカ市區改正ノ結果大ニ其ノ面目ヲ改メ今ヤ街衢稍よ整然交通亦便利タルニ至レリ然ルニ輓近時勢ノ變遷文運ノ發達ニ伴フ本市ノ發展ハ内外ニ亘リ更ニ著シキヲ加フルノ狀態ヲ呈シ通行貨物ハ年々激増シ來リ從來豫想セサリシ自動車ノ如キモ一度其ノ貌ヲ現スヤ急速度ヲ以テ增加シツツアルノ狀況ナルヲ以テ内部ニ對シ更ニ改良ヲ加ヘ外部ニ對シテハ一層郡市連絡ノ圓滑ヲ策スルハ亦已ムヲ得サル所ナルヘシ特ニ大東京圈内現在ノ郊外地ニ在リテハ今ニ於テ充分ニ將來ノ計畫ヲ定メ置キ家屋充塞後ニ於テ再ヒ市區改正ヲ行フノ必要ナキ様豫メ用意スルコト極メテ必要ナルカ如シ而シテ茲ニ之カ研究ヲ進ムル前ニ從來施行セル市區改正ノ經過ヲ知悉シ置クト便トスルヲ以テ左ニ其ノ概況ヲ叙述セントス抑ヒ市區改正ノ事業ハ東京市々政上其ノ沿革最モ古ク且ツ市民ノ休戚ニ關係スルコト最モ重大ナルモノタリ初メ明治十七年東京府知事ヨリ市區ヲ改良スルノ議ヲ起シ政府之ヲ容レ内務省内ニ委員ヲ設置シ以テ之カ審査ヲ爲サシメ翌十八年十月其ノ局ヲ結ヘリ而シテ國委員會ノ報告ニ基キ市區ノ交通、衛生、防火及通連等永久ノ利便ヲ圖ル爲同二十二年八月勅令第六十二號ヲ以テ東京市區改正條例ヲ發布シ同時ニ閣令第十四號ヲ以テ東京市區改正委員會ノ組織權限ヲ制定シ次テ翌二十二年五月東京府告示第三十七號ヲ以テ東京市區改正設計ヲ公示スルニ至レリ爾後該設計ニ從ヒ漸次從來正ノ市區改正ノ経過

之ヲ施行シツ、アリシカ明治三十五年ニ至リ前記ノ設計ハ餘リニ廣汎ニ失シ之ニ要スル費額モ亦多大ナルヲ以テ財源トノ關係上容易ニ其ノ完成ヲ見ルコト難クスケハ帝都ノ面目ニ關シ且交通ニ障害ヲ及ホスモノアル、ミナラス市民ヲ久シク不安ノ境遇ニ放置スルノ憾ナキ能ハス依テ須ラク之ヲ縮少シ可及的速成ノ方途ヲ講スヘシトノ議起リ市區改正委員會ハ審議ノ上之ヲ決定シ遂ニ翌三十六年三月市告示第三十六號ヲ以テ市區改正ノ新設計ハ公示セラル、ニ至レリ爾來時勢ノ進歩ニ伴ヒ速成ノ要アルヲ認ム明治三十九年度ヨリ同四十二年度ニ至ル期間ニ涉ソ其ノ計畫ノ大部ヲ實行シタリ以上ノ速成事業ニ於テ市内要部ノ改正ヲ了シ從ツテ舊來ノ面目ヲ一新シタリト雖其ノ當時既ニ市内及隣接町村發展ノ趨勢實ニ顯著ナルヲ示シ通路ノ施設ニシテ之ヲ遷延スルニ於テハ市都ノ連絡其ノ他交通上ノ不便多大ナルノミナラス延テハ危險事故ヲ釈スコトアルヲ以テ明治四十四年未成線ノ全體ニ亘リ之カ速成ヲ企圖シ既ニ其ノ大部ヲ完了セリ但シ其ノ間ニ於テ豫定計畫ニ數回ノ變更ヲ來タシ就中芝區三田功運町ヨリ高輪御殿前ニ至ル路線外六路線ノ追加ヲ見タリ而シテ以上市區改正計畫中其ノ大部分ハ實ニ道路改正ニアリキ

改正道路
ノ幅員ト
延長

道路改正ノ設計ハ國道ト縣里道トヲ間ハス市内交通ノ重要ナル程度ニ應シテ道路ヲ通スルヲ目的トシ之ヲ一等ヨリ五等ニ分類セリ即チ左ノ如シ

第二十八表 東京市區改正道路幅員及等級表

第一等	第一類	幅員二十間以上	中央車馬道十二間以上	左右歩道各三間以上
同	第二類	幅員十五間以上	同	十間以上
第二等		幅員十二間以上	同	八間以上
第三等		幅員十間以上	同	七間以上
第四等		幅員八間以上	同	五間以上
第五等		幅員六間以上	同	四間以上
				各三尺以上
但シ第四等五等道路ニ對シテハ歩車道ヲ區別セサルコトアルヘシ				

而シテ以上設計ノ改正道路ニシテ既ニ落成セル路線ノ數ハ幅員四十間ノモノ二線、同二十四間ノモノ四線、同二十間ノモノ五線、同十五間ノモノ九線、同十二間ノモノ二十線、同十間ノモノ二十五線、同八間乃至九間ノモノ三十七線、同六間ノモノ二十六線合計百二十八線ニシテ局部未成部分十七箇所（延長六千七百餘間）ヲ除キ其ノ延長約九萬間（約一百二哩）此ノ面積約九十八萬坪ナリトス其ノ他市區改正費目ニ依ラスシテ電車線路敷設ノ爲市區改正ヲ施行シタルモノアリ

第三節 市内道路ノ改正

東京市ノ
地勢ハ高
低起伏ニ
富▲

抑々東京市ノ地勢ハ一半ハ平地ナルモ他ハ高臺地ニシテ而モ高低起伏ニ富メリ即チ下町方面ハ本所深川兩區ノ如ク干潮面上僅カニ四尺乃至八尺ヲ有スル部分アルモ他ハ概ネ十尺乃至二十二尺ノ高サニ過キサルニ反シ山ノ手方面ニ於テハ上野公園ノ六十七尺、牛込若松町ノ百二十九尺、青山二丁目ノ百二十尺、三田功運町附近ノ九十三尺、駿河臺ノ十七尺、麹町十丁目ノ百十一尺、麻布材木町ノ百十一尺、本郷六丁目附近ノ八十四尺、小石川宮下町ノ九十尺ノ如キ高度ヲ示シ而モ以上各高臺地ノ間ニハ必ス谿谷ヲ存スルヲ以テ下町方面ヨリ此等ニ通シ若ハ高臺地間ヲ連絡スルノ道路ハ勢ヒ阪路ヲ生スルノミナラス路線ノ迂廻屈曲ヲ來スハ地勢上免レ難キ所ニシテ東京市現在ノ市街區劃ノ井然ヲ缺クハ已ムヲ得サル所ナリトス然リ而シテ東京市今日ノ交通狀態ヲ見ルニ郡市連絡道路トシテハ往時ヨリ東海道（品川）厚木街道（濱谷）甲州街道（新宿）青梅街道（淀橋）中仙道（巢鴨）岩瀬街道（王子）陸羽街道（千住）千葉街道（小松川）ノ八大幹線アリ此等ハ皆現在ニ於テモ市内中心地ヨリノ放射線トシテ重要ナル使命ヲ帶ヘリ然レトモ郊外ノ發展ハ以上ノ幹線ノミヲ以テ満足セシムベキニアラス尙市内中心部ヨリノ細分放射線トシテ山手線各停車場及其ノ外部ヲ連絡スヘキ多クノ必要ナル路線ヲ缺ケルノ現狀ナリ而シテ此等道路ハ現在狹小ナルニ拘ラス市ノ内外ニ通スル要路ニ當ルヲ以テ此等ノ改良ハ蓋シ焦眉ノ急ニ屬スト謂フヘシ即チ大崎、五反田、原宿、新大久保、高田馬場、目白、池袋、田端、日暮里等ト市内トノ連絡ニ於ケルカ如キ或ハ江東方面其ノ他ニ於テハ既定道路改正線ノ郡部延長ニ於ケルカ如キ之ナリ

市内道路
ノ将来

市内部ノ道路ニ就テモ亦時勢ノ要求カ其ノ現在ヲ以テ満足セシムヘカラサルモノアリ即チ人口ノ充實、通行貨物ノ増加ハ更ニ道路ノ新設ヲ促シ小名木川及越中島驛ノ新設ハ此等ト市内各所トノ連絡ヲ要求シ加之陸上輸送貨物ノ激増ハ一般道路ト荷車道路トヲ區別スルノ必要ヲ生シ其ノ他中心部ト各方面トノ連絡改善及築港計畫ニ伴フ埋立地連絡道路ノ新設ヲ促スモノアルヘシ。

今回道路
改正案ノ
方針

而シテ以上ノ新道路ヲ計畫スルニ際シテハ左記諸點ヲ考量シ且ツ既往ノ市區改正線ヲ可及的ニ活用スルノ方針ヲ採ルコト・セリ

一 市内ニ散在スル小中心地相互間及小中心地ト大中心地トノ連絡

二 鐵道停車場ト市内中心地トノ連絡

三 公園及遊樂場ニ通スル道路ヲ便ニスルコト

四 市役所、區役所、郵便局等ノ公共的建造物ニ通スル道路ヲ便ニスルコト

今回ノ道
路改正案

以上ノ方針ニ基キテ調査ヲ遂ケタル結果左表ニ示ス如ク此ノ際新設及収擴ヲ必要トスル道路百線ヲ撰定セリ其ノ延長九萬九百餘間ニシテ上記ノ市區改正延長ト略々同間數ヲ示セリ但シ以上ノ道路ノ内ニハ築港計畫ニ伴フ埋立地内ニ於

ケル新設道路モ含マル

員
新線ノ幅

更ニ新道路ノ輜負問題ニ就テ一言センニ先ツ品川ヨリ新橋ニ至ル間ノ如キハ東海道方面ニ通スル唯一ノ重要路線ナルニ拘ラス其ノ幅員ハ僅カニ九間乃至十間ニ過キシテ特ニ交通上ノ困難ヲ感シツ、アル區間ナリ此ノ道路ハ大ニ之ヲ擴大スルノ必要アルヘク此ノ意味ニ於テ本計畫新線中ニ之ヲ編入セリ其ノ他ノ路線ニシテ類似ノモノモ亦其ノ中ニ編入セルモノアリ尙本調査追加線ハ各自ノ狀況ニ應シテ其ノ幅員ヲ適當ニ定ムルノ要アルヘシ即チ最初ノ計畫狭キニ失センカ落成後數年ヲ出テスシテ第二ノ道路改正ヲ促スニ至ルコトアルヘク又廣キニ失センカ築造及鋪道設備ニ無用ノ工費ヲ要シ之カ維持修繕ニモ莫大ナル費用ヲ要スルノ缺點ヲ生スヘシ故ニ各線幅員ノ決定ハ慎重ナル考量ヲ要スヘキ問題ニシテ此等ハ詳細ナル街路交通調査ノ結果ヲ俟ツテ之ヲ定ムルヲ得策ト認メ之カ研究ヲ後日ニ讓ルコト・シ茲ニ

ハ暫ク單ニ此等路線輒員ノ最小限度ヲ十間ト爲シ置カントス

今其ノ新設改良路線名並延長ヲ示セハ次表ノ如シ(附圖第四號參照)

第三十表 東京市内道路取擴及新設箇所調

番號	路	線	名	延長	摘要	要
一	本所區向島三圍神社脇ヨリ荒川堤ニ沿ヒ郡市境界ニ至ル		二四三	島村方面ト三ノ橋通トノ連絡ノ爲		
二	本所區小梅町ヨリ曳船川ニ沿ヒ郡市境界ニ至ル		四七八	四ツ木街道古川方面トノ連絡ノ爲		
三	本所區中ノ郷業平町ヨリ郡市境界ヲ經テ龜戸天神裏ニ至ル		七三五	七三五 鶴橋通リト龜戸方面トノ連絡ノ爲		
四	本所區法恩寺橋ヨリ郡市境界ヲ經テ龜戸天神ニ至ル		八八五	八八五 本所區石原高通リト龜戸方面トノ連絡ノ爲(軌道敷設線)		
五	本所區江東橋ヨリ柳原町ヲ經テ城東電車停車場ニ至ル		三二七	三二七 江東橋通リト城東電氣錦糸町停留場トノ連絡ノ爲(軌道敷設線)		
六	本所區錦糸町四ノ橋通リヨリ郡市境界ニ至ル		二一二	二一二 千葉街道ニシテ市内ト小松川方面トノ連絡ノ爲		
七	本所區菊川橋ヨリ猿江裏町ヲ經テ本村町(四ノ橋通リ)ニ至ル		三一〇	三一〇 新大橋通リト四ノ橋通リ及小名木道トノ連絡ノ爲(軌道敷設線)		
八	深川區大鳥町ヨリ郡市境界ニ至ル		二三〇	二三〇 小名木道ニシテ二之江方面トノ連絡ノ爲		
九	深川區清住町ヨリ郡市境界ヲ經テ小名木川停車場ニ至ル	一、五〇五	一、五〇五	市内ト小名木川停車場トノ連絡ノ爲		
一〇	深川區西平野町ヨリ石島町ヲ經テ四ノ橋通リ豫定線ニ至ル	八六七	八六七	(高橋通リト四ノ橋通リトノ連絡ノ爲 (軌道敷設線))		
一一	深川區西平野町ヨリ久永町ヲ經テ郡市境界ニ至ル	一、一二四	一、一二四	(高橋通リト四ノ橋通リトノ連絡ノ爲 (軌道敷設線))		
一二	深川區浮海橋ヨリ東平井町左折猿江町ヲ經テ本所區須崎町郡市境界ニ至ル	三、五〇四	三、五〇四	三、五〇四 崎方町下仙臺堀沿千田町方面トノ連絡ノ爲		
一三	淺草區森田町ヨリ隅田川ヲ渡リ本所區横網二丁目ニ至ル	四〇七	四〇七	四〇七 隅田川沿レノ交通ヲ改善スル爲		
一四	本所區綾橋東詰ヨリ隅田川ニ沿ヒ兩國橋上ニ至ル	六〇二	六〇二	六〇二 隅田川沿レノ交通ヲ改善スル爲		
一五	本所區元町ヨリ深川區萬年橋ヲ經テ永代橋通リニ至ル	一一五	一一五	一一五 同上		

一六

深川區木場町ヨリ平久町埋立地ニ至ル

三一九

深川地先埋立地ト深川トノ連絡ノ爲

一七

深川區西平野町ヨリ築港計畫埋立地終端ニ至ル

一、八五〇

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

一八

深川區越中島町商船學校脇ヨリ工業試驗場ヲ經テ築港埋立地ニ至ル

六二〇

同上

一九

築港埋立地内南北路線

一、七一七

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二〇

深川區平富町ヨリ築港計畫南部埋立地終端ニ至ル

八八五

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二一

淺草區山谷町ヨリ橋場町ニテ隅田川ヲ渡リ曳船停車場ニ至ル

七八三

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二二

淺草區聖天町ヨリ橋場ヲ經テ郡市境界ニ至ル

一、一六八

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二三

本所區三間神社前ヨリ隅田川ヲ渡リ吉原堤防ヲ經テ下谷區金杉町ニ至ル

八九

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二四

下谷區山谷町ヨリ郡市境界ヲ經テ豫定線ニ至ル

三五四

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二五

下谷區中根岸町ヨリ郡市境界ヲ經テ豫定線ニ至ル

一、九一〇

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二六

淺草區橋場町郡市境界ヨリ三輪ヲ經テ日暮里停車場ニ至ル

六〇二

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二七

下谷區上根岸町ヨリ郡市境界ヲ經テ三河島停車場附近ニ至ル

三五四

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二八

淺草區千束町ヨリ田原町ニ至ル

六八一

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

二九

下谷區萬年町電車通りヨリ松葉町ヲ經テ淺草公園脇豫定線ニ至ル

一、七三五

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

九三八

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

日本橋區橋本町ヨリ下谷區竹町ヲ經テ坂本町電車通りニ至ル

一、六六四

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

六六四

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

三〇

本郷區弓町ヨリ神田區五軒町ヲ經テ淺草區元鳥越町ニ至ル

二二一

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

神田區旅籠町豫定線ヨリ淺草區茅町電車通りニ至ル

三四

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

神田區和泉橋ヨリ佐久間町豫定線ニ至ル

三四

市内ト築港埋立地トノ連絡ヲ圖ル爲

神田區表神保町ヨリ雄子橋通りヲ經テ両橋先左折電車通りニ至ル

三四

三五

日本橋區濱町一丁目ヨリ箱崎町ヲ經テ靈岸町ニ至ル

九四七

靈岸島方面ト兩國橋方面トノ連絡ヲ圖ル爲

三六

日本橋區土州橋ヨリ箱崎町豫定線ニ至ル

六二

土州橋ヨリ三十五號線迄ノ連絡ヲ圖ル爲

三七

日本橋區靈岸橋脇ヨリ入船町ヲ經テ上柳原町豫定線ニ至ル

一、〇五三

永代橋通り靈岸橋方面ト京橋區明石町方面トノ連絡ヲ圖ル爲(大部分軌道敷設)

三八

京橋區靈岸橋脇ヨリ船松町ニテ隅田川ヲ渡リ築港埋立地ニ至ル

一、四九六

京橋區南紺屋町方面ト月島ヲ經テ築港埋立地方面トノ連絡ヲ圖ル爲(一部分軌道敷設)

三九

京橋區築地三丁目ヨリ隅田川ヲ渡リ築港埋立地ニ至ル

八四二

京橋區築地方面トノ連絡ヲ圖ル爲(一部分軌道敷設)

四〇

新橋脇豫定線ヨリ隅田川ヲ渡リ築港埋立地ニ至ル

一、二三九

新橋方面ト築港埋立地方面トノ連絡ヲ圖ル爲

四一

神田區柳原町電車通リヨリ日本橋區青物町ヲ經テ遙信脇豫定線ニ至ル

一、一四二

秋葉原駅ヨリ日本橋方面ヘノ荷車道ヨリ日本橋方面ヘノ荷車道

四二

日本橋區江戸橋北詰ヨリ江戸橋ヲ渡リ右折青物町左折新橋脇ニ至ル

一、四七八

大通線ノ混雜ヲ緩和スル爲(電車敷設)

四三

神田區多町ヨリ西河岸町ヲ經テ京橋區八官町ニ至ル

一、八七六

大通線ノ混雜ヲ緩和スル爲(電車敷設)

四四

神田區須田町交叉點ヨリ松下町ヲ經テ電話本局前通リニ至ル

五七五

新橋方面トノ連絡ヲ圖ル爲

四五

神田區小川町電車停留場ヨリ松住町停留場ニ至ル

五七六

新橋方面ト東京驛方面トノ直

四六

神田區御茶ノ水橋外濠電車通リヨリ龍岡町湯島切通ニ至ル

五四五

須田町、小川町間ノ混雜ヲ緩和スル爲

四七

神田區旅籠町ヨリ不忍池脇ヲ經テ根津八重垣町ニ至ル

五五二

御茶ノ水橋方面ト湯島切通シ方面トノ連絡ヲ圖ル爲

四八

不忍池ヨリ下谷區櫻木町ヲ經テ千駄木坂下町ニ至ル

一、一五一

昌平橋方面ト本郷動坂方面トノ直接連絡ヲ圖ル爲

四九

本郷區駒込千駄木坂下町ヨリ日暮里停車場ニ至ル

一、一五二

不急池方面ト谷中方面ト及動坂方面トノ連絡ヲ圖ル爲

五〇

小石川區白山前町ヨリ動坂ヲ經テ田端停車場ニ至ル

一、一五八

不急池方面ト谷中方面ト及動坂方面トノ連絡ヲ圖ル爲

五一

小石川區駕籠町ヨリ動坂町ニ至ル

一、一五九

不急池方面ト谷中方面ト及動坂方面トノ連絡ヲ圖ル爲

五二

牛込區通寺町ヨリ小石川區竹早町ヲ經テ動坂電車通リニ至ル

一、一九八

牛込區坂方面ト本郷區根津動坂線

五三

下谷區根津八重垣町ヨリ掃除町及都市境界ヲ經テ大塚停車場ニ至ル

一、一九八二

下谷區坂本町方面、小石川掃除町方面及大塚駒込連絡ヲ圖ル爲

下谷區池ノ端茅町豫定線ヨリ本郷區彌生町豫定線ニ至ル

三九八

(池ノ端不忍池方面ト本郷通り方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

小石川區表町電車通リヨリ柳町ニ至ル

三五四

(小石川區表町方面ト柳町方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

小石川區大塚町電車通リヨリ池袋停車場ニ至ル

五六

(市内ト池袋停車場トノ連絡ヲ圖ル爲)

小石川區江戸川橋ヨリ護國寺前豫定線ニ至ル

五七

(江戸川城下護國寺方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

小石川區竹早町大塚電車通リヨリ高田老松町ラ經テ第六〇號線ニ接續スル線

五九

(江戸川區竹早町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

小石川區江戸川橋ヨリ鶴巻町都市境界ヲ經テ高田村口台停車場脇ニ至ル

六〇

(江戸川區竹早町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

小石川區高田豊川町豫定線ヨリ都市境界ヲ經テ穴八幡豫定線ニ至ル

六一

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

牛込區横町ヨリ戸山學校裏ニ沿ヒ鄰市境界ヲ經テ高田馬場管轄ニ至ル

六二

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

牛込區馬場下町豫定線ヨリ四谷區鹽町ニ經テ霞ヶ丘豫定線ニ至ル

六三

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

四谷區仲町ヨリ郡市境界ヲ經テ大久保町豫定線ニ至ル

六四

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

四谷區舟町ヨリ四谷局脇ニ至ル

六五

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

千駄ヶ谷停車場附近鄰市境界ヨリ代々幡村ニ至ル

六六

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

赤坂離宮脇ヨリ權田原町ニ至ル

六七

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

赤坂區青山南町ヨリ郡市境界ヲ經テ山手電車道ニ至ル

六八

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

芝原下高輪町品川電車通りヨリ天現寺橋青山墓地及那市境界ヲ經テ千駄ヶ谷町大通りニ至ル

六九

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

赤坂區新町

七〇

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

麹町區永田町

七一

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

赤坂區田町ヨリ新町ヲ經テ新坂町ニ至ル

七二

(江戸川區高田豊川町方面ト自白塚及清戸方面トノ連絡ヲ圖ル爲)

七三	赤坂區裏町ヨリ福吉町ヲ經テ芝區西久保城山町ニ至ル
七四	麻布區今井町ヨリ仲ノ町ニ至ル
七五	麻布區材木町ヨリ日ヶ窪町ニ至ル
七六	麻布區宮村町豫定線ヨリ郡市境界ヲ經テ青山電車終點ニ至ル
七七	麻布區宮村町ヨリ宮村町左折、左折三光町ヲ經テ白金鑑町電車通リニ至ル
七八	芝區赤羽町三田電車通リヨリ麻布區盛岡町ニ至ル
七九	芝區松本町電車通リヨリ金杉町ヲ經テ芝浦埋立地ニ至ル
八〇	芝區新錢座町ヨリ新綱町ヲ經テ金杉濱町ニ至ル
八一	芝區三田四國町薩摩原電車通リヨリ三田電車通リニ至ル
八二	芝區寺町ヨリ品川電車通リニ至ル
八三	麻布區四ノ橋通リヨリ郡市境界ヲ經テ恵比壽停車場ニ至ル
八四	赤坂區青山高樹町ヨリ郡市境界ヲ經テ澁谷町豫定線ニ至ル
八五	芝區白金三光町都市境界ヨリ澁谷町田ヲ經テ恵比壽停車場ニ至ル
八六	芝區白金臺町目黒電車通リヨリ大崎町五反田豫定線ニ至ル
八七	芝區白金臺町目黒電車通リヨリ大崎町五反田ニ至ル
八八	芝區二本榎町豫定線ヨリ白金臺町目黒行電車通リニ至ル
八九	芝區白金臺町目黒電車通リヨリ聖坂ヲ登リ二本榎町及郡市境ヲ經テ大崎停車場ニ至ル
九〇	新橋ヨリ品川八ツ山下電車終點ニ至ル
九一	札ノ辻ヨリ芝浦埋立地ニ至ル

一、一一五

御成門方面ト赤坂區新町方面トノ直接連絡ノ爲
麻布區鳥坂方面ト溜池方面トノ連絡

一七七

麻布區十番通りト材木町方面トノ連絡
ノ爲(軌道敷設)

三二七

原木街道接續、澁谷方面ト麻布區十番
方面トノ連絡ノ爲

一五六六

芝區白金鑑町方面ト麻布區四ノ橋十番
飯倉通りトノ連絡ノ爲

一五四〇

札ノ辻通りト麻布區廣尾方面トノ連絡
ノ爲

一五一

札ノ辻通りト芝浦埋立地連絡ノ爲

七〇八

沙留亭ト芝區金杉方面トノ連絡ノ爲
荷車道

六七三

麻布區三ノ橋方面ト品川通りトノ直路
ヲ開ク爲(軌道敷設)

二〇四

札ノ辻通りト三田通りトノ連絡ノ爲
荷車道

一七七

麻布區三ノ橋方面ト品川通りトノ直路
(恵比壽駅四ノ橋方面トノ連絡ノ爲
大部分軌道敷設)

七七〇

恵比壽駅ト青山高樹町方面トノ連絡
ノ爲

七四三

恵比壽駅ト青山高樹町方面トノ連絡
ノ爲

五三一

中原街道接續、五反田駅ト芝區白金臺
町方面トノ連絡ノ爲

五八四

中原街道接續、五反田駅ト芝區白金臺
町方面トノ連絡ノ爲

一、〇六二

中原街道接續、五反田駅ト市内トノ連
絡ノ爲(軌道敷設)

一、〇六〇

芝區白金鑑町通りト二本榎通りトノ連
絡ノ爲(大部分軌道敷設)

一、一六八

大崎駅ト市内トノ連絡ノ爲

三、〇〇九

東海道接續、現在道路幅員狹隘ナル爲

五四〇

芝浦埋立地連絡ノ爲

九二 芝浦埋立地及築港計畫埋立地内海岸ヨリ第一路線

一、二八三 埋立地内道路ニシテ東海道線ノ混雜ヲ緩和スル爲

九三 同 上

第二路線

一、一七七 同 上

第三路線

九四 同

上

九八二 同 上

九九一 同 上

九五 品川八ツ山下ヨリ築港埋立地東部終端ニ至ル

九九一 八ツ山下方面ト埋立地トノ連絡ノ爲電車敷設ノ爲

九六 本所區柳島元町郡市境界ヨリ龜戸停車場ニ至ル

九九一 音羽八丁目附近ト高田老松町方面トノ連絡ノ爲

九七 小石川區江戸川橋通り豫定線ヨリ高田老松町豫定線ニ至ル

九九一 音羽八丁目附近ト高田老松町方面トノ連絡ナ圖ル

九八 鶴町區富士見町五丁目ヨリ牛込見附ニ至ル

九九一 九段方面ト神樂坂方面トノ連絡ナ圖ル

九九 鶴町區飯田町五丁目ヨリ牛込見附ニ至ル

九九一 九段方面ト神楽坂方面トノ直接連絡ヲ圖ル

一〇〇 本所區江東橋ヨリ法恩寺橋ニ至ル

九九一 錦糸町駆出貨物ニ便センカ爲

合計一百線

九〇、九六三

第四節 郊外道路ノ改正

新線ノ選定

郊外ニ於ケル道路ハ大東京ノ内現在ノ郊外ト市部トノ連絡及郊外各部間ノ交通ヲ便ニセンカ爲放射路線トシテ十九線、循環線トシテ四線、荒川改修川内堤ニ沿フ路線一線其ノ他十一線、計三十六線ヲ撰定セリ而シテ其ノ放射路線ハ市内中心地ヨリ各方面ニ放射スル道路ニ接續スルモノニシテ多クハ現在街道筋即チ東海道、厚木街道、中仙道、千葉街道等ヲ利用シ之ヲ改良セントスルニアリ

次ニ循環線ハ放射道ニ對スル横道ニシテ放射道ヲ相互ニ連絡スルノ作用ヲナスモノナリ即チ左ノ如シ

第一線 品川ニ起リ大體山手線ニ沿ヒテ王子ニ至ルモノ(内線)

第二線 品川最南端ニ起リ大井町、板橋町、王子町ヲ經テ荒川ヲ渡リ西新井ニ至ルモノ(五哩線)

第三線 大森町ノ南端ニ起り洗足池、中野停車場附近ヲ經テ赤羽ニ至ルモノ

第四線 羽田ニ起り荻窪停車場東上鐵道ノ練馬停車場附近ヲ經テ志村ニ至ルモノ(外線)

員新線ノ幅
以上郊外道路ノ延長ハ十八萬二千餘間ニシテ郊外面積一平方哩ニ對シ道路延長千百間ヲ有スル割合ニ當ル然リ而シテ茲ニ定タル路線ハ是レ皆主要幹線ノミニシテ其ノ他多クノ第二流及第三流ノ道路ヲ必要トスヘシ然レトモ此等ハ局部ノ事情ヲ基礎トシテ決定スルノ要アルヘク暫ク後日ニ讓ラントス

ハ將來必要ニヨリ總テ路面電車ノ敷設ヲ可能ナラシメンカ爲最少幅員ヲ十間ト限定セリ

路線名稱並其ノ延長ヲ示セハ左ノ如シ(附圖第一號參照)

第三十一表 東京市郊外道路取擴及新設個所調

番號	路	線	名	延長	摘要	要
九	東	海	道 (放射路線)			
八	淺	間	街 道 (同 上)			
七	中	原	街 道 (同 上)			
六	下	野	毛 道 (同 上)			
五	厚	木	街 道 (同 上)			
四	甲	州	街 道 (同 上)			
三	青	梅	街 道 (同 上)			
二	川	越	街 道 (同 上)			
一	九	八	七	六	五	四
	清	戶	道	○	七	六
	川	越	街	一	一	○
	九	八	七	五	一	○
	七	六	五	四	一	五
	六	五	四	三	一	四
	五	四	三	二	一	三
	四	三	二	一	一	二
	三	二	一	一	一	一
	二	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一

市部線
九〇號接續
〔自品川至多摩川川〕
〔自南品川下丸子宿至矢口村上丸子宿〕
〔自五反田至調布村上丸子宿〕
〔自目黒至玉川村上野毛〕
〔自目黒至玉川村上野毛〕
〔自新宿至千歲村鳥山宿〕
〔自新宿至石神井村宿〕
〔自目黒至白子宿〕
〔自白子宿至石神井村宿〕

市部線
八六號八七號接續
〔自新宿至千歲村鳥山宿〕
〔自新宿至石神井村宿〕
〔自目黒至白子宿〕
〔自白子宿至石神井村宿〕

市部線
五九號接續

〔自下子板至石神井村宿〕
〔自白子宿至石神井村宿〕
〔自白子宿至石神井村宿〕
〔自白子宿至石神井村宿〕

一〇	中仙道(同上)	五、三一二
一一	岩槻街道(同上)	二、四四七
一二	三河島停車場ヨリ荒川沿(同上) 豫定線ヲ經テ新郷村ニ至ル	五、七五六
一三	陸羽街道(同上)	三、三五四
一四	下妻街道(同上)	四、六〇一
一五	陸前濱街道(同上)	四、〇五四
一六	橋ヲ渡リ立石道ニ至ル(同上)	五、〇五四
一七	千葉街道(同上)	五、八五八
一八	行徳街道(同上)	三、三七〇
一九	小名木道及(同上)	一、七四八
二〇	新川河岸通(同上)	四八七
二一	大森町ヨリ大師河原ニ至ル	九七二
二二	山手大塚停車場ヨリ庚申塚豫定線ニ至ル	一、五一二
二三	田端停車場金杉道ヨリ南足立郡上尾久荒川ニ至ル	一、一九七
二四	日暮里停車場脇ヨリ下尾久ヲ經テ荒川ニ至ル	二、四三四
二五	王子町ヨリ南千住町ニ至ル	二、六五七
二六	王子停車場ヨリ荒川ニ沿ヒ豫定線ニ至ル	二、一五一
二七	上根岸ヨリ日暮里下田端ヲ經テ王子停車場ニ至ル(金杉道)	一〇、八八六
二八	荒川改修線ニ沿ヒ路線 南足立郡豊島渡シ荒川ニ沿ヒ豫定線ヨリ西新井大師附近豫定線ニ至ル	酸曹會社方面ト西新井(十二號線ニ接続)方面トノ連絡ノ爲
		市部線 二七號接續
		自集 至戸
		自王 至岩
		自三 至高
		自南 至府
		自千 至千
		自花 至金
		自寺 至寺
		自旅 至旅
		至小岩村伊與田所
		自小岩村伊與田所
		至瑞川大島町
		自深川大島町
		至新川大島町
		自松川村
		至穗川村
		自田村
		至橋村
		自村町
		至町村
		自界町
		至村町
		自洲村
		至淵町
		自田町

二九

清草高輪町隅田河岸ヨリ隅田川ヲ渡リ新荒川堤豫定線ニ至ル

一、〇一五

南千住方面ト隅田村方面トノ連絡ノ爲
古部線

三〇

本所區請地町郡市境界ヨリ第二十九號線ニ合スル路線

五二五

古部線(向島方面ト甘九號
三號三號接續) 線下ノ連絡ノ爲

三一

荒川沿豫定線ヨリ堀切橋ヲ渡リ陸前濱街道ニ至ル

二、〇八六

隅田村方面ト龜青村方面トノ連絡ノ爲
新荒川及江戸川ノ間ニ介在スル地域ニ
對シ南北ノ交通ヲ築スル爲

三二

小松川道

五、七五三

新荒川及江戸川ノ間ニ介在スル地域ニ
對シ南北ノ交通ヲ築スル爲

一

品川八ツ山橋ヨリ王子停車場ニ至ル(市外循環線)

一〇、三六八

各放射線路ノ連絡ヲ圖ル爲

二

大井停車場ヨリ王子町ニ至ル (同 上)

一三、一七六

各放射線路ノ連絡ヲ圖ル爲

三

大森町ヨリ赤羽停車場脇ニ至ル (同 上)

一七、五七八

各放射線路ノ連絡ヲ圖ル爲

四

羽田鈴木新田ヨリ北豊島郡志村ニ至ル(同 上)

二〇、八〇一

各放射線路ノ連絡ヲ圖ル爲

合計 三十六線

一八二、三二四

第五節 歩車道ノ境界

道路ハ歩
車道ニ區別
分スルノ
必要アリ

茲ニ一言ヲ要スヘキハ歩車道ノ境界問題ナリトス市内交通ノ繁劇ナルニ從ヒ事故ノ發生ヲ梗スハ免レサル所ニシテ道路ハ必ス歩車道ニ區別シ交通上ノ保安ヲ策セサルヘカラス

然ルニ東京市内ニ於テ歩車道ノ區別アル路線ハ主トシテ市區改正ヲ施セル幅員十間以上ノモノニシテ其ノ路線延長僅々約五萬餘間(東京市道路總延長ノ十分ノ一、六間以上道路延長ノ百分ノ三十七)ニ過キナルノ狀態ナリトス而シテ東京市内ノ電車複線路ノ敷設シ得ラル。道路幅員ハ最少限度九間(有効幅員八間)ニシテ市内電車軌條敷設路線ノ内九間道路ハ就中最大延長ヲ有セリ今此ノ九間道路ニ歩車道ノ區別ヲ附セシニハ軌道敷三間其ノ左右ハ一般車道トシテ少クトモ各二間ノ幅員ヲ要スルカ故ニ歩道敷トシテハ僅々左右各一間ヲ殘スニ過キス而モ此ノ一間内ニハ各種電柱其ノ他地上露出物及地先下水アルヲ以テ有効歩道幅員ハ僅カニ二尺乃至三尺ヲ殘スノミニシテ殆ド其ノ効用ヲ爲サルヘシ

故ニ現在ハ電車軌條ヲ敷設スル道路ニシテ全幅員九間ノ場合ハ已ムヲ得ス歩車道ノ境界ヲ附セシテ全幅員十間以上
 電車敷設員
 道路ノ幅員
 歩車道區別道路ノ幅員
 テハ幅員十二間以上、市外ニ在リテハ幅員十間以上トスルコト並電車軌條ノ敷設ナキ道路ニシテ幅員八間以上ヲ有ス
 ルモノハ歩車道ニ區分スルコトニ方針ヲ改定スルノ要アルヘシ而シテ道路幅員ヲ定ム。ルニハ其ノ局部ノ状態ヲ考量シ
 通行貨物ノ種類及數量等ヲ斟酌シテ断定スヘキヤ勿論ナリト雖小賣商店街、會社銀行街等ニ在リテハ車道邊石ニ添フ
 ノ一要件
 道路上車ニ就キ方ニ就テハ從來之ヲ取締ルヘキ規則無ク交通上ニ支障ヲ及ホスコト大ナルヘキヲ以テ總テ邊石ニ
 テ自働車其ノ他ノ車輛カ一列ニ停車スル場合ヲ幅員算定ノ一要件ニ加フルノ要アルヘシ
 尚道路上車ノ置キ方ニ關シテハ從來之ヲ取締ルヘキ規則無ク交通上ニ支障ヲ及ホスコト大ナルヘキヲ以テ總テ邊石ニ
 添ヒ路線ノ方向ニ平行ニ置クコト及荷積荷卸ニ關スル取締規則ヲ設ケラレンコトヲ希望スルモノナリ

第六節 路面ノ改良

現在既ニ
 路面ノ破損大ナリ
 將來ハ自働車大ニ
 増加スヘシ
 輓近自働車ノ交通激増ニ伴ヒ市内重要道路面ニ無數ノ四所班點ヲ生シ路面ノ甚シキ損傷ヲ見ルニ至レリ而シテ今自働車増加ノ割合ヲ調査スルニ頗ル顯著ナルモノアリ即チ明治四十年末ノ市内及隣接郡部合計僅ニ十二臺ニ過キサリシモ五箇年後ノ大正元年末ニ於テ約三百臺ニ及ヒ更ニ五箇年後ノ大正六年末ニ於テ千三百二十六臺ヲ算シ更ニ大正八年三月末ニ於テ一千二百五十六臺(但シ宮内省陸軍省大公使館ノ分ヲ除ク)ニ達セリ之ヲ歐米ノ現状ニ比較スルトキハ千數百臺ト云フモ殆ト論スルニ足ラサル少數ナルカ如シ而モ既ニ路面ニ重大ナル損傷ヲ及ホスコト此ノ如シ而シテ今ヤ自動車ハ愈々實用的ニ大ニ發達セントスルノ機運ニ向ハントセリ加之大正七年度ヨリ軍用自働車補助法ハ實施セラレ其ノ増加ハ更ニ一層速カナルモノアラン此ノ趨勢ヲ以テセハ數千臺乃至一二萬臺ヲ算スルニ至ルコト決シテ遠キ將來ヲ俟タサルヘキノミナラス都市ノ繁榮ニ伴ヒ一般荷車モ漸次增加スルハ數ノ免レサル所ニシテ市内橋梁敷板ノ如キモ既ニ之ニ耐フル能ハス漸次橋面ヲ鋪石若ハ鋪木ニ改造シツ、アルカ如キ實狀ニ徵スルモ明ナリ

一般荷車
 も亦増加

馬車及荷車ノ合計數ハ十九萬三千臺ニシテ一箇年前即チ大正五年十月現在ニ比シ約二萬臺ノ增加ヲ示セリ現在ニ於テ既ニ然リトセハ將來ノ發展ニ對シテハ原始的ナル砂利道ノ如キハ毎年増加スル通過物ニ對應センカ爲相當ノ修繕費ヲ投スルトスルモ修理ニ次クニ修理ヲ以テシ遂ニハ一般交通上ニ一大故障ヲ惹起スルニ至ルヘキヤ明ナリ是レ車道路面ノ大改良ヲ必要トスル所以ニシテ而モ之カ普及ニハ財政上相當ノ年月ヲ藉ササル可ラサルノ事情ニ想到セハ之ニ着手ノ急務ナリ

ハ實ニ刻下ノ急務ニシテ一日ヲ緩フスヘカラサルノ緊急問題タルヘシ

而シテ其ノ改良ノ範圍ハ自働車其ノ他一般荷車ノ比較的多ク通過スル道路ハ六間以上ノ幅員ヲ有スル路線ナルヲ以テ先以テ此等路面ノ改良ニ着手スルノ要アルヲ認ム其ノ延長十三萬七千六百間、面積百三十四萬六千坪ナリトス然レトモ刻下ノ問題ハ車道部ニアルヲ以テ歩車道ノ區別アルモノハ車道部、其ノ區別ナキモノハ全幅員（電車軌道境界下水及地下水敷ハ之ヲ除ク）ニ改良ヲ施ストセハ鋪設正味面積八十八萬坪トナル

第七節 地下埋設物並路上工作物ノ整理

地下埋設物
整理ノ要

（イ）地下埋設物

世界何レノ都市ニ於テモ其ノ公道下ニ多クノ地下工作物ヲ埋藏セサル處ナシ而シテ市街ノ繁盛ヲ加フルニ從ヒ此等地下埋設物ノ數ハ益々多キヲ加フルニ至ルモノニシテ東京市ニ於テハ電氣及瓦斯事業ノ勃興ト共ニ從來水道管、下水管及小數ノ電信電話ノ電纜等ニ過キナリシ地下埋設物モ日ヲ逐フテ益々複雜ヲ來シ其ノ新設異動亦極メテ頻繁ナルニ至レソ然ルニ之ヲ現狀ノ儘ニ放置センカ遂ニハ其ノ所在ヲ知ルノ困難ニ陥ルノ結果必要以外ニ屢々路面ヲ掘鑿破壊セサルヘカラサルニ至リ且路面ノ改良モ愈々實行期ニ入ラントスルノ機運ニ向ヒツヨアルノミナラス亂埋ノ結果重要地下工作物ノ新設ニ對シテ餘地ナキニ至ラントス是レ地下埋設物ノ整理ヲ必要トスル所以ナリ

而シテ地下埋設物ノ敷設方法ヲ大別スレハ二種類トナル其ノ一ハ大管路式トモ名ツクヘキモノニシテ地下ニ大暗渠ヲ設ケ其ノ内部ニ總テノ地下埋設物ヲ收容セントスルモノ他ハ單管路式トモ稱スヘキモノニシテ各地下物ヲ各別ニ埋設

スルモノナリトス而シテ歐米大都市ノ實例ヲ見ルニ多ク單管路式ヲ採用シ大管路式ハ僅カニ巴里市ヲ主トシ其ノ他倫敦「グラスゴー」市等二三ノ都市ニ於テハ試驗的ニ一小部分實施シタルニ止マリテ現在ハ中止ノ狀態ニアルカ如シ但シ巴里市ト雖埋設物ノ全部ヲ包容スル純然タル大管路式ニアラスシテ瓦斯管並高壓電纜ハ危險ナリトシテ之ヲ別ニ埋設セリ而モ此ノ洞道ハ新規ニ築造シタルニアラスシテ下水道用大隧道ノ既ニ存在セルヲ利用シタルニ遇キス而シテ各都市當局者ノ意見ハ大管路式ハ理想的整理方法ナリト認ムルモ而モ尙之カ實行ヲ避ケツ。アルハ新設ニ巨費ヲ要スルノミナラス既設埋設物移轉ノ至難ナルニ因ルモノニシテ新設ノ道路ニ在リテハ或ハ採用スルモ可ナラント云フニ一致ス然リト雖單管路式ヲ採用セシ多クノ歐米都市ニ於テハ此等各管ノ埋設方ニ關シ相當ノ秩序保タレアルカ如シ然ルニ東京市ニ於テハ從來埋設物ニ對スル方針存セスシテ各企業者ハ個々別々ニ而モ任意ニ之ヲ埋設セルカ故ニ遂ニ今日ノ如キ亂脈ヲ察セルナリ仍テ本調査會ハ地下埋設物ニ對シ左記ノ如キ大體方針ヲ採ルノ急務ナルヲ認メタリ

地下工作物築造ニ關スル大體方針

地
下
工
作
物
築
造
ニ
關
ス
ル
大
體
方
針

一、地下工作物トハ道路ニ築造埋設スル電信、電話、電氣信號用地下線路、上水道、下水道、瓦斯管路、電燈、電力、電氣鐵道用地下線路、交通及運輸用地下道並工作物、空氣、蒸氣輸送管路ノ類ヲ云フ

二、本規定ハ幅員四間以上ノ道路ニ之ヲ適用ス

三、下水道幹線路ハ道路ノ中央ニ之ヲ築造シ其ノ頂部ト道路面トノ距離ハ十尺以上タルコト

但シ工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ限リ之ヲ三尺迄縮シ得ルコト

四、歩車道ノ區別アル道路ニ在リテハ各種工作物ノ幹線路ハ之ヲ車道ニ又各戸ニ配給スル支線路ハ之ヲ歩道ニ敷設スルコト

五、歩車道ノ區別ナキ道路ニ在リテハ各種工作物ノ幹線路ハ道路ノ中央其ノ幅員三分ノ二以内ニ之ヲ敷設シ各戸ニ配給スル支線路ハ其ノ兩側各六分ノ一以内ニ之ヲ敷設スルコト

六、上水道、瓦斯管路、空氣、蒸氣輸送管路ノ幹線ハ道路ノ一側ニ敷設シ電氣用幹線路ハ他ノ一側ニ敷設スルコト

七、車道ニ於ケル各種幹線路ノ土冠ハ四尺以上タルコト

八、地下交通及運輸線路ハ其ノ頂部ト道路面トノ距離ハ二十尺以上タルコト

九、前七、八ノ場合ニ於テ適當ノ防護裝置ヲ施ストヤハ各地下工作物ノ頂部ト路面上トノ距離ハ之ヲ相當ニ短縮シ得ル餘地ヲ設クルコト

埋設物整理ノ方法

斯ク大體方針ヲ定ムト雖之ヲ幅員四間以上ノ舊來ノ道路ニ應用センニ各種幹線ヲ包容スル大管路式ヲ採用センカ道路延長約二十八萬間、大管路築造費簡略リ約二百圓ト見積ルモ五千六百萬圓ノ巨費ヲ要シ之ニ既埋物ノ移轉費ヲ加フルトキハ恐ラク一億圓以上ノ巨額ニ上ルク尙又單管路式ヲ採用シ同時ニ之ニヨリ既設物ヲ整理セントセハ是レ又移設ニ巨費ヲ要シ實際問題トシテ取扱フコト殆ト不可能ナルヘシ故ニ本調査會ノ意見ハ前記ノ大體方針ハ主トシテ市區改正其ノ他新設道路築造ノ場合ニ之ヲ適用シ一般道路ト雖新規埋設ヲ要スル場合ニ於テハ成ルヘク之ニ據ラシムルノ方針ヲ採ラントスルモノナリ而シテ屢々路面ノ掘鑿ヲ要スルハ幹線部ヨリモ寧ロ支線路ナルヲ以テ殆ト固定的ノ既設物ヲ有スル現存道路ニ支線收容國ヲ歩道地下ニ築造シ之ニ支線管ヲ收容スルトセハ路面掘鑿ノ度數ヲ大ニ減スルノミナラス配給ニ便スルコト多大ナルヘシ仍テ幾分本末顛倒ノ嫌アルヲ免ナルモ茲ニハ此ノ方式ヲ採ランコトヲ推奨セントス

(ロ) 路上工作物

路上露露出
必要
埋設物整理ノ方法

路上工作物トハ地下埋設物ニ相對スル名稱ニシテ各種電柱、鐵塔、變壓塔、開閉塔等路上ニ樹立シタルモノ、總稱ナリトス、東京市ニ於テハ過去文明ノ遺物タル電柱カ到ル所ニ林立シ又其ノ電線ハ蜘蛛ノ巣ノ如ク縱横ニ空中ヲ占領シ都市ノ美觀ヲ損スルノミナラス街樹ノ發育ヲ害シ更ニ交通ヲ支障スルコト甚大ナリ、都市ノ美觀、路旁樹ノ發育ヲ顧慮スルハ都市行政上ノ重要問題ニシテ更ニ交通上ノ障礙ヲ除去センコトハ實ニ刻下ノ急務ナリトス、是レ路上露露出物ノ整理ヲ必要トスル所以ナリ

然リ而シテ地下埋設物ト路上工作物トハ極メテ密接ノ關係ヲ有ス何トナレハ路上工作物ヲ減少シ若ハ之ヲ路上ヨリ驅逐スルニハ空中ヨリ移シテ之ヲ地下ニ埋設スルノ外良策ナキヲ以テナリ

歐米大都市ノ實例

之ヲ歐米大都市ノ實例ニ徵スルニ紐育市ニ於テハ一八八四年州會議ハ法律ヲ發布シ電線ハ總テ地下線タラサルヘカラスト規定セリ倫敦市ハ郊外部ヲ除クノ外總テ地下線式ニシテ伯林市ニ於テハ強電流線ハ總テ地下線トナシ電信、電話

線ハ家屋上ニ建設セラレタルモノアルヲ見ル其ノ他ノ大都市孰レモ大同小異ニシテ殆ト地下線ニ整理セラレタリ

路上露出
物ノ整理

然ルニ東京市内道路上ニ樹立セル電柱ノ狀態ヲ見ルニ電流強弱ノ關係上同一ノ柱ニ架設ヲ許サナルモノアルハ已ムヲ得ストスルモ同シク電話用ノ電柱ニシテ各官廳各別ニ建設スルカ如キハ其ノ間相當ノ理由存スヘキモ其ノ所屬ヲ異ニ

スルカ故ニ重複ノ施設ヲ爲スカ如キハ謂ハレナキノ甚シキモノニシテ此等ハ電柱ノ構造(或ハ鐵筋混擬土柱)ヲ改メ其ノ性質上許シ得ヘキモノハ共同架設トナスニ於テハ相當員數ノ電柱ヲ減シ幾分交通ノ障碍ヲ除去スルヲ得ヘシ

乍併共同架設ハ根本的整理ニ達スル一階梯ナランモ素ヨリ姑息的ナルヲ免レス政府ニ於テモ新願ニ對シテハ地下線ニアラサレハ認可セサルノ方針ヲ採リツ、アルモノ、如シ仍テ一步ヲ進メテ現存セル電柱(電車用ポールヲ除ク)ヲ根本的ニ驅逐シ地下線トナサンコトヲ希望スルモノナリ電線失レ自身ヨリ見ルモ架空線ハ火災、風雪ノ被害多ク爲ニ往々重要ナル通信ノ阻害セラル、コトアルヲ以テ之ヲ地下線トスルヲ寧ロ安全ノ策トスヘシ而シテ之カ實行方法トシテハ前述ノ如ク歩道内或ハ道路ノ一側ニ地下埋設支線收容函ノ建設ヲ見ルニ至ラハ架空線ハ殆ト之ニ收容スルヲ得テ電柱ノ問題モ亦略々解決スルヲ得ヘキカ

第八節 坂路並低地ノ整理

坂路整理
ノ必要

東京市ノ地勢ハ一半ハ高低起伏ニ富ムヲ以テ此等ニ通スル道路ハ勢ヒ坂路ヲ免レサルコト第三節ニ述ヘタルカ如シ然リ而シテ從來ノ道路改正ノ跡ヲ尋ヌルニ路線ヲ迂曲セシメテ成ルヘク坂路ヲ避ケタルノ跡ナシトセス縦令坂路ヲ新設スルニ方リテモ單二人ノ通行ニ重キヲ置キタル結果其メ勾配急ニシテ一般貨物運搬用荷車ハ恩惠ニ浴スルコト極メテ薄ク依然大迂廻ヲ爲シテ之ヲ避ケツ、アルノ狀態ナルヲ以テ其ノ經濟上ニ及ホス損害ハ蓋シ相當大ナルモノアルヘシ加之急坂ニ於テハ衝突其ノ他ノ事故發生スルコトアルヘシ例ヘハ九段坂ハ勾配約九分ノ一ノ急坂ナルヲ以テ下町方面

ヨリ市ヶ谷方面ニ配給スル貨物ハ外濠ニ沿ヒ大迂廻ヲ爲スカ如キ或ハ麻布三ノ橋及古川橋附近ヨリ品川驛方面ニ來往スル貨物ハ其ノ直路線ニ比シ數倍ノ大迂廻ヲナスカ如キ或ハ日比谷方面ヨリ青山方面ニ出ツルニ三宅坂及赤坂見附坂ノ急坂アルカ爲溜池通ヲ迂廻スルカ如キ之ナリ而シテ右ノ第一及第三例ノ如キハ勾配ヲ或程度迄緩和スルハ容易ノ事業ナルヘク第二例ノ如キハ直通貨物ニ對シ高輪臺下ニ隧道ヲ開鑿スルカ如キ概ネ其ノ地勢及場所ニ應シテ急坂ヲ緩和シ交通ノ圓滑ヲ圖ルコトヲ得ヘシ

以上ハ單ニ一二ノ例ヲ示シタルニ過キサルモ東京市内ノ交通狀態ヲ仔細ニ觀察スレハ此ノ種ノ急坂ニシテ交通ニ支障ヲ及ホス個所ノ意外ニ多キニ喫驚ヲ禁シ得サルヘシ本調査會ハ未タ之ニ關スル詳細ナル材料ヲ有セサルニ依リ一々具體的ニ之カ救濟策ヲ指示スルヲ得サルヲ甚タ遺憾トスルモノニシテ茲ニハ唯坂路整理ノ必要ナルヲ力説スルト同時ニ將來ノ道路改正ニ際シテハ勾配ニ對スル制限規定ヲ設クルノ必要ナルヲ主張スルニ止メントス

低地整理ノ必要整理事項
本所、深川兩區ノ如キハ其ノ土地甚々卑濕ニシテ隅田川沿岸ヲ除クノ外ハ概ね堤防ニ依リテ圍繞セラレ辛フシテ潮水及河水ノ浸水ヲ防止スルト雖大潮時ニ際シ南風ヲ受クルニ於テハ常ニ浸水ノ厄ヲ免レサルノ區域甚タ多キヲ占ム若シ夫レ一旦豪雨ニ際セハ潮汐ノ干満ニヨリテ排水ハ阻害セラレ被害頗ル大ナルモノアリテ衛生上ハ固ヨリ交通上ニ支障ヲ及ホスコト少カラサルナリ即チ其ノ最高キ處ニ於テハ十二尺ノ部分ナキニアラサルモ大部分ハ七尺乃至八尺ニシテ本所區柳島、梅森町附近及深川區千田町附近ノ如キ僅カニ四尺乃至五尺ヲ有スル區域モ亦相當ノ面積ニ達セルカ如シ其ノ他下谷、淺草方面モ一部七尺乃至八尺ヲ有スル部分ヲ含メリ而シテ排水ノ問題ニ至リテハ唧筒ノ据付其ノ他特種ノ方法ヲ講スルニ於テハ或程度迄其ノ目的ヲ達セサルニアラサルモ地ヒケノ完全ナルニ如カサルヘシ故ニ衛生及交通ノ兩面ヨリ見テ將來ノ方針トシテハ家屋建造ニ對シ一定ノ地盤高ヲ規定シ夫レ以下ノ地盤ニ於テハナツ許可セサルカ如キ充分強制力アル法令ノ發布ヲ希望スルモノナリ

砂村	高田村	巢鴨村	三河島村	寺島村	目黒村	吾嬬町	大島町	龜戸町	日暮里町	瀧ノ川町
合計										
四一八										
一五、八七四										
七四、〇四六										
二二八										
八四二										
二、七九八										
九五、四九八										
一九三、〇七九										

備考 砂村ハ風水害ノ爲帳簿書類流失セシヲ以テ調査ノ途ナク之ヲ除ク

自働車ハ大正八年三月調査二千二百五十六臺ナリ但シ宮内省、陸軍省、大公使館ノ分ヲ除ク

第八章 運河

第一節 東京 内河川ノ現狀

東京市内ニ於ケル河川數ハ大小六十七(隅田川及其ノ派流並芝浦、月島、深川地先埋立地間運河ヲ含ム)ニシテ延長四萬九千三百三十間餘(二十二里三十丁餘)、此ノ水面積百二十五萬九千七百坪(東京市全面積ノ百分ノ五)ナリトス其ノ内隅田川及其ノ派川ヲ除キタル六十五ノ枝川ハ隅田川ヲ中心トシテ左右ニ展開配置サレタルモノニシテ枝川延長四萬三千九百十六間此ノ水面積六十三萬七千八百七十七坪(平均幅員十四間五分)ナリトス而シテ其ノ配布ノ狀態ヲ見ルニ

隅田川ノ左岸即チ本所、深川方面ニ於テ最モ發達シ隅田川ノ右岸ニ在リテハ京橋區、日本橋區等ノ如キ低地ノミニ於テ發展セルハ東京市ノ地勢的關係上已ムヲ得サルモノナルヘシ然レトモ東京市ハ本邦重要都市中大阪市ニ次キ水運ニ富ム都市ニシテ之カ爲東京市ノ經濟上ニ及ホス效果ハ極メテ大ナルモノアリ

第二節 現在ニ於ケル河川利用ノ狀況

水運ニ
ル貨物ノ
出入狀況

大正六年中ニ於ケル東京市ノ貨物集散高ハ一千百十八萬四千九百七十四噸ニシテ之ヲ輸出入ニ分テハ即チ輸出三百十五萬七百九十三噸、輸入八百三萬四千百八十一噸ニ達ス此ノ如ク輸入ノ輸出ヨリ多キハ東京市カ消費地タルノ關係ヲ説明スルモノナリ而シテ其ノ内水運ニ依ルモノハ輸出ニ於テ百十三萬八千百七十六噸、輸入ニ於テ三百十五萬二百七十六噸、合計四百二十八萬八千四百五十二噸ニシテ水運貨物ハ實ニ東京市總集散貨物ノ三割八分三厘ニ當レリ

然リ而シテ水運ニ依リ東京市ニ輸入セラル、貨物ノ經路ヲ辿ルニ隅田川内荷役ノモノハ鐵砲洲附近ニ入港シ更ニ駁船ニ積換ヘラレテ市内數十ノ枝川ニ達シ横濱及品川沖荷役ノモノハ駁船ニ積取リノ儘或ハ鐵砲洲附近ニ於テ更ニ小舟ニ積換ノ上市内隨所ノ河川ニ入り常總方面其ノ他ヨリスルモノハ小名木川、堅川等ヲ經テ夫々輸送セラレテ枝川沿ノ倉庫ニ達スルモノトス而シテ東京市輸出入水運貨物四百二十八萬八千餘噸ノ内横濱港、品川沖及隅田川内荷役ノモノ四百九萬四千噸ニシテ殘リ十九萬四千噸ハ運河ニヨリ常總地方其ノ他ニ出入スルモノトス乍併市内水運ノ利用ハ以上輸出水運貨物四百二十八萬餘噸ノミニ限ラル、ニアラス即チ鐵道便ヲ利用スル貨物ト雖沙留驛、隅田川驛、秋葉原驛、飯田町驛等ニ集散スルモノハ經濟上能フ限リ水運ヲ利用スルヤ勿論ニシテ其ノ他一旦各河岸ノ倉庫ニ收藏セラレタル貨物ト雖更ニ水運ニヨリテ移動セラル、モノアルヘシ此等ニ對スル數字ハ之ヲ知悉スルニ足ル材料ヲ有セサルモ是レ亦相當ノ數量ニ上ルナラン

隅田川及
枝川ノ効

由來東京市ノ水運ハ隅田川ヲ中心トスル水運ニシテ其ノ河幅ト水深ノ乏シキニ拘ラス尙其ノ航行上ノ障碍多キニ拘ラス一箇年少クモ六七百萬噸以上ノ貨物ハ現ニ此等ノ諸河川ヲ上下スルニ依リテ能ク市内一般ノ要求ヲ充タシ併セテ廣

大ナル東北地方一體トノ經濟關係ヲ保テリ即チ貨物ノ積卸及收藏ニ供スル諸般ノ設備ハ隅田川ノ沿岸ヨリ延テ市内數十ノ枝川ニ擴カリ水路遠近ノ輸送ニ適スル無數ノ機關ハ多年ノ運用ト經驗トニ依リテ能フ限リノ發展ヲ遂ケタリ約言スレハ船船荷役ノ方法ト之ニ伴フ諸般設備ノ充實ハ今日東京市水運ノ現狀ヲ語ルモノニシテ河川利用ノ關係ハ東京築港ノ後ト雖何等狀勢ヲ異ニセサルノミナラス益々其ノ度ヲ高ムルモノナルヘシ

河川ト工場

河川ノ效用實ニ上述ノ如シ然レトモ豈唯夫レノミニ止ランヤ由來水運ト工場トハ概シテ相離ルヘカラサルノ關係ニアルモノニシテ凡百ノ大工場中其ノ多クハ水利ノ地ヲ占ムルニ由リテ知ラルヘク本所、深川方面特ニ隅田川、小名木川沿岸ニ於ケル工場今日ノ發達ハ市内河川中物資集散ニ便ナル水運ヲ有スルニ基因スレハナリサレハ大東京内將來ノ運河ヲ考察スルニ方リテハ先決問題トシテ工場地域ヲ豫定スルノ必要アルヘシ

第三節 市内及隣接郡部ニ於ケル工場發展ノ趨勢

工場ト大都市トノ關係

由來工場ハ其ノ土地カ其ノ業務ニ特別ノ關係アルモノ、外ハ原料產地及販賣地ノ遠近、交通ノ便否、使用シ得ヘキ動力ノ如何ニヨリテ其ノ位置ヲ決スヘキノ理ナルモ從來ノ傾向ニ徴スレハ多ク大都會ニ集中シ小都會ニ分散スルコト少シ是レ畢竟大都會ハ貨物集散ノ地ニシテ運輸ノ便備ハリ從テ運搬費用廉ナルニ因ルモノナリトス而シテ都會ノ愈々大ヲ致スハ商業ノ隆盛ト工業ノ發達トニ俟ツヘキモノ多シ然レトモ之ヲ自然ノ發展ニ放任センカ一都市ノ商業中心地カ工業ノ中心地ヲ兼ね或ハ地價比較的低廉ナル住宅地域ニ工場ノ散在ヲ見ルニ至リ都市ノ衛生及安寧上遂ニ社會的一大問題ヲ惹起スルニ至ルヘシ之カ實例歐米都市ニ乏シカラス

工場ノ市内

抑々工場敷地トシテハ一般ニ經濟上都市ノ場末地帶ノ如キ地價低廉ニシテ而モ水陸運輸ノ便ヲ備ヘタル地域ヲ撰定スルヲ可ナリトスルコト論ヲ俟タサル所ニシテ今日商業區域内ニ散在スル多クノ工場ト雖其ノ建設ノ當時ニアリテハ場末地域ナラナル迄モ恐ラク今日ノ如ク商業的發展ヲ見ナリシ地ニ在リタルナルヘシ然レトモ其ノ土地ニ非サレハ作業ニ適スル職工ヲ得難キモノアリ或ハ其ノ製作品ノ主タル顧客ヲ其ノ地域ニ求ムルモノアリ或ハ工場建設費ノ少額ヲ欲

シテ他ヲ省ナルノ結果地價低廉ナル地域ヲ撰定スルモノアリ或ハ他ニ適當ノ用地ヲ求ムルコト困難ナル事情アリテ已ムヲ得サルニ出ツルモノアリ或ハ工場ノ性質ニ依リテハ何レノ地域ニ於テモ經濟上大ナル支障ヲ生セサルモノアル等全ク個々ノ事情ノミニ制セラレテ商業地域竝住居區域内ニ工場ヲ建設スル場合決シテ少シトセサルヘシ蓋シ此ノ如キハ一都市ノ大局ヨリ達觀シテ永ク放置スヘキモノニアラサルナリ我東京市ノ如キモ元小賣商街及住宅地トシテ發達シタルモ社會ノ進運ハ工業ノ發展ヲ促シ今ヤ各工場ノ建設ハ市内及接續町村到ル所ニ散在シ地理的關係ヨリ見テ將來ノ住宅地タルヘキ地域ニ迄及ハントセリ

大正六年末ノ調査ニ依ルニ東京市内ニ於ケル工場數ハ五千七十四ニシテ内動力ヲ使用スルモノ四千二十八、使用職工八萬七千五百五十二人ニ達シ此等工場ノ生産スル商品ノ價額ハ實ニ年額二億千四百十七萬八千五百九十七圓ニ達セリ左ニ市内各區ニ於ケル工場増加ノ趨勢ヲ表示セン

第三十五表 東京市内各區別工場數表（大正六年未調査）

區名	原動力ヲ使用スルモノ	原動力ヲ使用セサルモノ	計	使用職工數
麹町	三〇九	三二一	六四	一、五二二
神田	三〇九	三二一	六五	一、七七三
日暮橋	五〇八	七	一〇四	一、六五三
牛込橋	三七一	一四六	一四	一、三一六
赤羽坂	一五三	六五四	一六七	一二、六九九
麻布谷込	四五	六五四	五〇	二、二六〇
芝坂	一六二	六三	一〇六	二二三
新宿区	二六五	一八八	一八八	八五四
本郷	二六二	一八二	二四	一、九八〇
石川	二六五	一六二	二六	四、〇六八
小金井	二六五	二六六	二六	二、六六九

所在地	工場種類	特別	織維機械化學飲食品雜合計
小石川	麹町	上	六五三六八五五
牛込谷	本橋	一	一九八二五二四〇七九五三七
赤坂	田中	一	四四二五二一三
麻布	橋	一	二一五一五四五三一
芝坂	區	一	一九九三二二八五二七二四五三
京谷	區	一	五〇三六七八三
神坂	區	一	二六五七三一五四
日暮坂	區	一	五〇三六七八三
赤坂	區	一	五〇三六七八三
麻布	區	一	五〇三六七八三
芝坂	區	一	五〇三六七八三
麹町	區	一	五〇三六七八三

第三十七表 東京市内外工場法適用工場數表 (大正六年十月現在)

次ニ工場法ノ適用ヲ受ケタル東京市及隣接郡部内所在工場數及工場種別表ヲ示サン

合	深	本	淺	下
川	所	草	谷	
計	區	區	區	
四、〇二八	五七五	七二三	三六二	二九八
一、〇四六	一四六	一九〇	九七	九一
五、〇七四	七二二	九〇三	四五九	三八九
八七、五五二	一二、九〇三	二一、二七〇	三、八七九	三、五〇三

		本下淺本		川所草谷		鄉區區區	
		市內小計	市外小計	荏原郡	多摩郡	豐島郡	北足立郡
總計	一四二	一一一	一八一	五〇五	五四二	一四二	三十一
	一四二	一一一	一八一	五〇五	五四二	一四二	三十一
	二九四	一五一	三三一	四三四	五四二	二四六	二四七
	七六九	一六七	五〇四	四一六	二七一	一四二	一七九
	四四五	二五八	一一〇	一六一	二七一	一四二	五六六
	六四	一六	八一	三三一	三三一	一四二	三六八
	四〇九	七五	二〇三	二六二	二六二	一四二	四四四
	一、九九五	六七九	二三二	二六二	二六二	一四二	一五五

右ノ表ニ依リテ工場カ市内ニ於テ如何ニ散布サレアルカラ窺フニ足ルヘシ而シテ市内十五區中工場ノ最モ少キハ山谷、赤坂兩區ニシテ之ニ次クモノヲ本郷、牛込及麹町ニシテ其ノ最モ多キハ本所。深川ノ兩區ナリトス是ヲ以テ視ルモ江東ノ地ハ水運ニ富ムヲ以テ工場地トシテ地理的ニ優先ノ位置ニアルコトヲ想像シ得ヘシ

次ニ隣接郡部ニ於ケル工場散布ノ状態ヲ見ルニ工場法適用ノモノ市部ニ於テ千三百十六ナルニ郡部ハ六百七十九ニシテ郡部ハ市部ノ約二分ノ一二當レリ而シテ其ノ最モ多キハ南葛飾郡ノ二百二十二ニシテ大島、龜戸、寺島、吾嬬、砂村一帶ノ工場地域ヲ有スルニ依ルナルヘタ、次ハ荏原郡ノ百六十七ニシテ大井、大崎方面ニ新工場ノ建設サレタルニ依ルナルヘタ、次ハ北豊島郡ノ百五十七ニシテ王子、岩淵、三河島方面ノ工場地區ニ適スルニ因ルナルヘシ然リ而シテ既往數年間ニ於ケル東京市内工場増加ノ趨勢ヲ見ルニ明治四十年未僅々五百ニ過キサリシモノノ十箇年後ノ

市内工場
数ノ増加
ヨリ見テ
ノ定ム
アリ

郡部ニ於
ケル工場
現狀

大正六年未ニ於テ十倍ノ激増ヲ示シ其ノ工場數五千七十四ヲ算スルニ至レリ即チ一箇年平均五百餘ヲ增加セル割合ニ當ル此ノ勢ヲ以テ進マンカ工場ハ益々商業及住宅區域内ニ雜居シ遂ニ取捨スヘカラサルノ狀態ニ陥ラントス蓋シ工場地域ニ就テ多大ノ考量ヲ拂フコトハ東京市刻下ノ急務ナリト謂フヘシ

第四節 將來ノ工場地域

工場地域
ナ限定ス
ルニ就テ
サフルヘキ
點

工場地域ノ限定ハ現在ニ於ケル工場分布ノ狀態、其ノ種類、動力使用ノ有無及規模ノ大小等ヲ精査シタル上決定セサ
ルヘカラス即チ工場ノ性質及種類ニ依リテハ商業區及住宅區内ニ存セシメテ可ナルモノアルヘク或ハ商業區及住宅區
内ニ存セサルヘカラサルモノモアルヘシ又工場地域ヲ限定スルニ於テモ工場ノ多クハ水利ヲ必要トスルモノ中ニハ必シ
モ水運ノ便ヲ要セサルモノモアルヘク或ハ造船所ノ如ク相當ナル水面ヲ要スルモノモアリ或ハ運河ヨリモ寧ロ鐵道ト
ノ關係密接ナルヲ要スルモノアリ或ハ火薬其ノ他ノ危險物工業ニシテ一般工業ト隔離スルヲ要スルモノアル等狀況一
様ナラサルヲ以テ夫等ヲ適當ニ案配セサルヘカラス然レトモ此等地域ヲ限定スルコトハ後日ニ讓リ茲ニハ只交通上ノ
施設ヲナサンカ爲ニ總括的ニ將來大東京ノ工場地トシテ發展セシムヘキ地域ヲ定ムルニ止メントス即チ左ノ如シ

一、江東ノ地ハ土地平坦ニシテ運河ニ富ム加フルニ荒川及江戸川ノ改修ハ長ヘニ洪水氾濫ノ害ヲ脱セシメ新荒川亦
舟運ノ便ヲ開キ舊中川及江戸川ハ運河トシテ利用ニ便ナリ故ニ江東一帶ノ地ハ工場敷地トシテ適當ナルモノナ
ラン

尙江戸川モ改良ノ計畫決定セルヲ以テ前項地域ニシテ充塞スルニ至ラハ新荒川ヨリ江戸川ニ至ル廣大ナル地域
モ亦工場地域トシテ適當ナルヘシ

二、千住ヨリ三河島、王子、岩淵方面ニ至ル隅田川沿岸地域ハ新荒川ノ掘鑿ニヨリテ洪水氾濫、土砂流出ノ厄ヲ免
レ而モ運河トシテ市内中心地ニ直通スルヲ以テ絶好ノ工場地ナルヘシ
三、品川ヨリ大崎方面ハ鐵道ノ便アルニヨリ工場地トシテ現在既ニ相當ノ發達ヲ遂ケタルヲ以テ目黒川ノ改良ヲ々

シ其ノ發展ヲ助長セシムルコト亦適當ナル處置ナルヘシ

四、多摩川ノ沿岸(主トシテ矢口村以下)及大森ヨリ多摩川(羽田獵師町附近ニ至ル地域モ水運ノ便アルヲ以テ工場地トシテ適當ナリ

五、越中島及月島地先埋立地ハ越中島鐵道ノ敷設ニ依リテ水陸ノ便ヲ兼備スルニ至ルヘク是レ又適當ノ工場地タルヘシ

運河ノ新設

工場地域既ニ定マリタリトセハ新ニ運河ヲ開鑿シ或ハ舊來ノ河川ヲ改良シテ可及的ニ該地方ノ物資輸送ノ便ヲ圖ラサルヘカラサルハ勿論其ノ他一般ノ枝川ト雖不便ノ箇所ヲ改修シテ通運ノ效用ヲ發揮セシメサルヘカラス本調査會ハ研究ノ末次表ノ運河ヲ改修又ハ新設スルヲ適當ナリト認ヌタリ

即チ江東方面ニ於テハ曳船川ヲ改良シテ四ツ木街道ニ沿ヒ龜有附近ニ於テ舊中川ニ會セシメ之ヲ横斷シテ金町附近ニ於テ江戸川ニ通セシメタルカ如キ或ハ新川ヲ改修シテ江戸川ヨリ舊中川ヲ横キリテ小名木川ニ通スル航路ヲ改善シタルカ如キ或ハ二十間川ト境川トノ連絡ヲ圖リタルカ如キ或ハ舊中川、北十間川合流點ヨリ大島町及砂村ノ中央ヲ貫キ海岸ニ至ル運河ヲ新設シタルカ如キ又千住、三河島、王子、岩淵方面ニ於テ縱横ニ運河ヲ新開シ工場地トシテ益々其ノ利用ヲ圖リタルカ如キ之ナリ左ニ其ノ路線名並延長ヲ表示セン(附圖第一號參照)

第三十八表 改修及新設運河路線及延長表

番號	路線名	延長	摘要	要
一	大森町ニ起リ羽田村ニ至リ多摩川ニ合スル運河改修	一、九四四 <small>同</small>		
二	品川ヨリ上目黒ニ至ル目黒川改修	四、三四二	<small>大森ヨリ羽田ニ至ル方面工場地域トシテ發展ニ便センカ爲</small>	
三	金杉川口ヨリ天現寺ニ至ル古川改修	二、三一一	<small>物資集散ニ便センカ爲</small>	

四	船河原橋ヨリ落合村山手線鐵道附近ニ至ル江戸川改修	二、三一一	物資集散ニ便センカ爲
五	荒川合流所ヨリ板橋ニ至ル瀧ノ川改修	二、三九八	同 上
六	岩淵町赤羽驛ヨリ中豐島ヲ經テ荒川ニ至ル運河新設	一、八九六	南千住ヨリ岩淵ニ至ル方面工場建設ニ便センカ爲
七	北豐島郡抄紙部分工場脇新設運河ヨリ荒川野新田渡シ附近ニ至ル運河新設	二二一	同 上
八	王子火薬製造所脇ヨリ三河島ヲ經テ荒川ニ至ル運河新設	一、五四二	同 上
九	尾久村小塙渡シヨリ田端驛ヲ經テ日暮里驛附近ニ至ル運河新設	二、三九八	同 上
十	日暮里驛附近新設運河ヨリ下尾久ヲ經テ荒川ニ至ル運河新設	一、四六〇	同 上
十一	本所區押上町ヨリ木田村及金田町ヲ經テ江戸川ニ至ル曳船運河ノ改修	五、七四六	曳船川ト江戸川トノ連絡ノ爲
十二	中川ヨリ龜戸村及大島村ヲ經テ砂村海岸ニ至ル運河新設	二、二〇三	工場建設ニ便センカ爲
十三	横十間川ヲ延長シテ海ニ達スル運河新設	四二五	横十間川ト海面トノ直路ヲ開カシカ爲
十四	二十間川ト境川トノ連絡運河新設	三五四	二十間川ト境川トノ連絡ノ爲
十五	葛西村新小松川ヨリ新川口江戸川ニ至ル新川改修	二、〇三〇	小名水川、中川及江戸川ノ相互連絡ヲ良好ナラシムル爲
十六	新川ヨリ桑川新田ニ至リ海ニ達スル運河新設	一、一四五	工場建設ニ便センカ爲
合計	十 六 線	三二、七二六	

茲ニ一言スヘキハ目黒川、江戸川(市内)及瀧ノ川改良ニアリトス目黒川ハ現在ニ於テ大崎町附近迄、瀧ノ川ハ最下流部ニ於テ僅カニ小舟ノ運行ヲ見ルモ其ノ利用ノ程度殆ト云フニ足ラサルナリ江戸川ハ淺草、神田、小石川、麴町ノ各區間ニ介流スル神田川ノ支川ニシテ船河原橋ヨリ上流ノ稱ナリ而シテ現在神田川ハ市内ニ最モ深ク入り込ミタル河川ニシテ全川舟運ニ適シ其ノ効用大ナルモ江戸川ニ至リテハ船河原橋々下附近ニ於テ神田川ノ川底ト高低ヲ異ニシ舟運ノ便ナシ然ルニ本川ヲ改良シテ航路ヲ開クニ於テハ該地方ノ發達ハ元ヨリ經濟上ニ及ボス利益實ニ莫大ナルヘシ而シ

市内河川
△改良チ
△要スヘキ
△ノアラ
△モモロ
△航通調査
△運河ノ幅
△員

リ

河岸停船
△關スル
△取締規則
△コト
△ト

テ其ノ改良區域ニ至リハ目黒川ハ川口(品川)ヨリ厚木街道(上目黒)附近迄、瀧ノ川ハ王子(隅田川トノ合流點)ヨリ板橋町迄、江戸川ハ船河原橋ヨリ戸塚村山手線附近迄ヲ豫定セリ然レトモ未タ始終點間ノ高低ノ差及流量ニ對スル確實ナル材料ヲ有セサルヲ以テ暫クスケ豫定セルニ過キシテ此等ノ資料ヲ得タル上ハ自然豫定改修區間ニ變更ヲ來ストアルヘシ即チ三川共最下流部ヨリ一定ノ區間ハ海面ヲ標準トシテ河底ヲ掘鑿スト雖地盤ノ高低ハ或ハ全線ニ亘リ斯カル方法ヲ採ルヲ不得策タランメ得ヘク其ノ幾部ハ閘門式其ノ他ニ依ランニ河水ノ流量ハ通船ノ能率ヲ左右スルヲ以テ其ノ如何ハ結局改修可能區域ノ延長ニ影響ヲ及ホスナルヘシ若シ夫レ其ノ他ノ河川ニ至リテハ各川連絡ノ改善、幅員ノ擴張、水深ノ増大等尙改良ヲ要スヘキモノ多々アランモノ河川航通調査ヲ俟テ論スルコトアルヘシ、但シ河川運河ノ幅員ニ於テ現在航通ノ頻繁ナルモノハ之ヲ少クモ二十五間以上ニ擴大シ水深ハ大潮干潮面以下五尺ニ淡深スルコト並新規開鑿ノ運河ノ幅員深度モ之ニ準スルヲ適當ナリト認メタ上ニ

然ルニ如何ニ河川ノ幅員ヲ取擴ムルモ航通ニ關スル取締ヲ嚴ニセザランニハ其ノ效果ハ著シク減殺セラルヘシ例ヘハ河岸ニ沿ヒ船舶カ二重三重ニ停船スルカ如キ或ハ長手ヲ護岸ニ直角ナラシメツ。船舶ヲ碇泊セシムルカ如キ或ハ其ノ停船時間ニ何等ノ制限ナク隨テ長時間同一箇所ニ碇泊スルカ如キ何レモ河川ノ混雜ヲ來シ航路ヲ閉塞シ延テ交通ヲ阻害スルコト尠少ナラサルモノアリ仍テ河岸停船ニ關スル取締規則ヲ設ケ之ヲ勵行セシムルコト及重要ナル河川ニハ木材疊積ノ如キ水面ノ使用ハ絶體ニ許可セサルコト及之ヲ許可シ得ル他ノ河川ニ於テモ疊積ノ亂雜ナラサル様取締ヲ嚴ニセンコトヲ希望スルモノナリ

尙河川運河ニ架設シアル橋梁ニシテ水面上ヨリ桁下ニ至ル高サ充分ナラス爲ニ満潮ニ際シ小蒸氣船及荷積駁舟ノ通航不可能ナルモノアリ此ノ如キハ航通上大ナル支障タルヘク而モ航路中只不滿足ナル一橋存スルノ故ヲ以テ全航路ノ運命ヲ左右スル場合少カラサルヘシ仍テ河川及運河ニ架設スル諸橋梁ニ對シテハ満潮面上ヨリ其ノ桁下ニ至ル最少有效高ヲ規定スルノ必要アルヲ認ム

第三十九表 東京市河川一覽表

河川名稱	位	置	延長	面積	幅員最廣	幅員最狹	平均幅
荒川	橋場ヨリ御濱御殿ニ至ル	左岸深川區越中島町八番地ヨリ越中島最端ニ至ル、右岸個町ヨリ佃島町二十六番地ニ至ル	一、一一〇、九〇	四、五〇、三二、五〇坪	二六九、五	一五〇、〇	一五三、五
大川派川	北荒川區荒井町地先ヨリ大島町ヲ經テ龜久町ニ至ル、南深川區諸町十三番地大島川油堀川ヨリ今川町南仙塙堀川	深川區諸町四番地ヨリ洲崎辨天町二丁目十六番地ニ至ル	一、一〇一、一〇	一六〇、一五、一〇坪	二六一、五	一四、六	一五三、五
大島川	大島川西支川	深川區入船町三番地先大島川ヨリ同區扇町九番地先仙臺堀川	一、一〇一、一〇	一六〇、一〇坪	二〇、八	六、九	六、六
大島崎川	仙臺堀川	堀川ニ至ル	一、一〇一、一〇	一六〇、一〇坪	一四、四	六、三	十、零
大島川東支川	仙臺堀川	堀川ニ至ル	一、一〇一、一〇	一六〇、一〇坪	一四、二	九、〇	一三、三
大島川西支川	仙臺堀川	堀川ニ至ル	一、一〇一、一〇	一六〇、一〇坪	一四、一	七、二	一六、〇
大島黒江川	深川區永堀町仙臺堀川交叉口ヨリ油堀川交叉口ニ至ル	同區萬年町仙臺堀交叉口ヨリ油堀川交叉口ニ至ル	一、〇四、〇〇	一九、三九、〇〇	一九、三八、六	九、〇	一四、六
北黑江川	深川區中島町十六番地大島川角ヨリ始町二丁目一番地松島橋ニ至ル	深川區中島町十六番地大島川角ヨリ始町二丁目十三番地先ニ至ル	一、〇四、〇〇	一九、三九、〇〇	一九、三八、六	九、〇	一四、六
中之堀川	深川區堀川町四番地先大島川西支川角ヨリ佐賀町二丁目十三番地先隔田川角ニ至ル	深川區堀川町四番地先大島川西支川角ヨリ佐賀町二丁目十三番地先隔田川角ニ至ル	一、〇四、〇〇	一九、三九、〇〇	一九、三八、六	九、〇	一四、六
油堀川	深川區佐賀町十八番地隔田川出口角ヨリ島田町七番地築地橋堀森角ニ至ル	深川區佐賀町十八番地隔田川出口角ヨリ島田町七番地築地橋堀森角ニ至ル	一、〇四、〇〇	一九、三九、〇〇	一九、三八、六	九、〇	一四、六
油堀東支川	東深川區敷矢町油堀本川ヨリ東仲町ニ至ル	東深川區敷矢町油堀本川ヨリ東仲町ニ至ル	一、〇四、〇〇	一九、三九、〇〇	一九、三八、六	九、〇	一四、五
油堀西支川	東深川區石鳥町十五番地大横川交叉口ヨリ横十間川ニ至ル	東深川區石鳥町十五番地大横川交叉口ヨリ横十間川ニ至ル	一、〇四、〇〇	一九、三九、〇〇	一九、三八、六	八、九	一四、五
二十間川	南深川區西平井町富士見橋ヨリ東平井町ニ至ル、北同上	佳町富士見橋々塗ヨリ同町二百八十九番地ニ至ル	一、四八五、五〇	一九、九〇六、九〇	一九、九〇六、九〇	一七、〇	一三、〇
十間川	南深川區望往町一番地大横川交叉口ヨリ横十間川ニ至ル	北深川區望往町一番地大横川交叉口ヨリ横十間川ニ至ル	一、四八五、五〇	一九、九〇六、九〇	一九、九〇六、九〇	一七、〇	一三、〇

小名木川

五間堀川　六間堀川　大横川支川　大横川　横十間川　北十間川　横山谷堀川　新堀川　須賀堀川　三味線堀川　田川　戸川　閑川　堀川　東堀留川　龍濱町

(北及東本所區松井町三丁目十二番地六間堀川分歧點ヨリ江島橋大島橋等ニ至ル)　(町二丁目ヲ經テ小名木川ニ至ル)　(南及西深川區東森下町六間堀川分歧點ヨリ森下町十番地ヲ經テ小名木川ニ至ル)　(本所區松井町二丁目十一番地整川分歧點ヨリ松井町三丁目十二番地ヲ當盤町一丁目七番地小名木川ニ至ル)　(本所區元町尾上河岸隅田川口ヨリ同區松代町三丁目旅所橋十間堀川ニ至ル)　(東深川區西平井町一番地先ヨリ本所區中ノ郷業平町ニ至ル)　(西深川區木場町廿番地ヨリ木所區中ノ郷八軒町ニ至ル)　(深川區茂森町三番地ヨリ屬町二番地ニ至ル)　(南、南源郡境ヨリ柳島橋橋齋角ニ至ル、北深川區豊住町ヨリ本所區柳島橋ヤ塗ニ至ル)　(南本所區向島町押上町十間堀東橋ヤ隅ヨリ小梅瓦町十三番地先小梅橋等ニ至ル)　(北押上町一六六番地ヨリ中ノ郷樂平町十八番地先小梅橋等ニ至ル)　(北本所區小梅瓦町ヨリ隅田川ニ至ル、南本所區中ノ郷八軒町ヨリ同瓦町ニ至ル)　(本所區諸地町一六一番地郡界ヨリ向島仲ノ郷ヲ經テ小梅瓦町源森川ニ至ル)　(淺草區地方今戸町ヨリ同區今戸町ニ至ル)　(阿部川町ヲ經テ三味線堀ニ至ル)　(北淺草區御藏前片町ヨリ須賀橋ヲ經テ隅田川ニ至ル)　(南淺草區須賀町ヨリ須賀橋ヲ經テ隅田川ニ至ル)　(西下谷區竹町大下水ヨリ向原原猿屋町ヲ經テ新堀川須賀堀落合ニ至ル)　(東下谷區小島町ヨリ福富ヲ經テ須賀堀ニ至ル)　(牛込區神楽坂一丁目十二番地先門橋東詰ヨリ淺草區下平右衛門町廿四番地先柳橋東詰ニ至ル)　(小石川區關口町一四九先駒塚橋東詰ヨリ船河原橋際市兵衛河岸ニ至ル)　(北龍閣橋際ヨリ玉出橋際ニ至ル)　(南同上)　(E東神田區柳原橋ヨリ日本橋區湊町三丁目ニ至ル)　(W西同上)　(B北日本橋區法恩寺橋ヨリ西萬河岸ニ至ル)

一、三、三	一、五、五	二、七、五	二、七、五	二、七、五	三、三、七	三、二、二	四、一、〇							
二、九、三	三、一、七	四、二、七	四、二、七	四、二、七	五、〇、〇	五、一、〇	五、二、〇							
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	二、五、三									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	三、五、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	三、五、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	四、二、七									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	五、〇、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	六、〇、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	七、〇、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	八、〇、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	九、〇、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、一、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、一、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、一、〇									
一、九、三	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、九、四	一、一、〇									

西堀留川
箱崎
日本橋川
砲洲川
島川

古月佃
鐵龜新
楓櫻入築
京川
船地
三十間堀川
島川
支川
濶川
富川

西日本橋區荒布橋ヨリ米河岸ニ至ル、東河岸同所ヨリ小
北日本橋區箱崎橋ヨリ大橋除ニ至ル、南河區箱崎橋除ヨ
リ中洲ニ至ル。
南日本橋區一石橋ヨリ大川堀ニ至ル、南河區箱崎橋除ヨ
リ中洲ニ至ル。
北同區同橋ヨリ豐海橋除ニ至ル。
京橋區明石町廿二番地先渡橋々臺ヨリ本湊町廿二番地先
ニ至ル。
東商京橋區寄島町ヨリ新船松町ニ至ル。
西北日本橋區茅場町ヨリ同區深河岸ニ至ル。
東京橋區宮島町ヨリ新船松町ニ至ル。
西京橋區鎌島ヨリ三ノ橋除ニ至ル。
東京橋區高代町一番地ヨリ日本橋川口ニ至ル。
西同區木本町ヨリ日本橋川口ニ至ル。
北京橋區北櫻河岸ヨリ本八丁堀五丁目十二番地先ニ至ル、
南同區八丁堀ヨリ本湊町ニ至ル。
西京橋新富町ヨリ南新富橋ニ至ル東同區北船見橋ヨリ新
富橋ニ至ル。
大川右岸勝閑渡ヨリ築堤一圓ヲ園鏡スル一川、明石町榮
西門司町明石橋ニ至ル一周、猿離宮ノ北部竝海軍大學
區南納屋町北緋屋町比丘尼橋ヨリ竹河岸白鳥橋ニ至ル南同
東、京橋區沙留川ヨリ京橋川ニ至ル西同上。
至ル
南芝區土橋ヨリ隅田川ニ至ル北京橋區土橋ヨリ隅田川ニ
至ル
ヨリ麻布區富士見町界ヨリ原宿界(廣尾町)ニ至ル北同區同町
北月島ヨリ河岸通リ六丁目八番地先ヨリ東河岸通リ六丁目
八番地ニ至ル南同リ六丁目二番地ヨリ東河岸七丁目ニ至ル
北同區十番地ヨリ新田町一丁目廿二番地ニ至ル南同島
西河岸通リ一丁目二番地ヨリ東河岸通リ一丁目二番地ニ
至ル
北船原四二番地ヨリ五六番地ニ至ル南佃町十一番地ヨリ
三番地ニ至ル
深川區東平野町仙塗堀ヨリ扇橋町二丁目大横川ニ至ル
橋々臺神田川出口ニ至ル

西堀留川	三、六五、九〇	一九、五	一、七、六〇
箱崎	一、五、七〇	〇、七、五	一、三、一
日本橋川	一、五、四〇	〇、七、五	一、九、六
砲洲川	一、五、三〇	〇、七、五	一、九、六
島川	一、五、二〇	〇、七、五	一、九、六
支川	一、四、九〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、四、八〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、四、七〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、四、六〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、四、五〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、四、四〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、四、三〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、四、二〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、四、一〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、四、〇〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、三、九〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、三、八〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、三、七〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、三、六〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、三、五〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、三、四〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、三、三〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、三、二〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、三、一〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、二、九〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、二、八〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、二、七〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、二、六〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、二、五〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、二、四〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、二、三〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、二、二〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、一、九〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、一、八〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、一、七〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、一、六〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、一、五〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、一、四〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、一、三〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、一、二〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、一、一〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、一、〇〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、一、九〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、一、八〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、一、七〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、一、六〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、一、五〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、一、四〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、一、三〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、一、二〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、一、一〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、一、〇〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、一、九〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、一、八〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、一、七〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、一、六〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、一、五〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、一、四〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、一、三〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、一、二〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、一、一〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、一、〇〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、一、九〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、一、八〇	〇、七、五	一、五、五
西堀留川	一、一、七〇	〇、七、五	一、五、五
箱崎	一、一、六〇	〇、七、五	一、五、五
日本橋川	一、一、五〇	〇、七、五	一、五、五
砲洲川	一、一、四〇	〇、七、五	一、五、五
島川	一、一、三〇	〇、七、五	一、五、五
支川	一、一、二〇	〇、七、五	一、五、五
濶川	一、一、一〇	〇、七、五	一、五、五
富川	一、一、〇〇	〇、七、五	一、五、五

第四十表 東京市内河川航行最大船舶調
 (大正五年東京市調査)

箱崎川支川	深川區吉永町七番地先ヨリ同上五番地ニ至ル	西同上	六八〇、八〇	七四〇
深川區平久町地先埋立地内	深川區平久町二丁目地先洲崎川ヨリ鹽濱町地先海面ニ至ル	ニ至ル	五九、五〇	一、七九、〇〇
深川區平久町立地内	深川區平久町一二丁目地先ト鹽濱町間	ニ至ル	一〇五、三〇	二、〇五、〇〇
深川區平久町及越中島地先埋立地内	深川區鹽濱町及埋立地一號地間東端ヨリ越中島及二號地間西端ニ至ル	ニ至ル	三〇九、四〇	三、〇二九、四〇
深川區月島地先埋立地内	深川區新宿町日ノ出町北端ヨリ第一號地第二號地間南端ニ至ル	ニ至ル	五四、九〇	一、三三、八〇
芝區芝浦理立地内	芝區金杉新宿町南演町間	ニ至ル	一五、四〇	一、四七、〇〇
芝區新芝町第五號地間北端ヨリ第三第四號地間東端ニ至ル	芝區南演町新芝町間ヨリ第一第三號地間南端ニ至ル	ニ至ル	二九、〇〇	一、九〇、〇〇
			二七九、一〇	一、七九、一〇
			二九、〇〇	一、七九、一〇
			一六、三四六、〇〇	一、六、三四六、〇〇
			一〇、七九、〇〇	一、〇、七九、〇〇
			九六、五〇	一、九六、五〇
			八一、八〇	一、八一、八〇
			七一、一〇	一、七一、一〇
			五九、一〇	一、五九、一〇
			三七九、〇〇	一、三七九、〇〇
			二九、〇〇	一、二九、〇〇
			一五、〇〇	一、一五、〇〇
			一〇、〇〇	一、一〇、〇〇
			五、〇〇	一、五、〇〇
			一、〇〇	一、一、〇〇

荷足船

普通ノ漁船形ニシテ船體輕瘦ニ構造サレ前後ノ上下少ク船首甚シク傾斜ス重ニ小荷物運送及飛脚船等ニ使用サル

傳馬船

〔荷足船ヨリ堅牢ニ構造サレ重ニ大形ノ荷物船トシテ湖川上ニ使用サレ積載量力比較的強クシテ波浪ニ對シテ最モ不適當ナルモノナリ〕

達磨船

〔構造西洋形ニシテ船首、船尾共同形ヲナシ中ニハ甲板ヲ有スルモノアリ純粹ノ貨物船ニシテ積載量頗ル大ナリ用途ハ五大力船ニ同シ但シ港外ノ使用ニモ適ス〕

高瀬船

〔船體輕淺ニ構造サレ船首、船尾著シク突出シ貨物船トシテ淺キ河川ニ使用セラレ又棹ニヨリテ之ヲ操縦スルニ便ナリ〕

倉船

〔船體稍ヨ達磨船ニ類似シ總甲板ニシテ船内ノ雨濕ヲ防ク様ニ構造セラレ揮發物等ヲ載積スルニ使用セラル〕

手操船

漁船ニシテ船首著シク突出シ船尾ニハ「タツ」ヲ有シ帆走頗ル快速ニシテ波浪間ヲ航行スルニ適ス

茶船

荷足船ノ變形セルモノニシテ艤ニ「タツ」ヲ有シ河川ノ荷物運搬等ニ使用セラル

改良達磨船

船體ハ和船ノ如ク敷及棚ヨリ構成セラレ船首船尾ニ至リテ同形ニ尖リ其ノ用途達磨船ニ同シ

神奈川傳馬船

幅廣キ敷ヲ有シ船首偏平ニシテ多ク甲板ヲ有シ其レニ框ヲ備ヘ重ニ石材、土砂等ノ運送ニ便利ナリ

長船

〔吃水淺キ船ニシテ極メテ輕快ニ構造セラレ船首ハ著シク突出シ多クノ曲體部ヲ有セス輕貨物、運送用トトシテ淺キ河川等ニ便ナリ〕

オバケ達磨船

達磨船形ニシテ艤ハ荷足船形ナリ用途其ノ他ハ荷足船、達磨船ト同一ナリ

朽木ベカ船

〔三角形ノ船ニシテ中棚ヲ有セス上棚ハ廣キ敷ニ殆ト直角ニ取付ケラレ船首ハ偏平ナリ輕貨物運送用トシテ極メテ淺キ河川及湖水等ニ甚タ便ナリ〕

達磨船、五大力船、團平船ハ近海航路ニ、荷足船、倉船、手操船、茶船、神奈川傳馬船、長船、改良達磨船、オバケ
 達磨船ハ平水航路ニ、高瀬船、傳馬船、茶船、ベカ船ハ湖水航路ニ使用スルモノナリ

第四十一表 東京市内及隣接町村船舶表 (大正六年十月現在)

町區及村隣名接	日本形船 五十石未滿	日本形船 五十石滿	日本形船 五十石未滿	日本形船 五十石滿	漁船 五十石未滿	小廻船	遊船	日本形船 五七石以上	西洋形船 四噸未滿	西洋形船 五噸以上	計
麹町區	二	一〇一	一	一	三三四	一	一	二六	二九	二四	一
神田橋	一	一四八	一	一	五六三	一	一	二六	二九	二四	一
日本橋	一	一六三	一	一	三五三	一	一	二六	二九	二四	一
牛込谷川	一	一六一	一	一	四〇	一	一	二六	二九	二四	一
赤坂谷川	一	一六一	一	一	八五	一	一	二六	二九	二四	一
麻布谷川	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
芝谷川	一	一六一	一	一	八九	一	一	二六	二九	二四	一
品川谷川	一	一六一	一	一	八六	一	一	二六	二九	二四	一
下石川	一	一六一	一	一	八九	一	一	二六	二九	二四	一
深川谷川	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
本郷谷川	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
牛込谷川	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
赤坂谷川	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
坂町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
淀橋町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
内藤新宿町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
久谷町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
大久保町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一
澁谷町	一	一六一	一	一	九〇	一	一	二六	二九	二四	一

本調査會ハ大體ニ於テ附圖第六號ノ如キ案ヲ適當ナリト認メタリ今該計畫ノ大要ヲ述フレハ左ノ如シ

第一節 計畫ノ要領

第九章 東京築港

備考 砂村ハ風水害ノ爲帳簿書類流失セシヲ以テ調査ノ途ナク之ヲ除ク

	合	砂	寺	巣	大	龜	吾	南	目	高	巣	日	瀧	戸	千	駄	崎	大
二四	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、六六一	一	五	一	一	一	一	三	七	三	五	八	四	四	一	一	一	一	一
一、七三三	一	三	一	一	一	一	五	三	五	七	四〇	六	一	一	一	一	一	一
七七四	一	八	一	一	一	一	四〇	六	二	三	一	四	四	一	一	一	一	五
一一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四四	一	二	一	一	一	二	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三三四	一	七	一	一	一	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五四六	一	五	七	三	一	一	六	三	一	五〇	一	二	四	四	一	一	三	五

一 前 港

港門ノ幅員(突堤ノ中心間隔)

港門ノ水深

前港水面積

同上浚渫水面積

前港附近埋立地面積

百五十間
四十五尺(大潮干潮面以下)
十五萬六千八百坪

二、大船運河

總延長

運河敷幅員

運河水面ノ幅員

三、大船繫泊地

總水面積

浚渫面積

船舶收容數

四、芝浦大船溜

總水面積

浚渫面積

船舶收容數

五、芝浦小船溜

總水面積

三萬坪

四千九百九十間

四十五間

六十一間(大潮干潮幅員ニ於之)

百十四萬三千坪

七十三萬九千坪

四十隻

四萬五千坪

三萬五千坪

二隻

周圍ニ水深十二尺ノ物揚場ヲ圍繞ス

六、本港内埋立地

芝浦地先埋立地面積

五十六萬八千五百坪

月島隣接埋立地面積

七十四萬坪

埋立地間小運河延長

五千九百七十間

運河及船溜ノ浚渫深度

前記運河及船溜ノ浚渫深ハ工事施行上便宜ノ爲第一着手事業トシテ大潮干潮面以下二十五尺ニ浚渫シ發達ノ程度ニ應シテ漸次水深ヲ増加スルノ方針ニシテ第一期及第二期事業（附圖第六號參照）ニ屬スル埋立地ハ此ノ浚渫土ヲ殆ト全部利用シタルモノトス是レ或ハ其ノ規模ノ小ニ過クルノ感アルカ如キモ現ニ横濱港ノ出入船舶統計ニ依レハ吃水十二尺以上ノ入港船ノ九割ハ實ニ入港吃水二十四尺以下ナルニ徵セハ港内二十五尺ノ水深ハ（三四千噸級汽船）東京港第一着手ノ規模トシテ最モ實利的ノモノナルヘシ他日運河幅員ノ擴大及運河船溜水深ノ増加ヲ必要トルニ至レハ只浚渫ヲ施セハ可ナルノミ

其ノ他ノ設備

築港附帶設備

一、本船横付設備

東京市海運貨物ノ狀態ハ本船東京港ニ入ルモ解取リノ上市内隨所ノ倉庫ニ收藏セラル、モノナルヲ以テ岸壁、機橋等ノ本船横付ノ設備ハ初メヨリ施行スルニ及ハサルヘク實際ノ必要ニ迫リテ適宜ニ之ヲ設備スルモ遲カラサラン

一、危險物揚場豫定地

石油其ノ他ノ危險物ヲ塔載スル船舶ハ之ヲ第二、第六砲臺以外ニ設クヘキ特別船渠ニ入ラシムヘク危險物揚場トシテハ之ニ接スル埋築地ヲ充當スルノ豫定ナリ

一、築港附帶事業トシテ上屋、倉庫、鐵道、機橋、船舶給水並貯炭所、貯水所、造船所、修繕船渠等ノ設備モ必要ニ應シ便宜之ヲ計營スヘキモノトス

一、吾妻橋以下隅田川筋ノ浚渫並整理ハ本計畫ニ伴フテ最モ其ノ必要ナルヲ見ル
一、若シ夫レ本築港計畫ニシテ將來狹隘ヲ感スル時機アリトセハ圖面ニ(第三期計畫)示ス如ク更ニ隣接シテ船溜及埋立地ヲ造ルコト任意タルヘシ

(ロ) 希望事項

本調査會ハ東京築港計畫ニ對シ水陸連絡設備ノ見地ヨリ左ノ希望事項ヲ附加セントス

- 一、越中島地先埋立地A印ノ地帶ヲ鐵道船舶直通荷物聯絡設備豫定區域トシテ保留シ置クコト
- 二、芝浦地先埋立地B印ノ地帶ヲ品川方面ニ於ケル鐵道船舶聯絡設備豫定地トシテ保留シ置クコト
- 三、埋立地内鐵道引込線ノ小運河ヲ橫斷スル鐵道橋梁ノ桁下高ハ船舶航行ノ關係上充分ナル高ヲ保タシムルノ必要アルヲ以テ引込線豫定位置附近ノ埋立地ハ之ニ應スル高サニ埋築スルコト
- 四、芝浦埋立地ト市内トノ交通聯絡ヲ容易ニスル爲現在ノ鐵道線路ニ相當ノ改良ヲ施スコト

第二節 參考記事

参考ノ爲東京港利用ノ貨物ニ就テ左ニ記述スル所アラントス

現在東京市ニ出入スル海運噸數ハ一箇年四百萬噸ヲ超ユルモノニシテ本船トノ荷役關係上之ヲ左ノ三種ニ大別スルヲ得ヘシ(大正六年ノ調査)

一、横濱港荷役ノモノ	約三百六十萬噸
二、品川沖荷役ノモノ	約三 萬 噸
三、隅田川内荷役ノモノ	約四 十 六 萬 噸
計	約四百九萬噸

今之ヲ内外國貿易並輸出入ノ區別ニ依リテ示セハ次表ノ如シ

第四十二表 東京市出入ノ海運貨物噸數表 (自大正六年一月至同年十二月)

八四

區別	内航			外航			物
	横濱荷役	品川荷役	川内荷役	横濱船板	品川船板	帆船板	
輸出	二五、三七 <small>噸</small>	一四、三五 <small>噸</small>	六七、三五 <small>噸</small>	三四、九二 <small>噸</small>	四九、二三四 <small>噸</small>	五四、八八 <small>噸</small>	一、〇〇九、〇五二 <small>噸</small>
輸入	一八、三九、元三 <small>噸</small>	一七、一五 <small>噸</small>	二三、八九 <small>噸</small>	二五、四〇 <small>噸</small>	二、二六、八〇四 <small>噸</small>	三、〇六五、二元七 <small>噸</small>	
計	二二、三四、五〇 <small>噸</small>	三、五五 <small>噸</small>	八一、三二 <small>噸</small>	二六、三九二 <small>噸</small>	一、四七、三一 <small>噸</small>	四、〇九四、三四九 <small>噸</small>	計

右四百萬噸ノ海運貨物中横濱及品川沖荷役ニ屬スル三百六十三萬噸ノ貨物ノ取扱ニ關シテハ現ニ切實ニ東京築港ノ必要ヲ感シツ、アルモノト云フヘシ換言スレハ其ノ前面ニ海灣アルヲ忘レテ何等之ヲ開發シ之ヲ利用スルニ意ヲ用キサル間ハ其ノ對價トシテ常ニ一年四百萬噸ノ貨物ニ對シ輸送上ノ手數ニ於テ消費時間ニ於テ將危險負擔ニ於テ殊ニ其ノ多額ノ運送費ニ於テ莫大ノ損失ヲ引受ケツ、アルモノト云ハサルヘカラス况ニヤ從來ノ統計ニ依レハ京濱間水運貨物ハ一年約十萬噸ノ増加ヲ示シツ、アルニ於テオヤ

茲ニ特ニ注意ヲ要スヘキハ東京市カ年々直接ニ需用シ消費シツ、アル莫大ナル内國貨物ノ水運狀態ナリ即チ事ノ外國貿易ニ關スルモノハ暫ク之ヲ別トシ單ニ内國品ノミニ就テ見ルモ石炭、米穀、雜貨、砂糖、食鹽ヲ主トシ其ノ他ノ雜品ノミヲ以テスルモ一年二百十五萬噸ノ内國品ハ孰レモ本市日常ノ需用ヲ目的トシテ遠キハ北海道、九州乃至臺灣等ノ遠距離ヨリ僅々二三千噸級ノ内國船舶ニ依リテ回送シ來ルニ過キサルモ奈何セン東京市水運ノ利便未タ舉カラサルカ爲ニ直接東京市ニ回航ノ途ナク已ムナク横濱若ハ品川沖合ニ投錨シテ夫レヨリ貨物ヲ解舟ニ移載シ曳船ニ連曳セラレ以テ辛フシテ東京市ニ到達スルニアラスヤ即チ之カ爲ニ蒙ムル所ノ運賃、手數、遲滯、手違ヒ並危險ノ負擔ハ當然市民ニ轉嫁サルヘキモノニシテ市民ハ常ニ夫ニ相當スル高價ノ物品ヲ使用シツ、アルニ外ナラス

東京築港本來ノ價值ハ東京市自體ニ取リテハ頗ル多種多様ニシテ一々計數ノ上ニ之ヲ明示シ能ハサルコト勿論ナリト雖茲ニ先ツ其ノ利益ノ最モ手近キモノトシテ東京市海運貨物ノ八割九分ヲ占ムル京濱間解舟運送貨物ニ對シ能ク幾何

東京市海運貨物ノ八割九分
ハ京濱間解舟運送
貨物ナリ

ノ運賃ヲ輕減シ得ヘキカラ觀シニ近年運送費ハ異數ノ暴騰ヲ來セルモ計算ヲ内輪ニ見積ル爲特ニ歐洲戰爭開始前日本郵船株式會社ノ調査ニ係ルモノヲ示セハ實ニ左ノ如シ

(甲) 現在ノ場合

外國貨物 一噸ニ對スル費用 壱圓八拾五錢

内國貨物 同上 壱圓拾七錢五厘

但シ横濱ニ於ケル本船ヨリ解取(外國貨物ハ船中検査ヲ經テ)直ニ東京ニ輸送ノ場合ヲ取ル

(乙) 東京港竣工ノ場合

外國貨物 一噸ニ對スル費用 八拾貳錢七厘

内國貨物 同上 五拾九錢貳厘

但シ東京入港ノ本船ヨリ解取(外國貨物ハ船中検査ヲ經テ)直ニ市内隨所ノ倉庫へ引取ノ場合ヲ取ル

右(甲)(乙)ヲ對比スレハ即チ東京港ノ利用ニヨリテ運送費ノ輕減セラヘキモノ

外國貨物ニアリテハ 壹圓貳錢參厘

内國貨物ニアリテハ 五拾八錢參厘

故ニ東京築港ニ當然ノ關係ヲ有スル京濱間出入貨物ノ現在噸數ヲ以テスレハ

外國貿易貨物一年約百四十七萬噸ニ對スル運送費節減額 百五十萬圓

内國貿易貨物一年約二百十二萬噸ニ對スル運送費節減額 百二十三萬圓

合計一箇年三百五十九萬噸ニ對スル運送費節減額 二百七十三萬圓

即チ毎年約二百七十三萬圓ノ巨額ハ先ツ最モ手近キ利益トシテ之ヲ東京市民ノ負擔ヨリ輕減セシムルヲ得ヘク從ツマ
約二箇年^{テ一箇年}三十萬圓^ヲ損失^ヲナシ^テ築港ニ投シテ可ナルノ理ナリ現在ノ貿易噸數ニ於テ尙且然リ若シ之ニ毎年ノ貿易増進額ヲ見込マ
ハ將來ノ利得恐ラク大ナルモノナラン

加之東京港ヲ利用スヘキモノ、中ニハ前記横濱港荷役ノ分ヲ除キテ別ニ品川沖荷役三萬噸及隅田川内荷役四十六萬噸ノアルアリ現ニ風濤ノ危険ヲ冒シテ品川沖合數哩ノ堆點ニ假泊シ辛フシテ船舟荷役ニ從ヒツ、アル一年約三百隻ノ船舶諸掛費ト其ノ貨物運送費トニ想到セハ其ノ利ノ存スル所亦頗ル明白ナリ是レ實ニ東京港ヲ必要トスル所以ナリトス

第十章 公園

第一節 沿革

東京市ノ
公園ハ神社佛閣ノ境内地多シセルヨ

公園ハ都市ノ肺臍タルノ作用ヲ爲スモノニシテ之カ施設ノ如何ハ都市ノ保健上ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ由來東京市今日ノ公園ノ存在ハ「古來ノ名所舊跡ニシテ公有地ニ屬スル場所ハ永ク萬人偕樂ノ地タラシムヘシ云々」テフ明治六年大政官布達ニ基キタルモノニシテ其ノ多クハ神社佛閣ノ境内地等ヲ利用シテ之ニ多少ノ加工ヲ施シタルニ過キス故ニ發達シタル理想的公園眼ヨリ觀ルトキハ其ノ不完全ナルヲ免レサルヘシ然レトモ東京市ハ著々既設公園ノ改良ヲ爲スト同時ニ盛ニ小公園ヲモ増設シテ兒童ノ遊戯場並附近住民ノ逍遙場ニ充テツ、アリ

第二節 東京市公園ノ現狀

現在東京
市ノ公園
數及面積

東京市内ノ公園ハ數ニ於テ三十三箇所此ノ面積六十九萬三百八十五坪（東京市總面積ノ百分ノ三）ニシテ其ノ内現在公開セル面積ハ五十萬四千五百三十四坪（東京市總面積ノ百分ノ二・二）ナリトス其ノ内上野公園ハ宮内省ノ管理ニ係リ富士見町（靖國神社境内）及牛ヶ淵公園ハ陸軍省ノ管理ニ係リ其ノ他ハ三四ノ神社境内ニ屬スルモノヲ除キ總テ東京市ノ經營ニ由ルモノトス尙市ノ管理ニ係ルモノニシテ郊外ニ在ルモノハ飛鳥山及井ノ頭ノ二公園ナリトス東京市内ニ於ケル公園中大公園トモ稱スヘキモノハ芝（一四六、〇三八坪）淺草（九〇、七三四坪）日比谷（五四、八三五坪）及上野（二五二、〇〇〇坪）ノ四公園ニシテ一ハ喬木老樹鬱蒼トシテ幽邃ノ境地タルニ他ハ娛樂機關一トシテ備ハラサルナキ雜鬧ノ地タルカ如キ或ハ一ハ近代式ニシテ他ハ天然式ナルカ如キ何レモ各其ノ特徵ヲ有セリ次ニ深川及麹町公

園ノ如キハ中公園トモ稱スヘキモノニ相當シ虎ノ門、數寄屋橋、淺草橋公園ノ如キハ所謂小公園ニ屬スヘキモノナリ
左ニ東京市内外ノ公園ヲ表示セン

第四十三表 東京市公園位置並面積表

公園名	總面積	內現在公開面積	公園名	總面積	內現在公開面積
淺芝麹深愛坂湯今齋若江千御島水	九〇、七三四	三五、八一〇	日待緣下白兩御士乃富牛小市	五四、八三五	五四、八三五
玉鳥草戸穀ノ水本岩	一四六、〇三八	六二、三六〇	比乳茶屋ノ寄ケ見士ケ	二、四三五	一、〇〇〇
谷川原池淵橋川宮町戸門谷島町山川町草	一一〇、二七七	九、二四一	谷山谷國手越橋谷水木野町淵計	一六、四三三	一六、四三三
	一六、九五五	四、〇五五		七、九一五	七、九一五
	四、七九三	一、七八四		二、四八一	二、四八一
	一、七八四	一、七八四		一、四〇〇	一、四〇〇
	三、七九七	二、八〇五		四、九〇三	四、九〇三
	三、七九七	二、九五二		八一六	八一六
	三、三二八	二、四六八		二、六〇〇	二、六〇〇
	二、四六八	一、〇一三		一、五〇〇	一、五〇〇
	一、〇一三	四二〇		八〇〇	八〇〇
	四二〇	四八九		一、三五〇〇	一、三五〇〇
	一、一八九	五、一四〇		二、六〇〇	二、六〇〇
	五、一四〇	六〇〇		八〇〇	八〇〇
	一、一七〇〇	三、八三三		一、三五〇〇	一、三五〇〇
	二、五〇〇	一、七〇〇		八〇〇	八〇〇
	三、七〇〇	一、一八九		二、五二、〇〇〇	二、五二、〇〇〇
	一、一八九	四二〇		二、七、五〇〇	二、七、五〇〇
	一、一八九	四八九		六九〇、三八五	六九〇、三八五
	一、一八九	五、一四〇		二五二、〇〇〇	二五二、〇〇〇
	一、一八九	六〇〇		二七、五〇〇	二七、五〇〇
	一、一八九	三、八三三		五〇四、五三四	五〇四、五三四
	二、五〇〇	一、七〇〇		一、三、六六二	一、三、六六二
	三、七〇〇	一、一八九		七二、八八七	七二、八八七
	一、一八九	四二〇		八六、五四九	八六、五四九
	一、一八九	四八九		五九一、〇八三	五九一、〇八三
合計	三十五箇所	三十三箇所	井ノ頭飛鳥山	二箇所	二箇所
市外	市外	市外	計	計	計
井ノ頭	飛鳥山	飛鳥山	小牛富上乃鳥土市數	小牛富上乃鳥土市數	小牛富上乃鳥土市數
			寄ケ見士ケ	寄ケ見士ケ	寄ケ見士ケ
			茶屋ノ	茶屋ノ	茶屋ノ
			谷山谷	谷山谷	谷山谷
			國手越橋谷水木野町	國手越橋谷水木野町	國手越橋谷水木野町
			計	計	計

ローチエスター	二四一、五二八	二二、二三八、八九六	二、二四七、二三四	五、三毛	五
平					
東京	二三九、八〇	三、〇九六、八七	九五、〇八	二、六	二、四
均					
				一〇三	三、九七

前表ヲ通覽スルニ公園面積ノ市總面積ニ對スル割合ノ最モ多キハ巴里市ニシテ百分ノ二十六ヲ占メ、華盛頓市ノ百分ノ十四、「ボストン」市ノ百分ノ十三、「デュッセルドルフ」ノ百分ノ十、倫敦府ノ百分ノ九之ニ次キ歐米二十三都市ノ平均ハ百分ノ五強ニ當レリ然ルニ東京市ハ公園面積ニ於テ百分ノ二、六豫定計畫總面積ニ於テ百分ノ三ノ割合ニ當リ歐米都市ニ比シテ其ノ割合尙小ナリ次ニ公園面積千坪ニ對スル現住人口ハ最大馬耳塞市ノ二千五十四人ニシテ里昂市ノ千六百六十五人、伯林市ノ千六百三十七人等之ニ次キ同シク二十三都市ノ平均ハ三百九十八人ニ當レリ然ルニ東京市ハ公開面積千坪ニ對シ實ニ三千九百七十六人既定計畫公園面積千坪ニ對シテ一千九百九十一人ノ割合ニ當レリ斯ク東京市ニ於テ公園單位面積ニ對スル現住人口ノ特ニ多數ヲ示セルハ一面人口ノ密度カ特ニ濃厚ナルニ依ルモノニシテ孰レヨリ見ルモ結局東京市ハ歐米大都市ニ比較シテ公園面積ノ割合少キカ如シ

第三節 増設豫想ノ小公園

歐米ノ大都市ハ必ス一乃至二以上ノ大公園ヲ有ス而シテ其ノ公園ノ施設古キモノニアリテハ市ノ中央部ヲ占領シ比較的最近ノ設備ニ係ルモノハ市ノ場末地域或ハ郡市境界附近ニ位置セリ、然ルニ此等ノ大公園ハ畢竟スルニ殆ト其ノ附近住民ノ利用ニ止マルモノニシテ比較的遠隔ノ住民ハ特ニ電車賃ヲ支拂ヒテ迄モ斯カル大公園ニ行クコト甚ダ稀ナルカ如シ而シテ事實市民ニ當時利用セラレ市民日常ノ慰安ニ貢獻スルモノハ寧ロ徒步距離内ニ散在スル小公園ナリトス故ニ都市ノ公園ヲ計畫スルニ方リテハ大公園ハ別箇ノ意義ヲ有シ其ノ施設ハ素ヨリ之ヲ必要トルモ宜シク市ノ何レノ部分ヨリモ徒步距離ノ間隔内ニ小公園ヲ紀列案配スルコト最モ肝要ナルヘシ尙市ノ中心地點ヨリ放射形ヲ爲ス道路ヲ利用シ之ニ公園的施設ヲ加味スル所謂公園道路トシテ開空地帶ヲ設ケ併セテ公園ト公園トヲ連絡スルカ如キハ全

徒步距離
ニ公園ノ間隔毎
必要アリ

市ニ對シ新鮮ナル空氣ノ疏通ヲ得セシムルノ理想的良法ナルカ如シ東京市ニ於テハ既ニ叙述シタル如ク附近住民ノ道遙地、兒童遊戯場トシテ小公園ノ増設ヲ圖リ來リシモ未タ徒步距離内ニ分布サル、ニ至ラサルナリ

依テ茲ニ土地ノ狀況等ヲ考察シ左表ニ示ス如ク更ニ三十八箇所ノ小公園(明治神宮外苑ハ大公園トス)ヲ新設スルノ必要ヲ認メタリ斯クスルニ於テハ各公園ノ一端ヨリ五丁(徒步距離)ノ位置ヲ中心トシ半徑五丁ヲ以テ圓ヲ畫クニ各圓ハ殆ト相接觸シ或ハ接觸セサル迄モ餘ス處ノ間隔ハ甚タ僅少ニシテ全市ハ此等ノ圓ヲ以テ殆ト充タサル、ニ至ル是レ市内何レノ部分モ其ノ徒步距離内ニ於テ小公園ヲ有スルノ狀態タルニ至ルヘキヲ證スルモノナリ

尙外濠沿道及芝、日比谷、上野、淺草公園ヲ連絡スル道路並其ノ他ノ循環大道路ハ成ルヘク公園式道路ト爲スマ希望スルモノナリ

第四十五表 市内増設豫想公園配置表(附圖第七號參照)

公	園	名	稱	面	積	公	園	名	稱	面	積
小	白	常	中	藏	金	根	富	春	後	傳	樂
田	魚	河	原	岸	町	洲	橋	前	士	院	通
盤	馬										
六〇〇〇〇	八〇〇〇〇	一、五〇〇〇〇	八〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇
志	廣	櫻	松	明	駿	須	矢	大	清	水	谷
田	ノ	外	宮	治	神	住	河	ノ	田	町	塚
町	橋	尾	田	苑	町	町	町	町	町	町	町
三〇〇〇〇	五〇〇〇〇	八〇〇〇〇	四〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇	三〇〇〇〇	八〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇

月全泉伊木平

島月利番崎見島海

町場寺橋岸

一、五〇〇

二、〇〇〇

三、〇〇〇

四、〇〇〇

計三十八箇所

芝向廻押菊川

川

浦浦島橋上橋

八〇〇

五〇〇

二〇〇

九〇〇

一六五、五〇〇

一六五、五〇〇

一六五、五〇〇

一六五、五〇〇

二、〇〇〇

二、〇〇〇

二、〇〇〇

二、〇〇〇

但シ面積ハ事情ノ許ス限リ之ヲ擴大スルノ要アルヘシ

右ノ計畫實行ノ曉ニハ市内公園ノ全市面積及人口ニ對スル割合ハ左表ノ如クナル

第四十六表 東京市内公園面積ト市内現住人口及市面積トノ割合

東京市ノ人口
同面積
二、三、四、九、八三〇人(大正六年志)

種別	個數	面積	面積ノ比率
市内公園公開ノ部分	三十三箇所	五〇四、五三四坪	○、〇二三
同上未成部分	三十八箇所	一八五、八五一	一六五、三八五
小交通調査會增設豫定	七十一箇所	六九〇、三八五	一六五、五〇〇
計	三六、四二	二九、三八	〇、〇三七
合ノ			

東京市内外交通調査委員

九二

大正六年五月本調査組織以來左の諸氏調査委員として調査に從事せられたり

帝國鐵道協會側委員

伊藤常夫君

西大助君

大藏公望君

岡田竹五郎君

岡野昇君

田中正平君

兒玉隼樺君

土木學會側委員

樺島正義君

吉村恵吉君

中山秀三郎君

近藤虎五郎君

宮島三郎君

又調査の便宜上調査事項を第一分科(鐵道事項)及第二分科(軌道、道路、水運事項)に分ち各々其の事項に隨ひ之が分擔
を定めたり

第一分科委員

主查　田中正平君

伊藤常夫君

西大助君

大藏公望君

岡田竹五郎君

岡野昇君

第二分科委員

主查　近藤虎五郎君

伊藤常夫君

大藏公望君

樺島正義君

吉村惠吉君

中山秀三郎君

兒玉隼樺君

宮島三郎君

以上列記せる委員の外左の諸氏は帝國鐵道協會及土木學會の會長又は副會長として常に會議に列席し調査遂行上指導の任に當り且有益なる援助を與へられたり

石黒五十二君

長谷川謹介君

野村龍太郎君

古市公威君

吉川阪次郎君

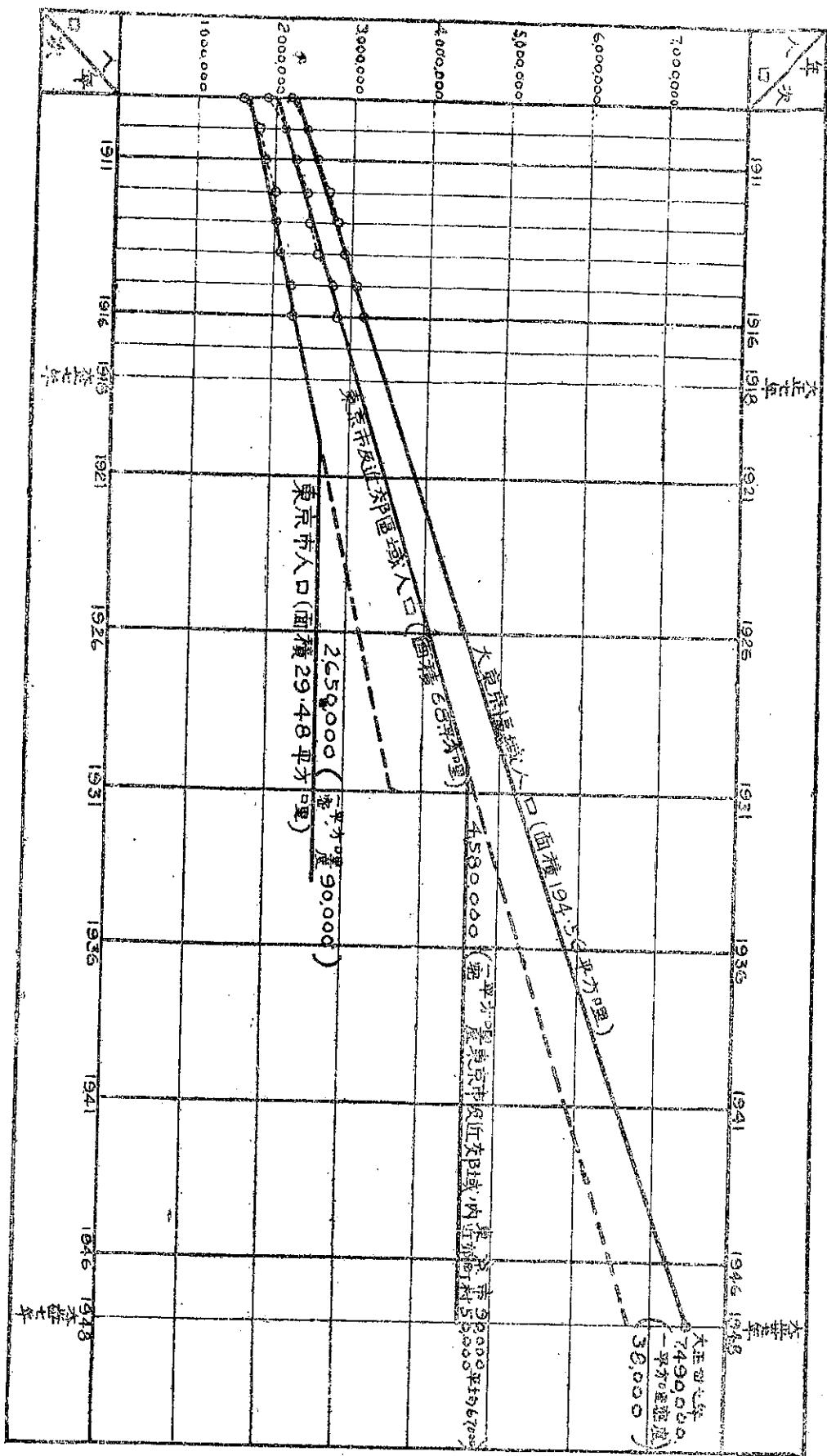
尙本調査の進行中左の諸氏は補佐の任に當られたり

山本鎮君

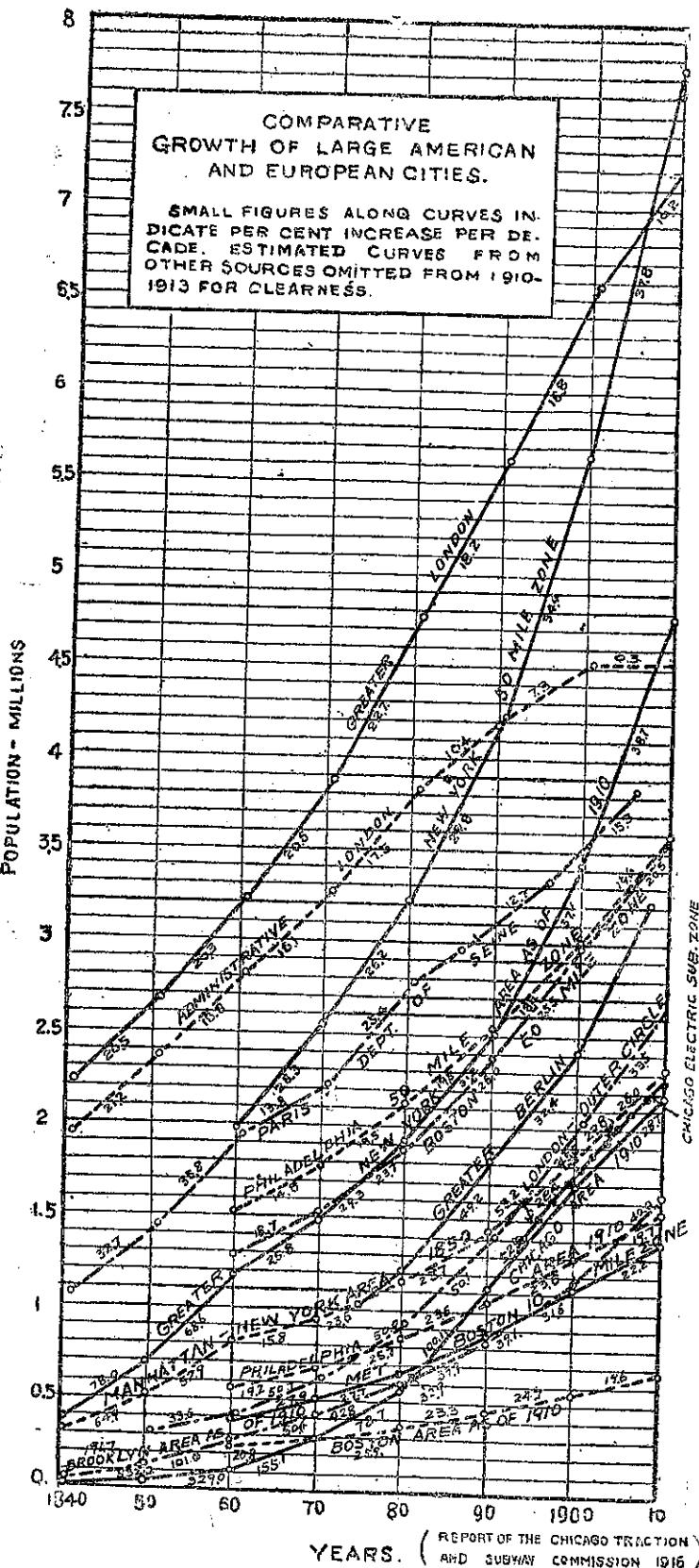
後藤佐彥君

笠置正君

第三表 東京市及大東京人口增加豫想圖



第四表



(20-98)

第八表

各國著名都市鐵道一覽表

1. 最近ノ統計

都 市	年 次	人 口	面 積 (平方哩)	人口密度 (一 平方 哩ニツキ)	都市鐵道軌道延長(哩)			人 ル 軌 道 百 萬 尺 ニ對ス (哩)	面積一 平 方 哩 ニ對 スル軌道 延長(哩)		
					高 速	路 面	計		高 速	路 面	計
大倫敦 (Metropolitan Police Limit)	1,912	7,321,978	693	10,600 (1)	303	654	957	41.4	89.3	130.7	0.4
倫敦府 (County London)	人口	1,911	4,521,685	117	38,600 (2)	200	289	489	44.2	63.9	108.7
大 巴 里 (Seine Department)	人口	1,907	3,885,000	181	21,500	113	1,016	1,129	29.1	261.5	290.6
巴 里	其他	1,912	2,888,110	31	93,200	113 (2)	270	383	39.1	93.5	132.6
大 伯 林 (Postal District)	人口	1,907	3,210,000	119	27,000 (3)	91	474	565	28.3	147.7	176.0
伯 林	其他	1,912	2,071,257	25	82,900 (2)	68 (2)	220	288	32.8	106.2	139.0
紐 育 市	人口	1,915	5,806,532	315	18,400 (4)	409	1,222	1,631	70.4	210.5	280.9
紐 育 マンハッタン 区	其他	1,915	2,590,455	21	123,400	179	315	494	69.1	121.6	190.7
紐 育 アルックリ ン 区	人口	1,915	1,990,614	78	25,500	177	453	630	88.9	227.5	316.4
市 鐵 古	其他	1,916	2,544,249	199	12,800 (5)	162	947	1,109	63.7	372.2	435.9
大ボストン (高速鐵道勢力範囲)	人口	1,915	1,161,257	89	13,000	33	478	511	28.4	411.6	440.0
東 京 市 及 近 郊	其他	1,917	2,943,469	68	43,300	67	176	243	22.8	59.8	79.1
大 東 京	人口	1,917	3,305,882	195	17,000	76	176	243	23.0	53.2	73.0

2. 擴張工事完成後ノ豫想

大 巴 里 (Seine Department)	-	-	181	-	162	-	-	-	-	-	0.9
巴 里	-	-	31	-	162	-	-	-	-	-	-
大 伯 林 (Postal District)	-	-	119	- (3)	141	-	-	-	-	-	5.2
伯 林	-	-	25	- (2)	95	-	-	-	-	-	1.2
紐 育 市	(豫想)	1,918	6,000,000	315	19,000	621 (6)	1,222	1,843	103.5	203.7	307.2
(7) 市 鐵 古 (第一期擴張完成後)	(豫想)	1,926	3,285,000	199	16,500	233	1,102	1,335	71.0	335.5	406.5
(7) 同 (第二期擴張完成後)	(豫想)	1,950	5,000,000	277	22,000	373	1,481	1,854	74.6	296.2	370.8

備考

- (1) 駅線ヲ除キタル延長不明ナルニヨリ推定ヲ加フ、大差ナキ見込ナリ、而シテ高速鐵道ノ性質ヲ帶ヒタル近郊蒸氣鐵道ヲモ含ム
- (2) 圖面上ニテ測定セル概數
- (3) 1,910年現在 Ringbahn 及 Stadtbahn ナ含ム
- (4) 市外ニ屬スルモノ 11.7 哩ヲ含ムテ市民專ラ利用スルモノナルニヨリ之ヲ加フ
- (5) 市外ニ屬スルモノ 22.76 哩ヲ含ムテ市民專ラ利用スルモノナルニヨリ之ヲ加フ
- (6) 將來ノ豫想不能ニ付1915年ト同一ト見做ス
- (7) Chicago Traction & Subway Commission 提案ニ據ル

第十四表 東京市内外高速鐵道計畫線路表

		總 路 名		經區 由 間 箇 所	他線トノ連絡箇所(及線名)	延長(哩) (道)	摘要	要
市	市	目 黑 千 住 線	日 黑、烏森、板倉、御成門、 茅場町、淺草橋、千住	目黒、 茅場町、 千住	新宿、 谷(玉川電氣鐵道) 橋(新宿葵橋線) 及東海道線)	二三、一	下鐵道一四哩全所ヨリ千住迄高架 鐵道九哩一分	
市	市	淺 草 向 島 線	淺草、向島	淺草、 向島	新宿、 谷(玉川電氣鐵道) 橋(新宿葵橋線) 及東海道線)	一〇	全部高架鐵道	
市	市	澁 谷 大 塚 線	澁谷、高樹町、六 本木、葵橋、烏森、 日本橋、萬世橋、挽町、 駕籠町、大塚、白山上、 本郷	澁谷、 高樹町、 六 本木、葵橋、 日本橋、 未廣町、 神田目、 大塚、 白山上、 本郷	新宿、 谷(玉川電氣鐵道) 橋(新宿葵橋線) 及東海道線)	二一、〇	澁谷起點ニ普通鐵道〇哩八分アル 外全部地下鐵道	
市	市	新 宿 葵 橋 線	新宿、市ヶ谷町、 伏見、宮邸附近、 葵橋附近、 新宿、 谷(中央線)	新宿、 谷(中央線)	新宿、 谷(中央線)	六、六	澁谷起點ニ普通鐵道〇哩八分アル 外全部地下鐵道	
市	市	池 袋 洲 崎 線	池袋、目白、 大曲、 坂上、 門、 錦町、 田戸	池袋、 目白、 大曲、 坂上、 門、 錦町、 田戸	池袋、 目白、 大曲、 坂上、 門、 錦町、 田戸	一七、六	新宿ヨリ伏見宮邸附近迄高架鐵道 一哩八分全所ヨリ葵橋迄地下鐵道	
市	市	東 京 上 野 線	上秋葉東京 萬代治野原町	上秋葉東京 萬代治野原町	上秋葉東京 萬代治野原町	二、四	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	萬 世 橋 兩 國 橋 線	萬世橋、兩國橋	萬世橋、兩國橋	萬世橋、兩國橋	四、四	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	東 北 本 線	田端、赤羽	田端、赤羽	田端、赤羽	二、八	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	中 央 線	中野、吉祥寺	中野、吉祥寺	中野、吉祥寺	九、六	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	總 武 線	兩國橋、市川	兩國橋、市川	兩國橋、市川	八〇	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	合 計				一五、〇	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	高 架 鐵 道				三七、〇	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	地 下 鐵 道				四〇、四	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	普 通 鐵 道				三四、一	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	外 内				四二、五	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	
市	市	總 武 線	兩國橋、市川	兩國橋、市川	兩國橋、市川	一、五	池袋ヨリ大隈坂附近迄高架鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈坂附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道九哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分	

第九表

各國著名都市各種交通機關乘客數

都 市	年 次	人 口	高 速 及 路 面 鐵 道 乘 客 數			人 口 一 人 當 一 年 乘 車 回 數			其 他 交 通 機 關 乘 客 數 (5)			各 種 交 通 機 關 人 口 一 人 當 乘 車 回 數			
			高 速 鐵 道	路 面 鐵 道	計	高 速 鐵 道	路 面 鐵 道	計	近 郊 鐵 道 (6)	乘 合 自 動 車 船 等	高 速 路 面 兩 鐵 道 之 合 總 計				
大 倫 敦	1,912	7,321,978	(1) 436,492,548	796,997,724	1,233,490,272	60	109	169	353,720,501	598,565,152	2,185,775,925	299			
倫 敦 府	人口	1,911	(2) 4,521,685	436,492,548	512,652,653	949,145,201	97	113	210	—	—	—			
大 巴 里	其 他	1,912	3,885,000	452,112,238	448,378,893	900,491,101	116	115	231	162,000,000	288,000,000	1,350,491,101	348		
巴 里	高 速 及 路 面	1,912	其 他	1,907	2,888,110	452,112,238	未 詳	—	157	—	—	—	—		
大 伯 林	人 口	1,911	其 他	1,912	(3) 3,210,000	255,247,255	603,804,989	859,052,244	80	188	268	(7) 111,500,000	204,000,000	1,174,552,244	366
紐 育 市	蒸 氣 自 動 車 船	1,907	其 他	1,915	5,806,532	888,880,577	918,752,149	1,807,632,726	153	158	311	80,000,000	312,000,000	2,199,632,726	379
紐 育 市	マ シ ハ ツ ラ ン 區	1,915	未 詳	445,551,116	—	—	160	—	—	—	—	—	—		
紐 育 市	ブ ツ ク リ ン 區	1,915	1,990,614	未 詳	354,700,113	—	—	178	—	—	—	—	—		
市 俄 吉	蒸 氣 自 動 車 船	1,907	其 他	1,916	2,544,249	180,654,632	686,071,644	866,726,276	71	270	341	90,000,000	30,000,000	986,726,276	388
大 ボ ス ト ン (4)	人 口	1,915	其 他	1,913	1,161,257	—	—	326,352,863	—	—	281	—	—	—	
東 京 市 及 近 郊		1,917	2,943,469	33,597,895	299,716,427	333,314,322	11	102	113	7,645,218	3,126,542	(8) 344,086,052	117		
大 東 京		1,917	3,305,882	33,838,903	299,716,427	333,555,339	10	91	101	20,595,218	3,126,542	(8) 357,277,090	108		

備 考 (1) 高速鐵道ノ性質ヲ帶ヒタル近郊蒸氣鐵道ヲ含ム

(2) 倫敦府ニ於ケレモノ未詳ナルモ大差ナカルヘキヲ以テ大倫敦ト同ード見做ス

(3) 1,910 年 Stadtbahn 及 Ringbahn の乗客ヲ加フ

(4) 高速鐵道勢力範圍

(5) 多クハ正確ナル統計ヲ得難キヲ以テ概数ヲ示ス

(6) 幹線鐵道ヲ利用シル近郊旅客ヲ含ム

(7) Ringbahn 及 Stadtbahn の乗客ヲ除ク

(8) 隅田川航行汽船乗客數

第十四表

東京市内外高速鐵道計畫線路表

總 路名	經由箇所	他線トノ連絡箇所(及線名)	軌長(哩)	摘要
目黑千住線	目黒、茅場町、大森、千住	新草場(池袋(池袋上電氣鐵道)及東海道線)	二三、一	目黒ヨリ淺草專賣局製造所前迄地 下鐵道一哩全所ヨリ千住迄高架 鐵道九哩一分
淺草向島線	淺草、向島	向島(京成電氣軌道及東武鐵道)	一、〇	全部高架鐵道
澁谷大塚線	澁谷、高樹町、六本木、大森、飯倉町、御成門、烏森、淺草橋、千住	澁谷(玉川電氣鐵道) 橋(新宿葵橋線) 通(目黑千住線及東海道線)	二一、〇	澁谷邑點ニ普通鐵道〇哩八分アル 外全部地下鐵道
新宿葵橋線	新宿、市ヶ谷、谷中町、大久保、江戸川橋、九段坂、錦町、永代橋、洲崎	新葵橋(京王電氣軌道) 谷(中央線) 橋(澁谷大塚)	六、六	新宿ヨリ伏見宮邸附近迄高架鐵道 一哩八分全所ヨリ葵橋迄地下鐵道
東京萬世橋線	上秋葉原町、東京萬世橋町	池袋(武藏野鐵道東上鐵道及山手線) 永飯田橋(中央線) 通(目黑千住線)	一七、六	池袋ヨリ神田上水附近點普通鐵道 二哩五分全所ヨリ大隈邸附近迄高架 鐵道一哩五分全所ヨリ九段坂迄高 架鐵道四哩四分全所ヨリ洲崎迄高 架鐵道九哩二分
東京上野線	上永樂町、東京萬世橋町	東京(東海道線) 池袋(池袋洲崎線)	二、四	(政府ノ計畫ニ一致ス)
東京萬世橋兩國橋線	萬世橋、兩國橋	萬世橋(東京上野線及澁谷大塚線)	四、四	(政府ノ計畫ニ一致ス)
中央線	中野、吉祥寺	萬世橋(東京上野線及澁谷大塚線)	二、八	(政府ノ計畫ニ一致ス)
東北本線	田端、赤羽	萬世橋(東京上野線及澁谷大塚線)	八〇	(政府ノ計畫ニ一致ス)
總武線	兩國橋、市川	萬世橋(東京上野線及澁谷大塚線)	一五〇	(政府ノ計畫ニ一致ス)
合計	内 高架鐵道 地下鐵道 普通鐵道	内 高架鐵道 地下鐵道 普通鐵道	一一、五 三七、〇 四〇、四 三四、一 六九、〇 四二、五	内 高架鐵道 地下鐵道 普通鐵道

